平成29年度

Shizuoka City Museum of Art　ANNUAL REPORT 2017

静岡市美術館年報　No.8

平成29年度　静岡市美術館年報　No. 8
Shizuoka City Museum of Art　ANNUAL REPORT 2017

目　次

1．基本理念・沿革
1－1　基本理念 …… 3
1－2　沿革 …… 3
1－3　平成29(2017)年度事業一覧 …… 4

2．展覧会事業
2－1　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時 …… 6
2－2　没後150年　坂本龍馬 …… 14
2－3　日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン …… 23
2－4　ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ …… 34
2－5　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん …… 41

3．交流事業(教育普及事業)
3－1　交流事業 …… 50
1)Shizubi Project 6「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」／2)Shizubiシネマアワー／3)しずびオープンアトリエ／4)しずびチビッこプログラム／5)暦とあそぶワークショップ／6)プレゼントワークショップ／7)夜店市
3－2　連携事業 …… 60
1)ミュージアム教室・展示解説／2)めぐるりアート静岡 まち ひと とき、むすぶ／3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」／4)静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業(三館共同事業)／5)キニナルスキニナルプロジェクト／6)その他施設との連携等

4．受託事業等
4－1　受託事業等 …… 67
1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展／2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山－清水が生んだ彩色木彫の名匠」

5．調査研究・研修受入等
5－1　調査研究 …… 69
5－2　刊行物 …… 70
5－3　博物館実習 …… 71
5－4　視察等受入 …… 71

6．収蔵品・図書等
6－1　収蔵品・画像貸出等 …… 72
6－2　図書等 …… 72

7．広報活動
7－1　広報印刷物 …… 72
7－2　ウェブサイト …… 73
7－3　施設広報記録 …… 74

8．管理運営
8－1　利用者数 …… 75
8－2　過去展覧会一覧 …… 80
8－3　静岡市美術館運営協議会 …… 83
8－4　組織図・職員名簿 …… 84
8－5　条例・施行規則 …… 85
8－6　施設・建築概要 …… 87

1．基本理念・沿革

1－1　基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の25階建ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念とし、展覧会、教育普及、調査研究活動を行っています。
展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。
また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。
駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク

静岡市美術館
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART

美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がりと、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザイン：柿木原政広（アートディレクター）

1－2　沿革

平成18(2006)年
3月　「静岡市文化振興ビジョン」策定

平成19(2007)年
3月　「(仮称)静岡市立美術館　基本計画」策定
7月4日　「葵タワー」着工

平成20(2008)年
3月　「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年
7月8日　美術館内装建築工事着工[内装設計：㈱丹青研究所、内装建築工事：㈱木内建設]
7月16日　静岡市美術館条例制定
11月12日　静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年
3月24日　静岡市が㈶静岡市文化振興財団を指定管理者に指定
3月31日　「葵タワー」竣工
4月1日　「葵タワー」オープン
4月21日　静岡市美術館竣工
5月1日　静岡市美術館開館・完成記念式典開催
9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施
10月1日　静岡市美術館グランドオープン記念式典開催
10月2日　開館記念展<Ⅰ>「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催（－11月28日）

平成23(2011)年
5月9日　当館のヴィジュアル・アイデンティティー（含：ロゴマーク）が「ワンショウ（ONE Show）」の銀賞を受賞

平成24(2012)年
1月4日　当館エントランスに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」が設置され、除幕式を実施

平成25(2013)年
9月14日　来館100万人達成記念式典を実施

平成26(2014)年
5月2日　静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年
3月20日　静岡市が（公財）静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定
5月1日　静岡市美術館開館5周年

平成29(2017)年
8月18日　展覧会観覧者100万人達成

※過去展覧会一覧は、80－82ページを参照。

1－3　平成29(2017)年度事業一覧

		展覧会	交流事業
平成29年(2017年)	3月		28日　Shizubi Project 6「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」<エントランス展示>(－6月18日)
	4月	アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時 4月8日－5月28日<開館45日間>	29日　暦とあそぶワークショップ vol.14「こどもの日の準備をしよう！」
	5月		6日　シズオカ×カンヌウィーク2017連動企画 Shizubiシネマアワー vol.20①『フリーダ・カーロの遺品　石内都、織るように』 7日　同　②『未来をなぞる　写真家・畠山直哉』 14日　プレゼントワークショップ vol.21「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」 20日　しずびチビッこプログラム①
	6月		4日　Shizubi Project 6「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」<展示室展示>(－18日) 同　同　アーティストトーク① 17日　同　映像と音楽によるライブイベント 18日　同　アーティストトーク② 同　プレゼントワークショップ vol.22「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」
	7月	没後150年　坂本龍馬 7月1日－8月27日<開館51日間>	
	8月		8日　しずびオープンアトリエ「龍馬のお手紙を巻き物に仕立てよう！」(－20日) 11日　第55回　静岡夏まつり夜店市(－13日) 26日　しずびチビッこプログラム②
	9月	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン 9月9日－11月12日<開館56日間>	
	10月		17日　めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ(－11月5日) 28日　しずびチビッこプログラム③－1 29日　しずびチビッこプログラム③－2
	11月		5日　めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ アーティストトーク
	12月	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ 11月23日－1月28日<開館54日間>	9日　プレゼントワークショップ vol.23「クリスマスの準備をしよう！」子ども編 10日　同　大人編
平成30年(2018年)	1月		6日　Shizubiシネマアワー vol.21①『ターナー、光に愛を求めて』 7日　同　②『セザンヌと過ごした時間』 20日　しずびチビッこプログラム④
	2月	白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん 2月10日－3月25日<開館38日間>	3日　暦とあそぶワークショップ vol.15「節分だ！鬼のお面をつくろう」 17日　しずびオープンアトリエ「白隠さんの禅画に触れてお軸をつくろう！」(－3月25日)
	3月		21日　しずびチビッこプログラム⑤

２．展覧会事業　目次

2−1　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時 …… 6

2−2　没後150年　坂本龍馬 …… 14

2−3　日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念
デンマーク・デザイン …… 23

2−4　ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ …… 34

2−5　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん …… 41

2．展覧会事業

2−1　アルバレス・ブラボ写真展
−メキシコ、静かなる光と時

会期：4月8日（土）−5月28日（日）

概要：20世紀写真史に大きな足跡を残したマヌエル・アルバレス・ブラボ（1902−2002）。メキシコ革命後の1920年代末に頭角を現し、最晩年の1990年代末に至るまで、一貫して独自の静けさと詩情をたたえた写真を撮り続けた。本展は作家遺族が運営するアーカイヴの全面的な協力を得て開催する、国内最大規模の本格的な回顧展で、192点のモノクロプリントと多数の資料により、約70年におよぶアルバレス・ブラボの足跡を辿った。

巡回先：世田谷美術館、名古屋市美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、Daiichi-TV、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、在日メキシコ合衆国大使館

特別協力：マヌエル・アルバレス・ブラボ・アーカイヴ

企画協力：クレヴィス

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、キヤノンマーケティングジャパン

観覧料：一般　1,000円（800円）
大高生・70才以上　700円（500円）
※（　）内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：6,208人（有料3,665人、無料2,543人、有料率59.04%）

出品点数：206点（うち資料14点）

1）チラシ
＜仕様＞紙：b7ナチュラル 99kg
サイズ・数量：A4 160,000部

2）ポスター
＜仕様＞紙：b7ナチュラル 99kg
サイズ・数量：B1 110部（うちJR帯付40部）、B2 1,900部、B3 2,900部（うちJR帯付500部）

チラシ表面

チラシ裏面

B1・B2ポスター

B3ポスター

カタログ：
＜仕様＞193×265mm、279頁

カタログ表紙

図版192点（すべてモノクロ）
参考図版（モノクロ113点）

アウレリア・アルバレス・ウルバフテル「内なる庭へ」
酒井忠康「アルバレス・ブラボの写真による詩－あいさつにかえて」
野谷文昭「アルバレス・ブラボと前衛の時代」
塚田美紀「静かなる光と時－マヌエル・アルバレス・ブラボの生涯と作品」
山田諭「アルバレス・ブラボと雑誌『メキシカン・フォークウェイズ』」
伊藤鮎「「ドキュメンタリー＆アンチ・グラフィック」展とアルバレス・ブラボ－1930年代におけるアメリカ写真の諸相をめぐって」

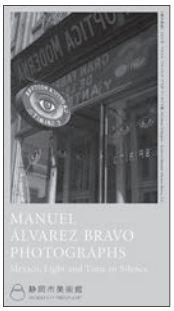
山田諭「コラム1　メキシコ壁画運動とアルバレス・ブラボ」
伊藤鮎「コラム2　シュルレアリスムとアルバレス・ブラボ」
塚田美紀「コラム3　メキシコの新しい舞台芸術とアルバレス・ブラボ」
山田諭「コラム4　メキシコ映画の黄金時代とアルバレス・ブラボ」
塚田美紀「コラム5　マヤ遺跡の調査とアルバレス・ブラボ」

地図／人物解説/年譜／「暗室の写真家」(写真資料)／Selected Exhibitions and Exhibition Catalogues/Selected Bibliography／日本語主要文献／国内公的コレクション／出品作品リスト／出品資料リスト／出品作品・撮影年順一覧

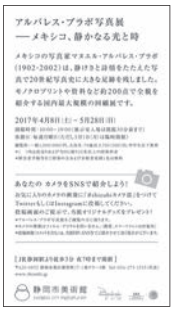
編集：塚田美紀、杉山悦子（世田谷美術館）、山田諭（名古屋市美術館）、伊藤鮎、以倉新（静岡市美術館）
編集協力：多田亞生、安井亮、大宮伸介、矢崎秀行
校閲：高橋賢
翻訳：ミシェル・スデルマン、ルイザ・ルビンファイン
発行：株式会社クレヴィス
発行年：2016年

普及ツール：
1）本展オリジナルDMの作成・配布
幅広い客層への広報の一環として、《眼の寓話》をメインビジュアルとしたオリジナルDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：
◆カード型DM
＜仕様＞紙：b7ナチュラル 99kg
サイズ・数量：68×123mm 15,000部



DM表



DM裏

2）ゴールデンウィーク特典の実施
ゴールデンウィーク中の有料鑑賞者各日先着30名にメキシコ産マヤビニックコーヒー（ドリップ1杯用）をプレゼントした。

実施期間：4月29日（土・祝）－5月7日（日）

3）ＳＮＳでの告知とフォトロケーションの設置
若年層向けの広報戦略として、ツイッターやインスタグラムでも告知を行い、愛用カメラの写真を投稿した観覧者に当館オリジナルグッズを配布した。また、展覧会情報拡散を期待し、作品の世界に入り込んだような写真が撮れるフォトスポットを館内に設置した。

4）プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施
会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。

実施日：①4月28日（金）②5月26日（金）
利用者数：①39件　②123件

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内等店舗および近隣のメキシコ料理店で、展覧会入場者への優待サービスの実施を行った。

印刷物：

チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部

協賛チラシ表

協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

・「静岡市美術館「アルバレス・ブラボ写真展」始まる」Daiichi-TV『NNNストレートニュース』および『news every. サタデー』、4月8日放送。

・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalcha!サタデー　静岡ドライブインフォメーション』、4月8日放送。

・「展覧会紹介」TOKAIケーブルテレビ『TCNワイド』、4月21日放送。

2)新聞

・「アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時」『読売新聞』静岡版、3月30日。

・「考え抜かれた構図　写真家ブラボ展　静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、4月9日。

・伊藤鮎「世界の二元性　静かに開示　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（上）」『読売新聞』静岡版、4月19日。

・伊藤鮎「世界との向き合い方示す　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（中）」『読売新聞』静岡版、4月20日。

・伊藤鮎「視角の戯れ　日常に潜む謎　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（下）」『読売新聞』静岡版、4月21日。

・高橋咲子「評　美術　アルバレス・ブラボ写真展　メキシコ、静かなる光と時　多様なイメージ喚起」『毎日新聞』（夕刊）全国版、4月26日。

3)雑誌他

・「アルバレス・ブラボ20世紀メキシコの肖像」『芸術新潮』、2016年9月号。

・「展覧会紹介」『Filo』、vol.3。

・「展覧会紹介」『PHOTOSAI　ふぉとさい　カメラ散歩』、vol.16。

・「展覧会紹介」『フォトテクニック　デジタル』、5月号。

・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、vol.41。

・「展覧会紹介」『美連協ニュース』、5月号。

・「展覧会紹介」『富士ニュース』、5月7日。

・「メキシコの巨匠の国内最大規模の回顧展　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時」、『Hot Pepper』4月号。

・「展覧会紹介」、『写真ライフ』No.108。

・「展覧会紹介」、『ひととき』4月号。

・「展覧会紹介」、『読売家庭版』3月号。

4)ウェブサイト等（媒体名のみ記載）

「Japan Design Net」、「IMA ONLINE」、「きんぼう」、「インターネットミュージアム」、「アットエス」、「ART NAVI」、「beatifull」、「artscape」

関連事業：

1)アルバレス・ブラボを知るⅠ
講演会「アルバレス・ブラボー恩寵と優美さ」
概要：南米滞在をきっかけに、アルバレス・ブラボを1980年代から日本へ紹介してきた港氏による講演会。写真家、批評家両方の視点からアルバレス・ブラボの写真について語った。メキシコを100年間眺め続けることができたアルバレス・ブラボの特異な存在を「恩寵」という言葉とともに紐解いた。また、被写体や写された状況、プリントの質などを考察する、写真家ならではの視点は、一枚の写真を読み解く面白さを伝える機会となった。
日時：4月16日（日）14:00－15:30
会場：多目的室
参加者数：54人
講師：港千尋氏（写真家・多摩美術大学教授）
主要広報記録：
◆新聞
・「写真家ブラボ展　来月16日講演会」『読売新聞』静岡版、3月30日。

2)アルバレス・ブラボを知るⅡ
講演会「静かなる光と時－アルバレス・ブラボの生涯と作品」
概要：本展の実質的な企画者である、塚田氏による講演会。アルバレス・ブラボの最初期と最晩年の作品を中心に、展覧会の見どころやメキシコでの調査の様子が語られた。日本では馴染みの少ない、メキシコの美術や写真について知ることのできる、貴重な機会となった。
日時：5月20日（土）14:00－15:30
会場：多目的室　　**参加者数**：43人
講師：塚田美紀氏（世田谷美術館　主任学芸員）
主要広報記録：
◆新聞
・「ブラボの写真や逸話紹介　静岡市美術館で講演会」『読売新聞』静岡版、5月21日。

3)当館学芸員によるギャラリートーク
概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを会期中実施した。一枚の写真を丁寧に読み解きながら、アルバレス・ブラボの人生や、当時の写真状況などを補足解説した。
日時：①4月29日（土・祝）②5月13日（土）
いずれも14:00－
会場：展示室　　**参加者数**：計28人
参加料：展覧会観覧料

出品作品リスト

※すべてマヌエル・アルバレス・ブラボ撮影。
※所蔵はすべて、メキシコシティのマヌエル・アルバレス・ブラボ・アーカイヴ。データは同アーカイヴより提供されたものを使用している。
※材質・技法はすべてゼラチン・シルバー・プリントだが、cat.no.011と013の2点は プラチナ・パラジウム・プリントである。

第1部　革命後のメキシコ―1920-30年代

第1章　モダニズムへ

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
1	城のなかの人物	1920s	24.0×18.0	8×10
2	砂と松の苗木	1920s	17.6×24.8	10×12
3	苔に覆われた岩	1927-29	18.0×24.3	8×10
4	紙の戯れ	1926-27	21.8×19.1	8×10
5	紙の波	1926-27	18.8×24.0	8×10
6	カボチャとカタツムリ	1928-29	24.3×18.8	8×10
7	小便をする子供	1927	24.2×19.0	8×10
8	木馬	1928-29	24.5×19.0	8×10
9	障害物	1929	25.8×34.2	11×14
10	アイスクリーム売りの二輪車についた小さな馬	1927	19.0×24.2	8×10
11	アイスクリーム売りの二輪車についた小さな馬(ネガ)	1927	12.3×15.7	8×10
12	マットレス	1927	18.8×23.6	8×10
13	マットレス(ネガ)	1927	19.0×24.2	8×10
14	トルソ	early 1930s	24.0×18.2	8×10
15	オルガン・サボテン	1929-30	23.7×17.4	8×10
16	皮をむいたヒカマ	1929	24.3×18.3	8×10
17	本	1930s	24.2×18.2	8×10
18	カーテン	1930	24.2×18.2	8×10
19	大聖堂のオルガン	c. 1931	24.7×19.8	8×10
20	道具	1931	26.5×34.3	11×14
21	ラ・トルテカ	1931	23.5×19.3	8×10

第2章　ざわめく街の一隅で

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
22	理髪師	1924	24.0×18.9	8×10
23	代書人	1920s	24.3×17.4	8×10
24	小さなピエロ	1929	24.0×18.5	8×10
25	二体の生皮と少女	1932	16.4×24.7	8×10
26	ボクサー	c. 1930	24.2×19.5	8×10
27	二組の脚	1928-29	23.5×19.0	8×10
28	眼の寓話	1931	34.2×25.8	11×14
29	鳥の店	1930s	23.8×19.0	8×10
30	ショーウィンドーの馬	c. 1931	23.8×18.7	8×10
31	マネキンと声	early 1930s	23.4×18.8	8×10
32	笑うマネキン	1930s	18.8×24.0	8×10
33	滋養強壮	1930	20.0×25.0	10×12
34	風景と奔馬	1932	18.4×24.2	10×12
35	彫像のかたわらの会話	1933-34	18.5×24.0	8×10
36	芸術の女	1933-34	18.2×24.2	8×10
37	身をかがめた男たち	1934	22.5×29.5	11×14
38	コヨアカンのライオン	1930s	19.5×24.7	8×10
39	トラックに乗った天使たち	1930	26.0×33.3	11×14
40	訪問	1935	17.0×24.0	8×10
41	この世の諸物と巡礼者	c. 1939	19.0×23.7	8×10
42	黒い哀しみ	1939	26.0×33.8	11×14
43	空に自転車	1931	18.8×23.8	8×10

第2部　写真家の眼―1930-40年代

第1章　見えるもの / 見えないもの

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
44	鳥を見る少女	1931	17.4×24.4	8×10
45	消された扉	1930	19.0×24.0	8×10
46	グアダルーペの町の壁	1930s	17.3×24.3	8×10
47	冬について	1939-40	24.3×17.8	8×10
48	舞踊の王と王妃	c. 1931	23.6×18.7	8×10
49	舞踊家たちの娘	1933	33.7×24.0	11×14
50	火気作業員	1935	23.5×19.4	8×10
51	パパントラの青年	1934-35	34.0×24.0	11×14

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
52	洗濯女たちの気配	1932	24.3×17.3	8×10
53	日食	1933	18.5×24.3	8×10
54	仕掛けられた罠 2	1934	24.0×16.6	8×10
55	仕掛けられた罠	1934	17.0×24.3	8×10
56	犬と雲の寓話	1930s	16.7×24.0	8×10
57	幻想の箱	1938	19.0×24.1	8×10
58	母	1930	24.0×18.5	8×10
59	夢想	1931	33.7×26.0	11×14
60	永遠なるものの肖像	1935	34.5×26.5	11×14
61	黒い鏡	1947	34.0×26.5	11×14

第2章　生と死のあいだ

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
62	死者の日	1932-33	24.0×17.8	8×10
63	大きな梯子	1930-32	24.0×17.8	8×10
64	大きな骨	1930s	24.5×18.7	8×10
65	梯子のなかの梯子	1931-32	24.0×19.0	8×10
66	ストライキ中の労働者、殺される	1934	18.9×24.2	8×10
67	民衆の渇き	1933-34	33.6×26.2	11×14
68	夢見る男	1931	18.8×24.0	8×10
69	三度目の躓き	1934	16.6×24.2	8×10
70	羊の毛と肉のために	1932	17.0×24.0	8×10
71	人々の魂	1936	16.8×24.2	8×10
72	死後の肖像	1930s	19.0×24.0	8×10
73	墓地の門前の家族	1932	20.5×25.5	8×10
74	メテペクの埋葬	1932	18.5×24.5	8×10
75	遺跡のなかの遺跡	1930s	18.0×24.0	8×10
76	ヤシの葉の冠をつけて	1936	17.7×24.3	8×10
77	遺骸	early 1940s	18.0×24.3	8×10
78	雀、澄んだ光	1938-40	26.4×33.6	11×14
79	眠れる名声	1938-39	25.5×34.0	11×14
80	名声2	1938-39	16.8×24.3	8×10
81	翌朝に	1945	24.6×19.6	8×10
82	入口	1947	24.5×19.6	8×10

第3章　時代の肖像

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
83	ホセ・クレメンテ・オロスコ	1930s	17.1×24.8	8×10
84	ダビド・アルファロ・シケイロス	1930s	24.2×18.9	8×10
85	ディエゴ・リベラ	c. 1929	24.3×19.3	8×10
86	フリーダ・カーロ	c. 1937	24.0×18.5	8×10
87	フリーダ・カーロ	c. 1937	24.0×18.8	8×10
88	二本の筆を使うフリーダ・カーロ	1937	24.0×16.6	8×10
89	フランセス・トア	1930s	19.2×24.3	8×10
90	マリア・アスンソロ	late 1930s	19.0×24.2	8×10
91	ルフィーノ・タマヨ	c. 1932	25.5×20.2	8×10
92	ルフィーノ・タマヨ、マリア・イスキエルド、ロラ・アルバレス・ブラボ・マルティネス	c. 1935	24.2×18.7	8×10
93	セルゲイ・エイゼンシュテイン	1931	24.2×18.5	8×10
94	イサベル・ビジャセニョール	c. 1930	23.7×19.0	8×10
95	オルガ・コスタ	1930s	24.2×19.0	8×10
96	アリス・ラオン	late 1930s	24.0×18.0	8×10
97	ハビエル・ビジャウルティア	1930s	24.0×18.8	8×10
98	レフ・トロツキー	1938	24.3×18.3	8×10
99	アンドレ・ブルトン	1938	24.2×18.4	8×10
100	ディエゴ・リベラ、レフ・トロツキー、アンドレ・ブルトンら	1938	18.3×23.9	8×10
101	シルベストレ・レブエルタス	1930s	24.3×18.9	8×10

第3部　原野へ / 路上へ―1940-60年代

第1章　原野の歴史

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
102	頭蓋骨、遺跡、トゥルム	1947	24.0×18.3	8×10
103	壁のうしろ、リュウゼツラン	1930s	16.5×24.0	8×10
104	テポストランの修道院	1930s	18.0×24.0	8×10
105	そして夜ごと、嘆き悲しんだ	1945	23.8×17.6	8×10
106	ヒナギク	1939-40	18.6×24.2	8×10
107	六の兎の日	1940	19.2×24.2	8×10
108	星形のある場所	1940s	24.0×16.6	8×10
109	アツォンパンの思い出	1943	25.5×33.6	11×14
110	日干し煉瓦の壁のあいだの幼女	1940s	18.0×24.0	8×10
111	アンガウアのレオン	1948	18.8×23.5	8×10
112	トゥルムのマヤ人の少年	1943	25.0×33.8	11×14
113	ボナンパクのマルガリータ	1949	34.0×26.3	11×14
114	赤い虎の神殿にて	1949	24.0×17.0	8×10
115	町長殿	1947	19.1×24.5	8×10
116	アトラトラウカンの奉納画	1950-58	19.4×24.2	8×10
117	雨季の村	1950s	18.8×24.0	8×10
118	日干し煉瓦の遺跡	1950s	19.4×19.3	8×10
119	毛むくじゃらの枝	1950s	18.9×24.3	8×10
120	傷ついたリュウゼツラン	1950	25.8×32.6	11×14
121	テスココ湖	1950s	19.0×24.3	8×10
122	サボテンの風景	1966-68	25.4×33.8	11×14
123	タスコ・ビエホへの道	1964	19.0×24.0	8×10
124	墓地、訪問	1964-65	18.8×24.2	8×10
125	鐘楼への階段	1964	19.0×24.3	8×10
126	ウイチョル族のヴァイオリン	1965	17.8×24.0	8×10

第2章　路上の小さなドラマ

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
127	ちょっと陽気に優雅に	1942	17.3×24.3	8×10
128	世間は何と狭いことか	1942	26.3×34.0	11×14
129	大いなる悔悟者	1954	16.5×24.5	8×10
130	壁と通行人	1950s	24.0×16.5	8×10
131	正午15分前	1957	23.0×19.4	8×10
132	もうひとつの標識(テオティワカン)	1956	17.5×24.0	8×10
133	母たちへの大いなる敬意	1950s	19.5×24.0	8×10
134	三角形のなかの少年	1950s	18.3×23.5	8×10
135	20番の犬	1958	19.5×22.0	8×10
136	二つの缶を引いて	c. 1950	16.5×24.0	8×10
137	巣	1954	19.3×23.0	8×10
138	息子と	1950s	18.2×23.8	8×10
139	別の物語の少年	1966	16.5×24.0	8×10
140	物語の少年	1965	18.0×24.0	8×10
141	掃除する少年	1950s	19.0×19.3	8×10
142	きれいな服と濃厚なチョコレート	1966	18.0×24.0	8×10
143	昼食後	1966	18.0×24.0	8×10
144	標識(コヨアカン)	1966	18.8×24.0	8×10
145	贋の月	1967	19.7×24.7	10×12
146	贋の月の恋人たち	1967	18.8×24.2	8×10
147	信ずべき夢	1966	24.3×18.2	8×10

第4部　静かなる光と時―1970-90年代

第1章　あまねく降る光

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
148	第一幕	1975	19.0×24.5	8×10
149	枝がきしんでも鳥は歌う(ディアス・ミロン)	1960	29.8×26.5	11×14
150	578番と影	1972-74	24.3×19.0	8×10
151	リュウゼツランの上の窓	1974-76	18.0×24.0	8×10
152	壁に手	1973-74	19.0×23.8	8×10
153	太陽のために	1974	18.8×24.0	8×10

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
154	黒のペンキ塗り	1972	17.4×23.6	8×10
155	リュウゼツランと鋸歯状の壁	1976	17.3×24.2	8×10
156	ケツァルコアトル	1970	19.0×24.3	8×10
157	種まきした畑の風景、シリーズ〈リュウゼツラン〉より	1970	18.0×24.0	8×10
158	樹脂の涙	1970	34.0×25.4	11×14
159	皮を剥がれた樹、春の神	1970-72	24.5×18.0	8×10
160	二組の人が行くチャムラの風景	1972	18.0×24.0	8×10
161	村の祭、チアパス州	c. 1972	18.0×24.0	8×10
162	シトララの少年	1986	17.0×22.7	8×10
163	廃墟と化した墓地	1979	17.5×24.0	8×10
164	コアトリクエ	1987	17.8×24.0	8×10
165	シペ、タウルス	1985	18.0×24.5	8×10
166	黒い布	1986	34.3×25.8	11×14
167	シリーズ〈百年を超えて、他の間に〉より	1995-97	24.2×16.5	8×10
168	シリーズ〈百年を超えて、他の間に〉より	1995-97	16.5×24.0	8×10
169	切り紙	1990-94	16.3×24.0	8×10
170	幼子イエスの町の仕掛け花火	1990	16.5×24.0	8×10
171	小さな白い教会	c. 1990	19.3×24.4	8×10

第2章　写真家の庭

no.	作品名	撮影年(英)	イメージサイズ(cm)	ペーパーサイズ(in)
172	ショロトル	1960s	18.5×24.0	8×10
173	猿のごとく、ダーウィンへのオマージュ	1964	18.3×24.0	8×10
174	庭のシーツ	c. 1972	16.5×24.0	8×10
175	銀色のバナナの木	1974	23.8×18.3	8×10
176	バナナの木、植物	1973-74	24.0×17.5	8×10
177	禁断の果実	1976	25.2×34.0	11×14
178	リバ	1977	25.4×34.0	11×14
179	オクタビオ・パス	1978	18.0×24.2	8×10
180	自写像	1980	18.0×24.0	8×10
181	シリーズ〈小さな空間に〉より	1995-97	16.5×24.2	8×10
182	シリーズ〈小さな空間に〉より	1995-97	16.4×24.1	8×10
183	シリーズ〈小さな空間に〉より	1995-97	16.4×24.0	8×10
184	シリーズ〈小さな空間に〉より	1995-97	16.3×24.2	8×10
185	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.2×16.5	8×10
186	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.2×16.5	8×10
187	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.0×16.5	8×10
188	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.0×16.5	8×10
189	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.2×16.5	8×10
190	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.0×16.4	8×10
191	シリーズ〈内なる庭〉より	1995-97	24.0×16.5	8×10
192	アウレリア	1980s	18.0×24.3	8×10

出品資料リスト

※所蔵のうち、マヌエル・アルバレス・ブラボ・アーカイヴ/ Archivo Manuel Álvarez Bravo, S.C. はAMABと略記した。

no.	資料名	発行年	所蔵
R001	『メキシカン・フォークウェイズ』第6巻第4号	1930	名古屋市美術館
R002	『メキシカン・フォークウェイズ』第7巻第2号	1932	名古屋市美術館
R003	『メキシカン・フォークウェイズ』第7巻第3号	1932	名古屋市美術館
R004	『メキシコ』(展覧会図録)ギャルリ・ルヌー・エ・コル、パリ	1939	名古屋市美術館
R005	『メキシコ美術の2000年』(展覧会図録)ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク	1940	世田谷美術館
R006	『メキシコの音楽』(展覧会関連企画冊子)ニューヨーク近代美術館、ニューヨーク	1940	世田谷美術館
R007	『アパチャー』第1巻第4号	1953	AMAB
R008	ウィリアム・スプラトリング『神々しいというよりは人間的な』メキシコ国立自治大学、メキシコシティ	1960	AMAB
R009	『マヌエル・アルバレス・ブラボ:1928-1968年の写真』(展覧会図録)芸術宮殿、メキシコシティ	1968	AMAB
R010	『アパチャー』第13巻第4号	1968	AMAB
R011	『マヌエル・アルバレス・ブラボ:400点の写真』(展覧会図録)芸術宮殿、メキシコシティ	1972	AMAB
R012	『マヌエル・アルバレス・ブラボ:決定的年月　1925-1945　回顧展』(展覧会図録)近代美術館、メキシコシティ	1992	AMAB
R013	『ヴァリエーション　1995-1997:マヌエル・アルバレス・ブラボ』(展覧会図録)イメージ・センター、メキシコシティ	1997	AMAB
R014	『マヌエル・アルバレス・ブラボ:百年、百日』ターナー出版、メキシコシティ	2002	AMAB

2－2　没後150年　坂本龍馬

会期：7月1日（土）－8月27日（日）
（前期：7月1日（土）－30日（日）
後期：8月1日（火）－27日（日））

概要：教科書でおなじみの幕末の志士・坂本龍馬（1835－1867）。2017年は大政奉還、そして龍馬の没後150年にあたる。龍馬の政治的・歴史的な評価は人により異なるが、残された手紙を見ると、“歴史上の人物”としてだけでなく、人間味あふれる新たな「龍馬像」が浮かび上がってくる。本展では、龍馬の手紙や近年発見された資料から龍馬の実像に迫るとともに、同時代の美術工芸品などを通じて見ることで、龍馬が生きた幕末という時代を紹介した。

巡回先：京都国立博物館、長崎歴史文化博物館、江戸東京博物館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、読売新聞社、Daiichi-TV

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：静岡銀行

協賛：野崎印刷紙業

特別協力：京都国立博物館

観覧料：一般　1,200円（1,000円）
大高生・70才以上　800円（600円）
※（　）内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：50,397人（有料37,322人、無料13,075人、有料率74.1%）

出品点数：193点（うち資料2点）

印刷物：

1）チラシ
＜仕様＞紙：b7トラネクスト 115kg
サイズ・数量：A4 133,250部（うち23,250部は市内回覧用）

2）ポスター
＜仕様＞紙：ユーライト 135kg
サイズ・数量：B1 70部、B2 1,950部、B3 1,150部（うち400枚はJR帯つき）

チラシ表面

チラシ裏面

B1・B2ポスター

B3ポスター

カタログ：
＜仕様＞227×296mm、327頁

カタログ表紙

カラー図版447点
参考図版（カラー12点、モノクロ27点）

宮川禎一「坂本龍馬の生涯と手紙」
前田由紀枝「坂本家のこと」
末兼俊彦「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情」
作品解説／読み下し文／坂本龍馬関係年譜／出品目録

編集：京都国立博物館
翻訳：ポール・マッカーシー、マリサ・リンネ
校正：興松吉信、本間由希子、小原直子
発行：読売新聞社
発行年：2016年

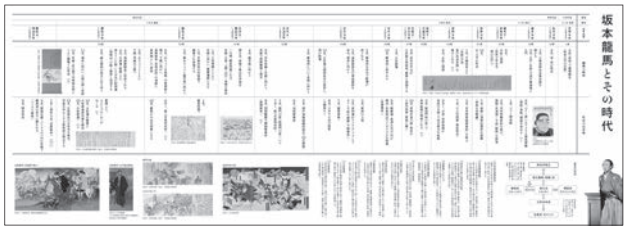
普及ツール：
1）音声ガイド

2）鑑賞ガイド
展覧会の見どころや、時代背景、手紙や解説に登場する人物と龍馬との関係を説明する当館オリジナルガイドを作成した。市内の小学5・6年生と中学校全校生徒に配布したほか、館内でも配布した。
印刷物：
◆鑑賞ガイド
＜仕様＞紙：上質 90kg
サイズ・加工・数量：210×590mm（仕上210×148mm）
観音折り 50,000部

鑑賞ガイド表面

鑑賞ガイド裏面

鑑賞ガイド中面①



鑑賞ガイド中面②

各種連携：
1）近隣店舗との連携
葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施を行った。また本展会期中、松坂屋静岡店で開催された「昭和の大博覧会」の入場レシート提示者に対し当館オリジナルグッズをプレゼントし、本展有料入場券の半券提示者が「昭和の大博覧会」に入場する際は、100円引きとなる相互サービスを実施した。
印刷物：
◆チラシ
＜仕様＞紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

協賛チラシ表

協賛チラシ裏

2）静岡科学館る・く・るとの連携
本展にあわせ、静岡科学館る・く・るの主催で、「よくばり箱カメラをつくろう～龍馬の写真から知るカメラの歴史～」が実施された。詳細は64頁を参照。

3）静岡音楽館AOIとの連携
本展にあわせ、静岡音楽館AOIの主催で「言の葉コンサート　尾上松也「竜馬がゆく」」が実施された。詳細は64頁を参照。

4）清水中央図書館との連携
本展開催にあわせ、静岡市立清水中央図書館で、坂本龍馬に関する書籍を展示する、特集展示「大政奉還150周年－坂本龍馬」が開催された。

5）紺屋町名店街との連携
本展にあわせ、地元の商店街である紺屋町名店街の主催で、市内外の似顔絵作家による、坂本龍馬をはじめとする幕末期の人物の似顔絵作品が、紺屋町名店街地下道ウィンドウギャラリーに展示された。また、期間中の8月12日・13日には、龍馬にちなみ、大きな「龍」や「馬」を描くワークショップ「まちに大きな絵を描こう」も開催された。
実施期間：7月22日（土）－8月27日（日）
場所：紺屋町名店街地下道ウィンドウギャラリー

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

・「武田鉄矢応援パーソナリティー就任」Daiichi-TV『まるごと』、6月19日放送。
・「ノリ×ノリ　静鉄電車中吊りポスター紹介　坂本龍馬展」Daiichi-TV『まるごと』、6月20日放送。
・「シズシェア　龍馬と下田の町」Daiichi-TV『マルシェア』、6月28日放送。
・「坂本龍馬SP ～武田鉄矢が生出演で熱弁」Daiichi-TV『まるごと』、6月30日放送。
・「坂本龍馬展あす開幕　武田鉄矢さんも興奮！　静岡市美術館」Daiichi-TV『news every. しずおか』、6月30日放送。
・「静岡市美術館　坂本龍馬展　あす開幕！」Daiichi-TV『FRONT ZERO』、6月30日放送。
・「ポチっとシェア龍馬＆高知グッズ」Daiichi-TV『マルシェア』、7月4日放送。
・「龍馬ぜよ①展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、7月7日放送。(※7月12日Daiichi-TV『マルシェア』で再放送)
・「坂本龍馬　没後150年SP企画　坂本龍馬×武田鉄矢①「日本の未来」」Daiichi-TV『news every. しずおか』、7月10日放送。(8月7日再放送)
・「坂本龍馬　没後150年SP企画　坂本龍馬×武田鉄矢②「人柄と魅力」」Daiichi-TV『news every. しずおか』、7月11日放送。(8月8日再放送)
・「坂本龍馬　没後150年SP企画　坂本龍馬×武田鉄矢③「龍馬展の見どころ」」Daiichi-TV『news every. しずおか』、7月12日放送。(8月9日再放送)
・「坂本龍馬　没後150年SP企画　坂本龍馬×武田鉄矢④「新しい物が好き」」Daiichi-TV『news every. しずおか』、7月13日放送。(8月10日再放送)
・「龍馬ぜよ②展覧会出品作品紹介：激動の一年を振り返る直筆手紙」Daiichi-TV『まるごと』、7月14日放送。(※7月27日Daiichi-TV『マルシェア』で再放送)
・「坂本龍馬　没後150年SP企画　坂本龍馬×武田鉄矢⑤「名言」」Daiichi-TV『news every. しずおか』、7月14日放送。(8月11日再放送)
・「龍馬ぜよ③展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、7月21日放送。
・「龍馬ぜよ④展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、7月28日放送。
・「展覧会紹介」TOKAIケーブルテレビ『TCNワイド』、8月1日放送。
・「武田鉄矢生出演・大ヒット開催中！告知・ノリ×ノリ鉄道乗り継ぎ高知の旅①」Daiichi-TV『まるごと』、8月3日放送。
・「龍馬ぜよ⑤展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、8月4日放送。
・「プレミあわ～ず：平田雄也もやっぱり憧れる！幕末の偉人「坂本龍馬」」Daiichi-TV『まるごと』、8月8日放送。
・「ノリ×ノリ　鉄道乗り継ぎ高知の旅②」Daiichi-TV『まるごと』、8月9日放送。
・「龍馬ぜよ⑥展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、8月11日放送。
・「静岡市美術館　坂本龍馬展　来場者3万人に」Daiichi-TV『news every. サタデー』および『FRONT ZERO』、8月12日放送。
・「龍馬ぜよ⑦展覧会出品作品紹介：変わった例えで描かれた風刺画」Daiichi-TV『まるごと』、8月18日放送。
・「「没後150年　坂本龍馬」展開催中　静岡市美術館　入館者100万人を達成」Daiichi-TV『NNNストレイトニュース』、8月19日放送。
・「龍馬ぜよ⑧展覧会出品作品紹介」Daiichi-TV『まるごと』、8月25日放送。

2)新聞

・沢井秀之「新生日本へ龍馬の決意　静岡市美術館　手紙や愛用品展示」『中日新聞』静岡版、7月2日。
・大石沙織「「没後150年　坂本龍馬」展①　姉・乙女へ新婚旅行を報告」『読売新聞』静岡版、7月4日。
・大石沙織「「没後150年　坂本龍馬」展②　暗殺現場　血染めの掛け軸」『読売新聞』静岡版、7月5日。
・大石沙織「「没後150年　坂本龍馬」展③　最期まで所持した愛刀」『読売新聞』静岡版、7月6日。
・大石沙織「「没後150年　坂本龍馬」展④　渡辺崋山　思想を描く」『読売新聞』静岡版、7月7日。
・大石沙織「「没後150年　坂本龍馬」展⑤　師・勝海舟　江戸時代に幕」『読売新聞』静岡版、7月8日。
・「龍馬展に1万人　静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、7月17日。
・「龍馬展3万人突破　静岡市美術館」『読売新聞』静岡版、8月13日。
・「静岡市美術館　観覧者100万人」『読売新聞』静岡版、8月19日。
・「静岡市美術館　観覧100万人目　富士の村松さん一家」『朝日新聞』静岡版、8月19日。
・垣見窓佳「静岡市美術館　観覧者100万人突破　富士の村松さんに記念品」『中日新聞』静岡版、8月19日。

3)雑誌他

・「展覧会紹介」『EURASIA』、5月号。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、7月号。
・「とに～＆いのっち漫画展評　ちくちく美術部其ノ二十六　ちくちくブラザーズ　暗殺事件と坂本龍馬は今日もモテモテ､の巻」『芸術新潮』、7月号。
・「展覧会紹介」『月刊アートコレクターズ』、No.100。
・「展覧会紹介」『PHOTOSAI　ふぉとさい　カメラ散歩』、vol.17。
・「龍馬が生きた幕末を新たな視点で振り返ろう　没後150年　坂本龍馬」『HOT PEPPER』、7月号。
・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、8月号。
・「展覧会紹介」『SHIZU TAB』、vol.10。
・「展覧会紹介」『歴史群像』、8月号。
・「展覧会紹介」『富士ニュース』、第21333号、7月13日。
・「展覧会紹介」『VIVO』、第50号。
・「龍馬が生きた“幕末”という時代を紹介　静岡市美術館にて「没後150年　坂本龍馬」」『美Premium』、No.21。
・「展覧会紹介」『大人のおしゃれ手帖』、8月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Yahoo! JAPAN」､「じゃらんnet」､「インターネットミュージアム」､「大政奉還150周年記念プロジェクト」､「しずぎんSTATION」､「歴人マガジン」､「ウォーカープラス」､「アットエス」

8月12日　来場者3万人達成

関連事業：

1)武田鉄矢氏の本展応援パーソナリティ就任

概要：共催者のDaiichi-TVの依頼で、俳優・武田鉄矢氏が静岡会場の龍馬展応援パーソナリティに就任し、開幕式では特別にスピーチおよびテープカットも実施した。

＜開幕式＞

日時：6月30日（金）13:00－

場所：エントランスホール

主要広報記録：

◆新聞

・金城文「龍馬のスケール感じて　武田鉄矢さん　特別展語る」『読売新聞』静岡版、7月1日。

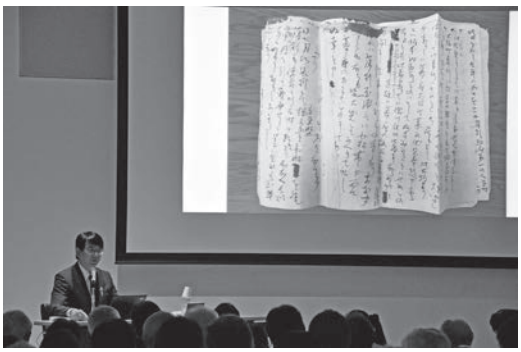
2)講演会「坂本龍馬－手紙に見る人間性－」

概要：本展監修者で、龍馬の手紙に関する著書も多数ある宮川氏による講演会。新出資料として発表された兄・権平に宛てた龍馬書簡や薩摩藩邸図面を中心に、龍馬や寺田屋事件について講演し、龍馬の手紙の面白さや魅力が語られた。

日時：7月1日（土）14:00－15:30

会場：多目的室　　**参加者数**：124人

講師：宮川禎一氏（京都国立博物館上席研究員、本展監修者）



3)刀剣乱舞DAY

概要：龍馬佩用《刀 銘吉行》が出品されることにあわせ、「刀剣乱舞-ONLINE-」とコラボし、刀剣乱舞の人気キャラクター・刀剣男士「陸奥守吉行」の等身大パネル、描下ろしポスターの掲出を行った。また合わせて各日先着150名（要展覧会観覧券展示）に《刀 銘吉行》の画像と刀剣男士「陸奥守吉行」が描かれた特製クリアファイルの配布を行った。

日時：7月14日（金）－17日（月・祝）いずれも10:00－

参加者数：計12,802人

4)静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

朗読音楽会「月琴で綴る龍馬の手紙」

概要：長崎出身の月琴奏者である永田氏と、Daiichi-TVアナウンサーの山田氏による朗読演奏会。龍馬の妻・おりょうは長崎の小曽根家で月琴を習っており、本展では小曽根家に伝来する月琴が展示されていることに合わせ実施。永田氏の月琴演奏に合わせ、龍馬の手紙および、おりょうの回顧録の口語訳を朗読した。楽器の紹介だけでなく、朗読でも本展に関係する作品が多く取り上げられ、展覧会を別の側面から紹介することができた。

日時：7月16日（日）17:00－18:00

会場：多目的室　　**参加者数**：114人

出演：＜月琴演奏＆構成＞永田斉子、＜朗読＞山田桃子（Daiichi-TVアナウンサー）

プログラム：

＜朗読＞1.お龍という女（龍馬の手紙 慶應元年9月9日 乙女・おやべあて）／2. 薩摩への蜜月旅行（お龍の回想録 明治32年『反魂香』（文庫）、龍馬の手紙 慶應2年12月4日 乙女あて）／3. 月琴の稽古へ（龍馬の手紙 慶應2年12月4日 乙女あて、お龍の回想録 明治32年『千里駒後日譚』（土陽新聞）／4. 長崎・小曽根家（お龍の回想録 明治32年『千里駒後日譚』（土陽新聞）、お龍の回想録 明治32年『坂本龍馬の未亡人』（報知新聞）／5. いろは丸事件（龍馬の手紙 慶應3年5月8日 三吉慎蔵あて、龍馬の手紙 慶應3年5月28日 お龍あて）／6. 大政奉還（龍馬の手紙 慶應3年10月13日 後藤象二郎／7. 別れの時（お龍の回想録 明治32年『千里駒後日譚』（土陽新聞）

＜月琴演奏曲目＞

カラカラ／四季／茉莉花／中山流水／漫板流水／算命曲／金銭花／紗窓／九連環

主要広報記録：

◆テレビ

・「「没後150年　坂本龍馬」展　遺筆をたどる朗読音楽会」Daiichi-TV『FRONT ZERO』、7月16日放送。

5)講演会「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情Ⅲ－戻るに戻れぬ復古主義」

概要：気鋭の研究者、末兼氏による講演会。江戸後期～幕末における復古主義的思想を踏まえ、幕末の刀剣事情や龍馬の愛刀について紹介した。初心者にもわかりやすいよう、刀剣の基礎知識も説明もあり、刀剣史を通して幕末の時代背景も理解できる、充実した内容となった。

日時：7月22日（土）14:00－15:30

会場：多目的室　　**参加者数**：121人

講師：末兼俊彦氏（東京国立博物館研究員）

出品作品リスト

※作品番号のないものは当館では出品されなかった。
※展示期間に記載がないものは通期で展示した。
※作品保護のため、適宜場面替えを行った。

1章　龍馬の生まれ育った時代

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
1-3		大日本沿海輿地全図（伊能中図）のうち中国四国　八舗のうち	江戸時代（19世紀）	日本写真印刷	
2		異国船図	安政年間	長崎歴史文化博物館	前期
3		北亜墨利加人物ペルリ像	安政年間	長崎歴史文化博物館	後期
4		ペリー来航図巻（甲寅記事画巻）	江戸時代（19世紀）	京都国立博物館	
5		ペリー横浜来航図巻	江戸時代（19世紀）	個人蔵	前期
6		米兵水夫葬送図巻	嘉永7（1854）年	個人蔵	後期
7	重文	坂本家先祖書並系図（文書集二）　坂本長兵衛、坂本権平他筆	天保9（1838）年～明治時代	京都国立博物館	8/8-8/27
16		北辰一刀流長刀兵法目録　龍馬宛　千葉定吉筆（複製）	—	高知・創造広場 「アクトランド」龍馬歴史館	

2章　土佐脱藩と海軍修行

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
20		神戸村操練所絵図	明治時代（19世紀）	香川・琴平海洋博物館	
22		海上安全万代寿　河鍋暁斎画	文久3（1863）年	香川・琴平海洋博物館	
24-2		「海舟日記」　三巻	元治元（1864）年	東京都江戸東京博物館	
24-3		「海舟日記」　四巻	元治元（1864）年	東京都江戸東京博物館	
25		松平信敏書簡　文久三年七月八日　勝海舟宛	文久3（1863）年	東京都江戸東京博物館	
27-2		梨堂公絵巻（第三巻）　田中光美筆	昭和8（1933）年	京都・梨木神社	
29		新選組金銭借用証　慶応三年十二月　山中善右衛門宛	慶応3（1867）年	大阪・鴻池合資会社	
30		浪士文久報国記事　永倉新八筆	明治時代（19世紀）	個人蔵	
33		目付役日記　文久三年九月二十三日条	文久3（1863）年	高知県立坂本龍馬記念館	
35		土佐勤王党処罰書上（岡田以蔵ほか）　慶応元年閏五月十一日	慶応元（1865）年	高知県立坂本龍馬記念館	
39		高瀬御門出入改帳　慶応元年五月二十日から閏五月三日	慶応元（1865）年	個人蔵	
40		長州探索報告　慶応元年閏五月	慶応元（1865）年	個人蔵	
42		近世珍話　前川五嶺筆　3巻のうち上・中巻	慶応3（1867）年	京都国立博物館	
43		幕府軍艦　第二長崎丸関係資料	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-1		幕府軍艦旗	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-2		スープ皿	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-3		スープ壺	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-4		フルーツコンポート	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-5		錫製保温器	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-6		錫製大皿	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-7		砂時計	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-8		遠眼鏡	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-9		双眼鏡	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-10		バロメーター	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-11		法螺貝	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-12		燭台（カンテラ）	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-13		手すり継手金具	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-14		陶製ドアノブ	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-15		陶製洋服掛けフック	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-19		唐草文透板	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	
43-20		花唐草紋透ガラス	江戸時代末期（19世紀）	東京都江戸東京博物館	

3章　龍馬の手紙を読む

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
44		坂本龍馬桂小五郎遺墨（文書集一）	嘉永6～慶応3年	京都国立博物館	
44-1		坂本八平訓戒書　嘉永六年三月　龍馬宛	嘉永6（1853）年	京都国立博物館	
44-2		桂小五郎（木戸孝允）書簡　慶応二年二月二十二日　龍馬宛	慶応2（1866）年	京都国立博物館	
44-3		龍馬詠草一	江戸時代（19世紀）	京都国立博物館	
44-4		龍馬詠草二	江戸時代（19世紀）	京都国立博物館	
44-5		龍馬詠草三	江戸時代（19世紀）	京都国立博物館	
44-6	重文	龍馬書簡　慶応三年六月二十四日　坂本乙女・おやべ宛	慶応3（1867）年	京都国立博物館	7/1-7/20
44-7		龍馬書簡　文久三年六月二十九日　坂本乙女宛	文久3（1863）年	京都国立博物館	
44-8		龍馬書簡　慶応三年八月五日　長岡謙吉宛	慶応3（1867）年	京都国立博物館	
44-9		高松千鶴書簡　推定安政三年秋　龍馬宛	推定安政3（1856）年	京都国立博物館	
44-10		龍馬書簡　慶応三年十月九日　坂本権平宛	慶応3（1867）年	京都国立博物館	
44-11		龍馬書簡　慶応元年九月九日　坂本乙女・おやべ宛	慶応元（1865）年	京都国立博物館	
44-12		龍馬書簡　慶応二年十二月四日　坂本乙女宛	慶応2（1866）年	京都国立博物館	

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
44-13		龍馬書簡　推定慶応三年四月　坂本乙女宛	慶応3(1867)年	京都国立博物館	未出品
44-14		龍馬書簡　文久三年三月二十日　坂本乙女宛	文久3(1863)年	京都国立博物館	未出品
48		龍馬書簡　慶応元年九月七日　坂本権平・乙女・おやべ宛	慶応元(1865)年	高知県立歴史民俗資料館	
50		龍馬書簡　推定慶応元年秋　坂本乙女宛	推定慶応元(1865)年	大阪・鴻池合資会社	
51		龍馬書簡　推定文久三年八月「十四日」　坂本乙女宛	推定文久3(1863)年	北海道坂本龍馬記念館	
53		龍馬書簡集　寺田屋登勢・伊助宛	慶応2～3(1866-67)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
53-1		龍馬書簡　慶応三年五月中旬　寺田屋伊助宛	慶応3(1867)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
53-2		龍馬書簡　慶応二年十一月二十日　寺田屋登勢宛	慶応2(1866)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
53-3		龍馬書簡　慶応三年四月二十七日　寺田屋登勢宛	慶応3(1867)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
53-4		龍馬書簡　慶応三年二月十三日　寺田屋登勢宛	慶応3(1867)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
53-5		龍馬書簡　慶応三年八月五日　寺田屋登勢宛	慶応3(1867)年	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	
58		龍馬書簡　推定慶応二年　宛先不明	推定慶応2(1866)年	高知県立歴史民俗資料館	後期
61		龍馬書簡　推定慶応三年前半「十六日」　溝淵広之丞宛	推定慶応3(1867)年	高知県立歴史民俗資料館	後期
63		下関戦図　溝淵広之丞・龍馬合作	慶応2(1866)年	高知県立歴史民俗資料館	後期
64		長幕海戦図　龍馬筆	慶応2(1866)年	個人蔵	後期
72		月琴　小曽根家伝来	江戸時代(19世紀)	個人蔵	
73		回転式弾倉拳銃	19世紀(1860年代)	京都国立博物館	

4章　龍馬の遺品

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
76	重文	小栗流和兵法三箇条	文久元(1861)年	京都国立博物館	
78		海獣葡萄鏡　坂本龍馬使用	明～清代	京都国立博物館	
79	重文	三徳　坂本龍馬使用	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	8/1-8/20
81		三条実美公履歴	明治40年(1907)年	個人蔵	
82		近江屋初荷図　楳堂筆	明治5(1872)年	京都国立博物館	
83	重文	梅椿図(血染掛軸)　板倉槐堂筆	慶応3(1867)年	京都国立博物館	8/15-8/27
83		梅椿図(血染掛軸)　複製	—	京都国立博物館	7/1-8/14
84	重文	書画貼交屏風(血染屏風)	江戸時代(18世紀)	京都国立博物館	7/1-7/13
85		刀　銘吉行　坂本龍馬佩用	江戸時代(17～18世紀)	京都国立博物館	
86		刀　銘山城國西陳住埋忠明寿　坂本龍馬佩用	江戸時代(17世紀)	京都国立博物館	
88		鐔　坂本龍馬所用	江戸時代(19世紀)	京都府立総合資料館 (京都文化博物館管理)	

5章　薩長同盟から大政奉還　―そして龍馬の死後―

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
95		龍馬書簡　慶応三年二月十四日　河田左久馬宛	慶応3(1867)年	個人蔵	
107		崎陽大浦真景図　岡月洲筆	明治初期(19世紀)	長崎歴史文化博物館	前期
108		長崎諸役所絵図　西役所	嘉永7～安政3(1854-56)年頃	長崎歴史文化博物館	巻替
109		肥前長崎丸山廓中之風景　歌川貞秀画	文久2(1862)年	長崎歴史文化博物館	前期
110		肥前崎陽玉浦風景図　歌川貞秀画	文久2(1862)年	長崎歴史文化博物館	後期
111		龍馬書簡草案　推定慶応三年九月　長崎奉行宛	推定慶応3(1867)年	長崎・史跡料亭　花月	
112-1		亀山焼　染付急須　木下逸雲絵付	江戸時代後期(19世紀)	長崎歴史文化博物館	
112-2		亀山焼　染付蘭図菓子鉢　木下逸雲絵付	天保3(1832)年	長崎歴史文化博物館	
112-3		亀山焼　染付丸形菓子入　木下逸雲絵付	天保8(1837)年	長崎歴史文化博物館	
112-4		亀山焼　猩猩宴之図菓子鉢　高島秋帆書	天保5(1834)年	長崎歴史文化博物館	
113		霧島紀行和文并逆鉾真図巻　木下逸雲書	江戸時代後期	長崎歴史文化博物館	巻替
114		和英通韻以呂波便覧	慶応4(1868)年	個人蔵	
115	重文	龍馬乃遺墨雄魂生名録並海援隊日史秘記(文書集三)	文久～慶応年間	京都国立博物館	7/21-8/9
115-1		雄魂生名録	文久～慶応年間	京都国立博物館	
115-2		海援隊商事秘記	慶応3(1867)年	京都国立博物館	
115-3		海援隊日史	慶応3(1867)年	京都国立博物館	
118		龍馬書簡　慶応三年五月二十八日　おりょう宛	慶応3(1867)年	京都国立博物館	
120		上野彦馬使用　写真機	1880年代製作	長崎歴史文化博物館	
121		坂本龍馬湿板写真(複製)	—	高知県立歴史民俗資料館	
122		井口家アルバム	明治時代(19世紀)	京都国立博物館	場面替
127		大政奉還建白書写	慶応3(1867)年	京都国立博物館	
130		龍馬書簡　慶応三年十月十八日　望月清平宛	慶応3(1867)年	高知県文教協会	後期

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
132		坂本龍馬三岡八郎会見顛末　由利公正筆	明治6(1873)年頃	個人蔵	
133		書簡三通覚書二通合装　林市郎右衛門宛 土方久元・北添佶麿(本山七郎)・曾和慎八郎筆	江戸時代後期(19世紀)	個人蔵	
134-7		由利公正書簡　明治三年十二月十日　松平茂昭宛	明治3(1870)年	福井県立歴史博物館	
138		寺田屋登勢書簡　おりょう宛	明治元(1868)年	京都国立博物館	
141		坂本龍馬肖像画　公文菊僊筆	大正～昭和初期(21世紀)	個人蔵	
143		井口新助弁駁書	—	京都国立博物館	
144		井口家伝来冊子	—	京都国立博物館	
145		近世珍話　前川五嶺筆　3巻のうち下巻	慶応3(1867)年	京都国立博物館	
146		軍装行列図	明治10年代(19世紀)	京都国立博物館	
147		伏見鳥羽戦争図草稿　伝遠藤蛙斎筆	明治10年代(19世紀)	京都国立博物館	場面替

6章　瓦版・錦絵からみた幕末維新

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
156-1		外御門御固	元治元(1864)年	京都市歴史資料館	
156-2		京都大火極本しらべ	元治元(1864)年	京都市歴史資料館	
156-3		京都大火之図	元治元(1864)年	京都市歴史資料館	
156-4		元治元年京都大火	元治元(1864)年	京都市歴史資料館	
156-5		鳥羽伏見の戦	元治元 (1868)年か	京都市歴史資料館	
156-6		見聞細吟諸方出火之画図	明治元(1868)年	京都市歴史資料館	
157		海陸御固御役人附	嘉永6(1853)年	個人蔵	
158		海陸御固泰平鑑	安政元(1854)年	個人蔵	
159		米船渡来旧諸藩士固之図　東洲勝月画	明治22(1889)年	個人蔵	
160		青物魚軍勢大合戦之図　歌川広景画	安政6(1859)年	個人蔵	
161		於薩海二英入水　松月保誠画	明治11年(1878)年	個人蔵	
162		水戸浪士等愛宕山集合之図　月岡芳年画	明治8(1875)年	個人蔵	
163		江水散花雪　月岡芳年画	明治4(1871)年頃	個人蔵	
164		万歳皇代能豊兆	文久元(1861)年	個人蔵	
165		王城加茂社風景　歌川芳艶画	文久3(1863)年	個人蔵	
166		石清水八幡宮御行幸略図	文久3(1863)年	個人蔵	
167		画巻国史　七卿西走之図　右田年英画	明治24(1891)年	個人蔵	
168		元治元年甲子八月長門の国大火	元治元(1864)年	個人蔵	
169		長州藩三家老首級図	元治元(1864)年	個人蔵	
170		芸州宮島渡海場	慶応2(1866)年	個人蔵	
171		陰徳太平記新板	慶応2(1866)年	個人蔵	
172		周防大嶋郡大合戦	慶応2(1866)年	個人蔵	
173		九州小倉合戦図	慶応2(1866)年	個人蔵	
174		玖波村戦争之図	慶応2(1866)年か	個人蔵	
175		石州口周布之合戦	慶応2(1866)年	個人蔵	
176		昔語　中国ニテ対陣之図	慶応2 (1866)年か	個人蔵	
177		長州壇之浦赤間関合戦　歌川貞秀画	慶応2(1866)年	個人蔵	
178		豊饒御陰参之図　歌川芳幾画	慶応3 (1867)年か	個人蔵	
179		豊年御陰参り	江戸時代(19世紀)	個人蔵	
180		末代記録神国賑	慶応3(1867)年	個人蔵	
181		末代記録神国賑二篇	慶応3(1867)年	個人蔵	
182		大坂諸国神国賑三編	慶応3(1867)年	個人蔵	
183		毛理嶋山官軍大勝利之図　歌川国広画	明治元(1868)年	個人蔵	
184		山崎合戦官軍大勝利之図	明治元(1868)年	個人蔵	
185		山崎大合戦図　歌川貞広画	明治元(1868)年	個人蔵	
186		徳川治績年間紀事　十五代徳川慶喜公　月岡芳年画	明治元(1868)年	個人蔵	
187		春永本能寺合戦　英斎画	明治元(1868)年	個人蔵	
188		東叡山文殊楼焼討之図　月岡芳年・高斎年充画	明治7(1874)年	個人蔵	
189		越後国信濃川武田上杉大合戦之図　歌川芳盛画	明治元(1868)年	個人蔵	
190		奥州名所一覧之図	明治元(1868)年	個人蔵	
191		奥州海岸一覧　歌川国輝画	明治元(1868)年	個人蔵	
192		会津軍記　早川松山画	明治9(1876)年	個人蔵	
193		画巻国史　函館五稜廓奮戦之図　右田年英画	明治24(1891)年	個人蔵	
194		教導立志基　高杉晋作　水野年方画	明治23(1890)年	個人蔵	
195		教導立志基　徳川慶喜　小林清親画	明治19(1886)年	個人蔵	

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
197		繁栄京都御絵図	文久3(1863)年	京都国立博物館	

7章　美術工芸からみた幕末維新

番号	指定	作品名／作者名	年代	所蔵	展示期間
198		紫糸威鎧　島津斉彬所用	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	
202		刀　銘国廣　渡辺篤佩用	桃山時代(17世紀)	個人蔵	
203		刀　銘兼元　林田貞堅佩用	室町時代(16世紀)	京都・靈明神社	
204		刀　無銘　中井弘佩用	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	
205		装飾洋刀　中井弘佩用	ヴィクトリア時代(1868年)	京都国立博物館	
208		江戸城明渡の帰途(勝海舟江戸開城図)　川村清雄画	明治18 (1885)年頃	東京都江戸東京博物館	後期
208		江戸城明渡の帰途(勝海舟江戸開城図)　複製	—	東京都江戸東京博物館	前期
209		日清文人合作幅　鉄翁他筆	文久3～元治元(1863-64)年	長崎歴史文化博物館	前期
210		山翁図　小曽根乾堂筆	明治14(1881)年	長崎歴史文化博物館	後期
213		秋景山水図　木下逸雲筆	天保元(1830)年	長崎歴史文化博物館	前期
214		富貴老耄図　木下逸雲筆	文久2(1862)年	長崎歴史文化博物館	前期
215		桃花源図　木下逸雲筆	元治元(1864)年	長崎歴史文化博物館	後期
216		蘭水仙図　木下逸雲筆	元治元(1864)年	長崎歴史文化博物館	後期
217		蓮塘図　木下逸雲筆	慶応元(1865)年	長崎歴史文化博物館	後期
218		巌下煮茶図　木下逸雲筆	慶応2(1866)年	京都国立博物館	前期
219		四君子図屏風　鉄翁祖門筆	文久2(1862)年	長崎歴史文化博物館	前期
220		米法山水図　鉄翁祖門筆	安政4(1857)年	長崎歴史文化博物館	後期
221		四君子図(竹菊図)　鉄翁祖門筆	嘉永6(1853)年	長崎歴史文化博物館	後期
222		四君子図(梅蘭図)　鉄翁祖門筆	嘉永6(1853)年	長崎歴史文化博物館	後期
223		十二ヶ月人物図　中島来章、岸岱ほか筆	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	前期
224		群亀図　岸岱、森寛斎ほか筆	文久元(1861)年	京都国立博物館	後期
225		四季山水図屏風　狩野永岳筆	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	後期
227		二代后図　冷泉為恭筆	江戸時代(19世紀)	個人蔵	後期
228		春日神宝兜図　冷泉為恭筆	江戸時代(19世紀)	個人蔵	前期
229	重文	千山万水図　渡辺崋山筆	天保12(1841)年	愛知・田原市博物館	8/1-8/27
230		米艦浦賀渡来図　浮田一蕙筆	慶応3(1867)年	京都国立博物館	前期
231		西園雅集図　藤本鉄石筆	文久元(1861)年	京都国立博物館	前期
232		嵐山春景・平等院雪景図屏風　塩川文麟筆	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	前期
233		平等院雪景図屏風　塩川文麟筆	江戸時代(19世紀)	京都国立博物館	後期
234		児島高徳桜樹題詩図　森寛斎筆	明治時代(19世紀)	京都国立博物館	前期
236		東山晩翠図　谷口藹山筆	慶応4年(1868)年	京都国立博物館	前期
237		糾水秋眺図　谷口藹山筆	文久2年(1862)年賛	京都国立博物館	後期
参考1		長崎海軍伝習所之図　陣内松齢筆(複製)	—	長崎歴史文化博物館	後期
参考2		山崎和國作　坂本龍馬之像	—	個人蔵	

2－3　日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念
デンマーク・デザイン

会期：9月9日（土）－11月12日（日）

概要：北欧諸国の一つであるデンマークは、九州ほどの国土に約570万人が住む小さな国である。気候は比較的穏やかで、標高が最も高いところで約170mと、起伏の無いなだらかな地形が特徴である。また、国連が毎年発表する国民の幸福度ランキングでは常に上位を保持し、2016年度は1位を獲得するなど、福祉国家としても知られている。何よりデンマークは、世界に誇るデザイン大国である。1920－30年代、政府はかつてない規模でデザインに投資し、集合住宅のほか、学校、市庁舎や図書館などの公共建築の整備を行った。その内部空間は洗練されたデザインで統一され、今日にまで受け継がれている。デンマークの人々の暮らしは何世代にもわたり、優れたデザインと共にあると言える。本展は、デンマーク・デザイン博物館の協力のもと、デンマークの近代から現代までのデザイン史を約200点の作品で辿る、日本初の展覧会となった。アーネ・ヤコプスン[アルネ・ヤコブセン]、ハンス・ヴィーイナ[ウェグナー]、フィン・ユールなどの家具、ポウル・ヘニングスンの照明器具等のほか、ロイヤル コペンハーゲンの食器、世界中で親しまれているレゴブロックや、バング＆オルフセンの音響機器など、デンマーク・デザインの数々を紹介し、その魅力に迫った。
なお、毎週木曜日と土曜日は、会話を楽しみながら展覧会鑑賞ができる「トークフリーデー」とした。

巡回先：長崎県美術館、横須賀美術館、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、山口県立美術館、岐阜県現代陶芸美術館、群馬県立館林美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社

後援：デンマーク大使館、静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

展示協力：PP Mobler ApS、Kvadrat A/S

企画協力：株式会社ブレーントラスト

静岡展特別協力：静岡木材業協同組合

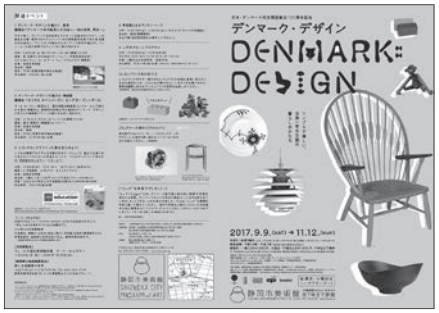
This exhibition is curated by Designmuseum Danmark and Michael & Mariko Whiteway.

観覧料：一般　1,200円（1,000円）
大高生・70才以上　800円（600円）
※（　）内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：16,965人（有料11,687人、無料5,278人、有料率68.9%）

出品点数：185点（参考出品および特別出品を含む）

印刷物：
1）チラシ
＜仕様＞紙：b7バルキー 57.5kg
サイズ・加工・数量：A3二つ折り（仕上A4）60,000部
2）ポスター
＜仕様＞紙：ハイ・アピスNEO 111kg（B1、B2、B3通常版）、マットコート 110kg（B1およびB3JR版）
サイズ・数量：B1 110部（うち40部はJR帯つき）、
B2 1,900部、B3 2,900部（うち500部はJR帯つき）



チラシ表面

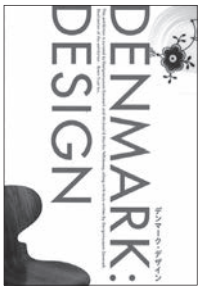
チラシ裏面

B1・B2ポスター

B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞145mm×210mm、259頁



カタログ表紙

カラー図版223点
参考図版（カラー49点、モノクロ37点）

川口佳子「デンマーク王国」
クレスチャン・ホルムステズ・オーレスン「デンマーク・デザインとともに－デンマーク・デザイン博物館（旧 美術工芸博物館）」
アネ＝ルイーセ・ソマ「人と社会に変革をもたらすデザインの物語」
クレスチャン・ホルムステズ・オーレスン「磨き上げられた伝統－デンマーク・デザインの基礎概念」

出品作品リスト

翻訳（巻頭エッセー・章解説・作品解説・作家解説）：萬屋健司、富田康子
執筆（メーカー解説・デンマーク王国解説）：森谷紗世、山口敦子、川口佳子
デンマーク語原音表記・学術協力：大辺理恵
編集：株式会社ブレーントラスト
発行年：2017年

普及ツール：

1）オリジナル鑑賞ガイド

当館独自の鑑賞ガイドを制作し、家具デザイナーらが影響を受けた名作椅子を図解したほか、陶磁器や照明作品にみられる日本美術の影響にも触れ、巡回パネルなどにはない要素を補完して展覧会理解につとめた。なお、本ガイドは市内中学校全家庭、高校美術部に事前送付し、展覧会広報としても活用した。

印刷物：

◆鑑賞ガイド

＜仕様＞紙：上質 90kg
サイズ・加工・数量：210×148.5mm（仕上A5）じゃばら折り 40,000部

鑑賞ガイド表面

鑑賞ガイド中面

2）オリジナルDMの作成

レゴソフトや座れる椅子のコーナー等の体験型展示、トークフリーデーなど、親しみやすい展覧会のイメージを打ち出したはがき型DMを制作した。市内幼稚園・保育園を通じ全家庭約24,500件に配布したほか、県内・中京圏のインテリアショップや家具工房などにも送付した。

印刷物：

◆DM

＜仕様＞紙：ハイ・アピスNEO 104kg
サイズ・数量：100×148mm 37,000部

DM表

DM裏

3）ノベルティ企画「“ヒュゲ”な写真でプレゼント！」

受付にて、デンマーク語で居心地の良い時間や空間を意味する“ヒュゲ”な写真を提示した有料観覧者先着300名に本展オリジナルグッズをプレゼントした。
（協力：静岡木材業協同組合）

製作物：

◆コースター

＜仕様＞材質：オクシズ材ヒノキ
サイズ・数量：73×73mm 300枚

コースター

4）プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。

実施日：①9月29日（金） ②10月27日（金）
利用者数：①61件 ②60件

各種連携：

1）近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施を行ったほか、近隣百貨店のパン店で、デンマークパンフェアを行った。

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

協賛チラシ表

協賛チラシ裏

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

・「静岡市美術館　デンマーク・デザイン展始まる」静岡朝日テレビ『ANNニュース静岡』、9月9日放送。
・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalcha!サタデー　静岡ドライブインフォメーション』、9月9日放送。
・「デンマーク・デザイン展」静岡朝日テレビ『スーパーJチャンネル静岡』、9月9日放送。
・「デンマーク・デザイン展講演会」静岡朝日テレビ『スーパーJチャンネル静岡』、9月23日放送。
・「デンマーク・デザイン展　入場者1万人達成　静岡市美術館」静岡朝日テレビ『スーパーJチャンネル静岡』、10月21日放送。
・「大沼が行く：芸術の秋　今回はアート鑑賞」静岡朝日テレビ『とびっきり！しずおか』、10月25日放送。

2)新聞

・「展覧会紹介」『日本経済新聞』名古屋支社版、7月27日。
・「展覧会紹介」『毎日新聞』首都圏版、9月8日。
・「デンマークのデザイン展開催　静岡市美術館」『日本経済新聞』静岡版、9月9日。
・小川雪「デンマークのデザイン哲学とは　外交関係樹立150年　各地で展覧会　家の中を変えることが社会づくりに」『朝日新聞』(夕刊)首都圏版、9月19日。
・川原田喜子「美術：デンマーク・デザイン」『中日新聞』静岡版、10月20日。

3)雑誌他

・「展覧会紹介」『PHOTOSAI　ふぉとさい　カメラ散歩』、vol.17。
・「記念YEAR到来！今年は北欧展覧会が目白押し」『Discover Japan』、8月号。
・「展覧会紹介」『美Premium』、vol.21。
・「デンマーク・デザイン」『富士ニュース』、9月17日。
・「幸福度ランキング上位の国の秘密」『美術展ぴあ』、2017秋冬-2018号。
・「展覧会紹介」『AERA with Kids』、2017秋号。
・「展覧会紹介」『InRed』、10月号。
・「展覧会紹介」『時空旅人』、10月増刊号。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、10月号。
・森谷紗世「デンマークで生まれたデザインには　人を幸せにする力がある」『大人のおしゃれ手帖』、11月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

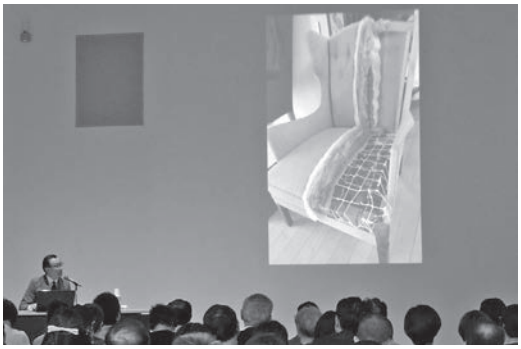
「インターネットミュージアム」、「Japan Design Net」、「Walkerplus」、「Fashion Press」、「DRESS」、「CINRA.NET」、「しずぎんSTATION」、「るるぶ.com」、「ROOMIE」、「北欧区」、「アットエス」、「ART NAVI」、「milkjapon」、「womoネット」、「静岡市facebook」、「コンフォルト」、「ダイヤモンドソサエティ」、「とびっきり！あさひテレビコラム」、「ARTLOGUE」

展示室内「レゴ®ソフトであそぼう！」のコーナー

地元木材を使用した展示演出(協力：静岡木材業協同組合)

関連事業：

1)講演会①「デンマーク名作家具との出会い－知の発見、再生へ」
概要：日本で唯一、デンマーク名作家具のライセンス生産を行い、その製品を企画・販売するキタニジャパンの代表取締役社長である東氏による講演会。「つくり手」の視点からデンマーク家具の魅力や、フィン・ユール邸の再現プロジェクトをご紹介いただいた。材料の調達から完成までの工程がスライドで紹介されたほか、椅子の内部構造や部材の接合方法についても説明がなされた。
日時：9月23日（土・祝）14:00－15:30
会場：多目的室　　**参加者数**：108人
講師：東庄豪氏（株式会社キタニジャパン代表取締役社長／ＮＰＯ法人フィン・ユール アート・ミュージアムクラブ理事長）



2)「レゴ®ブロックでつくった車を走らせよう！」
概要：レゴエデュケーション（レゴ社の教育部門）が母体であるレゴスクールよりインストラクターを招いて実施したワークショップ。「フリーホイール」という車がつくれるレゴブロックの非売品キットを用い、車に乗せるおもりの位置、パーツの数や形、車輪の大きさなどを工夫し、最も遠くまで走る車づくりに親子で挑戦した。位置エネルギーや空気抵抗などの学習要素も盛り込まれ、レゴ社の教育プログラムに基づいて実施された。
日時：10月8日（日）①13:00－　②15:30－
会場：多目的室
参加料：1組につき1,700円（キット代含む）
対象・参加者数：小学生とその保護者　計86人
講師：レゴ社認定　レゴ®スクールインストラクター2名

3)当館学芸員によるギャラリートーク
概要：展覧会に対する理解を深めるため実施。当館独自で制作した鑑賞ガイドを活用しながら、デンマーク・デザインの流れを紹介した。また、陶磁器や照明作品にみられる日本美術の影響にも触れ、デンマークと日本の関係性についても紹介した。
日時：①10月14日（土）②11月4日（土）いずれも14:00－
会場：展示室　　**参加者数**：計71人
参加料：展覧会観覧料

4)「デンマーク・デザイン」展　クラシックミニコンサート
概要：静岡朝日テレビの主催により実施。ニールセンやグリーグなど北欧の作曲家を中心に、モーツァルトなど一般になじみのある曲目も織り交ぜ、計11曲が演奏された。出演者による曲目紹介も行われた。
日時：10月21日（土）13:30開場　14:00開演
会場：多目的室　　**参加者数**：71人
出演：増田訓子（第1ヴァイオリン）、酒井静香（第2ヴァイオリン）、寺田さくら（ヴィオラ）、生駒宗煌（チェロ）、方壁さをり（コントラバス）＜いずれも 静岡交響楽団＞
曲目：モーツァルト《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》より第1楽章／シベリウス《アンダンテ・フェスティーヴォ》／シベリウス交響詩《フィンランディア》作品26より抜粋／アンダーソン《プリンク・プリンク・プリンク》／荒井由美《ひこうき雲》／ J.デンバー《カントリーロード》／グリーグ 組曲《ホルベアの時代より》作品40より第1曲「前奏曲」／ニールセン《弦楽五重奏のためのアンダンテ・ラメントーソ》「若き芸術家の棺の傍らで」FS58／ニールセン《弦楽合奏のための小組曲》イ短調作品1 F56より第2楽章「間奏曲」

5)講演会②「ロイヤル コペンハーゲン　ビング オー グレンダール」

概要：アール・ヌーヴォー磁器など、国内有数の陶磁器コレクターとして知られる塩川氏による講演会。国際的な評価を得た最初のデンマーク・デザインである2大陶磁器ブランドの魅力をお話しいただいた。技術開発や、革新的な運営によってロイヤルコペンハーゲンが陶磁器界を牽引する存在となった経緯や、ビング オー グレンダールとの関係、両者の作風の比較なども豊富なスライドで紹介された。
日時：10月22日（日）14:00－15:30
会場：多目的室　　**参加者数**：82人
講師：塩川博義氏（陶磁器コレクター）

6)ミッケラーカフェ@Shizubi

概要："クラフトビール界の鬼才"と呼ばれるデンマークのビール、ミッケラーを、カフェコーナーで3日間の限定メニューとして提供した。希少性が高いビールの提供は話題を呼び、1日目で約半数が売れるなど好評を得た。
実施期間：10月7日（土）－9日（月・祝）
提供場所：当館ミュージアムショップ＆カフェ
協力：良質酒専門リバティ

7)ウェグナーの椅子にすわろう！

概要：展示室内にハンス・ヴィーイナ[ウェグナー]がデザインした椅子５脚に座れるコーナーを設置。撮影可能なフォトスポットとしてツイッターやインスタグラムで告知を行い、若年層を中心にSNS上で話題を集めた。

8)レゴ®ソフトであそぼう！

概要：レゴ®ブロックの中で一番大きなレゴ®ソフトを展示室内に設置。ファミリー層を意識したはがき型DMなどを通じて告知を行い、未就学児などの子ども連れでにぎわった。

出品作品リスト

1　国際的評価を得た最初のデンマーク・デザイン

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
1−1	—	皿〈ブルーフルーテッド〉	[1785頃]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H3.3×φ24.6	塩川コレクション
1−2	—	皿〈ブルーフルーテッド〉	[1864-1877]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H2.1×φ17.3	塩川コレクション
1−3 a〜e	—	バターパット〈ブルーフルーテッド〉	a[1894-1898] b[1891-1893] c[1913-1922] d[1891-1893] e[1898-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	aH0.8×Φ7.1 bH0.8×Φ7.1 cH0.8×Φ7.5 dH0.8×Φ7.3 eH0.8×Φ7.5	塩川コレクション
1−4	—	コンポート〈ブルーフルーテッド〉	[1895-1896]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H14.3×Φ21.1	塩川コレクション
1−5	—	トレイ〈ブルーフルーテッド〉	[1898-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H1.2×W28.5×D21.4	塩川コレクション
1−6	—	カップ&ソーサー〈ブルーフルーテッド〉	[1902-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H5.3×W8.2×D6.4（カップ） H1.0×Φ11.5（ソーサー）	塩川コレクション
1−7	—	カップ&ソーサー〈ブルーフルーテッド〉	[1903-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H4.7×W10.1×D8.5（カップ） H2.0×Φ13.2（ソーサー）	塩川コレクション
1−8	—	カップ&ソーサー〈ブルーフルーテッド〉	[1906-1913]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H5.3×W8.2×D6.4（カップ） H1.0×W11.2×D11.2（ソーサー）	塩川コレクション
1−9	—	皿〈ブルーフラワー〉	[1785頃]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H3.3×Φ25.1	塩川コレクション
1−10 a〜d	—	皿〈ブルーフラワー〉	[1820-1850]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	aH2.9×Φ20.4 bH2.7×Φ20.1 cH2.9×Φ21.2 dH2.8×Φ20.1	塩川コレクション
1−11	—	皿〈ブルーフラワー〉	[1894-1897]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H5.3×W40.7×D32.0	塩川コレクション
1−12	—	葉型皿〈ブルーフラワー〉	[1898-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H4.2×W23.5×D18.5	塩川コレクション
1−13	—	ピクルス皿〈ブルーフラワー〉	[1902]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H4.4×W14.0×D10.0	塩川コレクション
1−14	—	ポット〈ブルーフラワー〉	[1800頃]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H24.5×W17.7×D11.2	塩川コレクション
1−15 a〜d	ゴスタウ・フリードリク・ヘチ	カップ&ソーサー〈ブルーフラワー〉	[1898-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	aH7.2×W9.6×D7.6（カップ） H3.0×Φ13.0（ソーサー） bH7.3×W9.6×D7.5（カップ） H2.9×Φ12.9（ソーサー） cH7.3×W9.6×D7.6（カップ） H2.8×Φ13.2（ソーサー） dH7.3×W9.6×D7.8（カップ） H3.0×Φ13.0（ソーサー）	塩川コレクション
1−16	アーノル・クローウ	記念プレート 1888	[1888]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H3.0×Φ17.0	塩川コレクション
1−17	アーノル・クローウ	鉢〈マーガレットサーヴィス〉	[1898-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H10.0×W27.0×D14.7	塩川コレクション
1−18	アーノル・クローウ	皿〈マーガレットサーヴィス〉	[1900-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H2.8×Φ24.5	塩川コレクション
1−19	アーノル・クローウ	皿〈マーガレットサーヴィス〉	[1900-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H2.8×Φ24.5	塩川コレクション
1−20	アーノル・クローウ	カップ&ソーサー〈マーガレットサーヴィス〉	[1902-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H5.8×W9.0×D7.7（カップ） H1.4×Φ12.0（ソーサー）	塩川コレクション
1−21	アーノル・クローウ	カップ&ソーサー〈マーガレットサーヴィス〉	[1902-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H5.8×W9.0×D7.7（カップ） H1.4×Φ12.0（ソーサー）	塩川コレクション
1−22	ピートロ・クローン	胡椒入〈驚のサーヴィス〉	[1895-1898]	ビング オー グレンダール	磁器	H13.8×W7.0×D6.0	塩川コレクション
1−23	ピートロ・クローン	塩入〈驚のサーヴィス〉	[1898-1915]	ビング オー グレンダール	磁器	H9.6×W13.6×D7.4	塩川コレクション
1−24	ピートロ・クローン	ソース入〈驚のサーヴィス〉	[1898-1915]	ビング オー グレンダール	磁器	H14.4×W19.9×D7.1	塩川コレクション
1−25	ピートロ・クローン	カップ&ソーサー〈驚のサーヴィス〉	[1915]	ビング オー グレンダール	磁器	H6.4×W9.3×D7.4（カップ） H2.1×W11.8×D12.2（ソーサー）	塩川コレクション
1−26	—	花瓶〈金蓮花〉	[1898-1902]	ビング オー グレンダール	磁器	H30.3×W13.8×D13.5	塩川コレクション
1−27	スセデ・C・ホルデン（旧姓スコウゴー）	花瓶〈花籠〉	[1911]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H18.9×Φ10.5	塩川コレクション
1−28	ハンス・ピーダ・コフォーズ	皿〈風景〉	[1902-1914]	ビング オー グレンダール	磁器	H3.7×Φ24.6	塩川コレクション
1−29	—	皿〈帆船〉	[1902-1922]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H2.7×Φ22.8	塩川コレクション
1−30	カール・フレズレク・リースベア	皿〈風景〉	[1905]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H4.9×Φ29.6	塩川コレクション
1−31	アメーリェ・スコウ	皿〈風景〉	[1915-1948]	ビング オー グレンダール	磁器	H4.7×Φ32.5	塩川コレクション
1−32	—	皿〈風景〉	[1923-1928]	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H2.0×Φ18.0	塩川コレクション

2　古典主義から機能主義へ

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
2−1	コーオ・クリント	椅子 KK37580〈レッドチェア〉	1927	ルド・ラスムッセン工房	マホガニー、真鍮、革	H89.0×W58.0×D55.0	デンマーク・デザイン博物館
2−2	コーオ・クリント	肘掛椅子 KK47000〈サファリチェア〉	1933	ルド・ラスムッセン工房	アッシュ、キャンヴァス	H80.0×W57.0×D57.0	デンマーク・デザイン博物館
2−3	コーオ・クリント	ペンダント・ランプ〈レ・クリント101C〉	1944	レ・クリント	プラスチック	H44.0×Φ34.0	個人蔵
2−4	コーオ・クリント	テーブルランプ〈レ・クリント306〉	1945	レ・クリント	プラスチック、真鍮	H41.0×Φ36.0	個人蔵
2−5	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	机（オーフース市庁舎のためにデザイン）	1938-1939	プレーンムーブラ	チーク、オーク	H75.0×W190.0×D95.0	ハリス・リンゼー社
2−6	モーウンス・コク	折り畳み椅子 MK99200	1932	ルド・ラスムッセン工房	ビーチ、リネン、革、真鍮	H87.0×W50.0×D50.0	デンマーク・デザイン博物館
2−7	ギーオウ・イェンスン	深皿 no.2c	1905	ジョージ ジェンセン	銀	H12.0×W25.0×D32.0	個人蔵
2−8	ヨハン・ローゼ	ピッチャー no.432	1920[1933-1944]	ジョージ ジェンセン	銀	H23.0×W14.0×D12.0	個人蔵

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
2−9	アーノ・マリノウスキ	王の記章:クレスチャン10世70歳の誕生日記念	1940	ジョージ ジェンセン	スターリング銀	H3.0×W2.3	個人蔵
2−10	アーノ・マリノウスキ	ブローチピン no.5001c〈鉄と銀〉のシリーズより	1944頃	ジョージ ジェンセン	鉄、銀	H4.0×W4.0	個人蔵
2−11	カイ・ニルスン	彫像〈酒神バッカス〉	[1912]	ビング オー グレンダール	炻器	H23.0×W20.0×D10.0	塩川コレクション
2−12	カール・ヘーリャ	蓋付壺	[1929]	ロイヤル コペンハーゲン	炻器	H11.7×Φ8.7	塩川コレクション
2−13	—	蓋付壺	[1930]	ロイヤル コペンハーゲン	炻器	H10.5×Φ14.0	塩川コレクション
2−14	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈牧草地〉	1944	ノーディスカ・コンパニーエット	綿	H66.0×W142.0	トビアス・ヤコプセン
2−15	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈イラクサ〉	1944	ノーディスカ・コンパニーエット	綿	H81.0×W128.0	トビアス・ヤコプセン
2−16	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈ヨウラクユリ〉	1944	ノーディスカ・コンパニーエット	綿	H42.5×W183.0	トビアス・ヤコプセン
2−17	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈ドングリ〉	1944	ノーディスカ・コンパニーエット	リネン	H62.0×W130.5	トビアス・ヤコプセン
2−18	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈公園〉	1940年代末	テクスティール＝ラスン	綿	H48.5×W69.5	トビアス・ヤコプセン
2−19	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テキスタイル〈レモン〉	1948以前	テクスティール＝ラスン	ビスコース織物	H210.0×W133.0	個人蔵

3　オーガニック・モダニズム―デンマーク・デザインの国際化

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
3−1	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 JH550〈ピーコックチェア〉	1947	ヨハネス・ハンスン	アッシュ、チーク、ペーパーコード	H106.0×W70.0×D69.0	個人蔵
3−2	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 JH503〈ラウンドチェア／ザ・チェア〉	1949	ヨハネス・ハンスン	チーク、竹	H76.0×W64.0×D54.0	個人蔵
3−3	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 CH24〈ウィッシュボーンチェア／Yーチェア〉	1950	カール・ハンセン&サン	アッシュ、ペーパーコード	H72.0×W58.0×D58.0	個人蔵
3−4	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	肘掛椅子 CH22	1950	カール・ハンセン&サン	オーク、ペーパーコード	H70.0×W69.0×D58.0	個人蔵
3−5	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	肘掛椅子 CH27	1951	カール・ハンセン&サン	オーク、籐	H79.0×W72.0×D75.0	個人蔵
3−6	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	コーヒーテーブル AT10	1951	アンドレーアス・トゥク	オーク、チーク、籐	H50.0×W130.0×D50.0	個人蔵
3−7	バアウ・モーウンスン	椅子 J39	1947	デンマーク生活協同組合連合会	ビーチ、オーク、ペーパーコード	H76.0×W48.0×D40.0 計5	個人蔵
3−8	バアウ・モーウンスン	肘掛椅子 モデル 2225	1967	フレデリシア・ファニチャー	オーク、革	H81.0×W68.0×D80.0	個人蔵
3−9	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	椅子 モデル 3100〈アントチェア〉	1952	フリッツ・ハンセン	成形合板、スチール	H77.7×W48.0×D48.0 計2	個人蔵
3−10	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テーブル モデル 3606〈エッグテーブル〉	1952	フリッツ・ハンセン	成形合板、スチール	H70.0×W114.0×D64.0	個人蔵
3−11	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	椅子 モデル 3107〈セヴンチェア〉	1955［1967:オックスフォード大学セント・キャサリンズ・カレッジのために制作］	フリッツ・ハンセン	ビーチの成形合板、スチール	H76.0×W47.0×D44.0	個人蔵
3−12	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	椅子 モデル 3105	1955	フリッツ・ハンセン	チークの成形合板、スチール	H77.0×W40.0×D44.0 計2	個人蔵
3−13	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	椅子 モデル 3103	1955	フリッツ・ハンセン	チークの成形合板、クロムスチール	H77.0×W44.0×D48.0	個人蔵
3−14	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	スクールデスク	1955	フリッツ・ハンセン	ビーチの成形合板、スチール	H72.0×W57.0×D51.0	個人蔵
3−15	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	肘掛椅子〈エッグチェア〉	1958［1965頃］	フリッツ・ハンセン	アルミニウム、革	H107.0×W85.0×D81.0	個人蔵
3−16	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	肘掛椅子〈スワンチェア〉	1957-1958	フリッツ・ハンセン	アルミニウム、布	H76.0×W76.0×D70.0	個人蔵
3−17	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	テーブル	1958	フリッツ・ハンセン	成形合板、アルミニウム	H46.0×Φ58.0	個人蔵
3−18	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	ペンダント・ランプ〈AJ〉	1957	ルイスポールセン	アルミニウム、スチール	H17.0×Φ49.0	個人蔵
3−19	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	コーヒーポット、クリーマー、砂糖入れ〈シリンダ・ライン〉	1964	ステルトン	ステンレススチール、ベークライト	H17.0×W20.0×D8.5（コーヒーポット） H9.5×W5.5×D5.0（クリーマー） H5.5×Φ7.5（砂糖入れ）	個人蔵
3−20	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	サーバー〈AJ〉	1957	A・ミゲルスン	ステンレススチール	L32.0×W3.4	個人蔵
3−21	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	カトラリー〈AJ〉	1957	A・ミゲルスン	ステンレススチール	L20.2×W1.8（フォーク） L18.8×W1.5（フォーク） L15.7×W1.3（フォーク） L18.7×W3.0（スプーン） L15.8×W2.0（スプーン） L17.0×W5.0（スプーン） L17.0×W5.0（スプーン） L16.5×W2.5（ナイフ） L20.0×W1.8（ナイフ）	個人蔵
3−22	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	サラダサーバー〈シリンダ・ライン〉	1964以降	ステルトン	ステンレススチール	L31.0×W5.0	個人蔵
3−23	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコプセン］	ドアハンドル〈AJ〉	1956	カール・F・ピーダスン	真鍮、ブロンズ	L13.0×W8.0	個人蔵
3−24	フィン・ユール	椅子 FJ46	1946	ニルス・ヴォザ	チーク、布	H84.0×W62.0×D58.0	個人蔵

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
3−25	フィン・ユール	椅子〈チーフテンチェア〉	1949	ニルス・ロート・アナスン	チーク、革	H94.0×W102.0×D93.0	デンマーク・デザイン博物館
3−26	フィン・ユール	サイドテーブル FD531	1950年代	フランス・オ・ダーファコースン	チーク	H39.0×W59.0×D43.0	個人蔵
3−27	フィン・ユール	コーヒーテーブル FD531／45	1950年代	フランス・オ・セン	チーク	H45.0×W175.0×D60.0	個人蔵
3−28	フィン・ユール	ボウル	1951	マウネ・モンスン・フォ・カイ・ボイイスン	チーク	H17.5×W37.5×D34.0	個人蔵
3−29	フィン・ユール	ソファ モデル 137〈ジャパンソファ〉	1953	フランス・オ・セン	チーク、ウール	H73.0×W120.0×D73.0	個人蔵
3−30	フィン・ユール	椅子 モデル 96	1956	セーアン・ヴィラスン家具工場	オーク、チーク、籐	H79.0×W72.0×D75.0	個人蔵
3−31	フィン・ユール	椅子 FD192	1959	フランス・オ・セン	チーク、革	H83.0×W70.0×D58.0	個人蔵
3−32	ヴィルヘルム・ロンストラム	静物	[1940頃]	—	リトグラフ	H27.0×W22.0	個人蔵
3−33	リカート・モーデンスン	（不詳）	[1961]	—	シルクスクリーン	H61.0×W47.0	個人蔵
3−34	リカート・モーデンスン	（不詳）	[1965]	—	印刷	H70.0×W51.0	個人蔵
3−35	リカート・モーデンスン	（不詳）	[1965]	—	印刷	H70.0×W51.0	個人蔵
3−36	リカート・モーデンスン	『アトリエ143』から	[1967頃]	—	シルクスクリーン	H70.0×W50.0	個人蔵
3−37	リカート・モーデンスン	（不詳）	[1968]	—	シルクスクリーン	H63.0×W75.0	個人蔵
3−38	リカート・モーデンスン	（不詳）	[1968]	—	シルクスクリーン	H75.0×W56.0	個人蔵
3−39	リカート・モーデンスン	（不詳〈コンポジション〉か?）	[1969]	—	シルクスクリーン	H75.0×W59.0	個人蔵
3−40	ロバート・ヤコプスン	（不詳）	[1975頃]	—	シルクスクリーン	H64.0×W86.0	個人蔵
3−41	ポウル・ケアホルム	椅子 EKC22	1955	E・コル・クレステンスン	クロムスチール、革	H72.0×W59.0×D64.0	個人蔵
3−42	ポウル・ケアホルム	テーブル EKC61	1956	E・コル・クレステンスン	クロムスチール、スレート	H33.0×W86.5×D86.5	個人蔵
3−43	ポウル・ヘニングスン	ペンダント・ランプ〈PHアーティチョーク〉	1957	ルイスポールセン	銅、スチール、クロム板、アルミニウム	H84.0×Φ84.0	個人蔵
3−44	ポウル・ヘニングスン	ペンダント・ランプ〈PH5〉	1958	ルイスポールセン	アルミニウム	H30.0×Φ51.0	個人蔵
3−45	ポウル・ヘニングスン	ペンダント・ランプ〈PHコントラスト〉	1958-1962	ルイスポールセン	アルミニウム	H44.0×Φ44.0	個人蔵
3−46	ポウル・ヘニングスン	ペンダント・ランプ〈PH4/3〉	1966	ルイスポールセン	アルミニウム	H20.0×Φ42.0 計2	個人蔵
3−47	ヴェアナ・パントン	椅子〈ハートコーンチェア〉	1958	ヴィトラ	ステンレススチール、ウール	H89.0×W103.0×D62.5	個人蔵
3−48	ヴェアナ・パントン	椅子 271F	1965	トーネット	成形合板	H75.0×W63.0×D65.0	個人蔵
3−49a	ヴェアナ・パントン	椅子〈パントンチェア〉	1967[1974]	ハーマンミラー	プラスチック	H83.0×W48.0×D56.0	個人蔵
3−49b	ヴェアナ・パントン	椅子〈パントンチェア〉	1967[1976]	ハーマンミラー	プラスチック	H83.0×W48.0×D56.1	個人蔵
3−50	ヴェアナ・パントン	ペンダント・ランプ〈フラワーポット〉	1968	ルイスポールセン	スチールにエナメル加工	H15.7×Φ21.5 計3	個人蔵
3−51	ナナ・ディツェル	肘掛椅子 モデルOD-5301-2	1969	オゼンセ木工所	ファイバーグラス	H79.0×W49.0×D56.0	個人蔵
3−52	ピーダ・ヴィト／オーラ・ムルゴー＝ニルスン	椅子〈AXチェア〉	1947	フリッツ・ハンセン	ビーチとチークの成形合板	H75.5×W61.0×D74.0	個人蔵
3−53	イェンス・ヨート	椅子 モデル 306	1954	ラナス椅子工場	ビーチ、チークの成形合板	H84.0×W55.0×D54.0	個人蔵
3−54	トーヴェ・キント＝ラースン／イズヴァト・キント＝ラースン	肘掛椅子 モデル 117	1956	フランス・オ・ダーファコースン	オーク、チーク、ウール	H77.0×W61.0×D79.0	個人蔵
3−55	カーアン・クレメンスン／エベ・クレメンスン	肘掛椅子 モデル 4305	1959	フリッツ・ハンセン	アッシュ、革、真鍮	H73.0×W61.0×D71.0	個人蔵
3−56	イロム・ヴィゲルスー	ロッキングチェア	1958	N・アイラスン	オーク	H73.0×W53.0×D92.0	個人蔵
3−57	カイ・クレスチャンスン	椅子、フットレスト モデル 161	1963	マウヌス・オーレスン	木、ウール	H73.0×W63.0×D75.0（椅子） H44.0×W58.0×D44.0（フットレスト）	個人蔵
3−58	アクトン・ビャアン	ポータブルラジオ〈ベオリット500〉	1965	バング&オルフセン	チーク、プラスチック	H7.5×W26.0×D18.5 計3	個人蔵
3−59a	ヤコプ・イェンスン	FMチューナー／アンプ〈ベオマスター1200〉	1969	バング&オルフセン	アルミニウム、プラスチック、木	H7.6×W54.6×D20.7	個人蔵
3−59b	ヤコプ・イェンスン	レコードプレーヤー〈ベオグラム1200〉	1969	バング&オルフセン	プラスチック、アルミニウム、ステンレススチール	H11.6×W44.0×D33.0	個人蔵
3−60	ヤコプ・イェンスン	ポータブルラジオ〈ベオリット600〉	1970	バング&オルフセン	木、アルミニウム、スチール、プラスチック	H18.0×W34.0×D5.5	個人蔵
3−61	ヤコプ・イェンスン	レコードプレーヤー〈ベオグラム4000〉	1972	バング&オルフセン	アルミニウム、プラスチック、木	H10.0×W48.0×D37.0	個人蔵
3−62	ヤコプ・イェンスン	レシーバー〈ベオマスター1900〉	1976	バング&オルフセン	アルミニウム、プラスチック、スチール、木	H6.5×W61.0×D24.5	デンマーク・デザイン博物館
3−63	—	掃除機	1960	ニルフィスクアドバンス	アルミニウム、プラスチック	H41.0×Φ30.0	デンマーク・デザイン博物館
3−64	イェンス・クヴィストゴー	両手鍋〈コペンスタイル〉	1954	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	スチールにエナメル加工	H12.0×W26.0×D18.3	個人蔵
3−65	イェンス・クヴィストゴー	片手鍋〈コペンスタイル〉	1954	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	スチールにエナメル加工	H11.5×W31.0×D18.0	個人蔵
3−66	イェンス・クヴィストゴー	アイスペール	1958頃	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	チーク、プラスチック	H49.0×Φ22.0	個人蔵

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
3−67	イェンス・クヴィストゴー	サラダボウルセット	1960	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	チーク	H10.5×Φ23.8（ボウル） L34.5×W4.5（サーバー） L34.5×W4.3（サーバー）	個人蔵
3−68	イェンス・クヴィストゴー	カトラリー〈チャアン〉	1959	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	スチール	L20.5×W3.0（フォーク 計2） L16.6×W2.1（バターナイフ）	個人蔵
3−69	イェンス・クヴィストゴー	キャンドルホルダー〈クラウン〉	1960	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	スチール	H8.0×Φ10.0	個人蔵
3−70	イェンス・クヴィストゴー	キャンドルホルダー	1960	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	鋳鉄	H4.4×Φ18.2	個人蔵
3−71	イェンス・クヴィストゴー	キャンドルホルダー	1960	ダンスク・インターナショナル・デザインズ	鋳鉄	H3.3×Φ10.9	個人蔵
3−72	ヘニング・コベル	ピッチャー no.992	1952	ジョージ ジェンセン	銀	H28.7×Φ21.8	ジョージ ジェンセン A/S
3−73	ヘニング・コベル	ブローチ no.306	1947	ジョージ ジェンセン	銀、エナメル	H5.5×W5.0	個人蔵
3−74	ヘニング・コベル	ブローチ no.307	1947	ギーオウ・イェンスン・オ・ヴェネル	銀、エナメル	H6.5×W3.5	個人蔵
3−75	ヘニング・コベル	ブローチ no.322	1947	ジョージ ジェンセン	銀	H5.0×W3.5	個人蔵
3−76	ヘニング・コベル	ブローチ no.314	1954	ジョージ ジェンセン	銀、エナメル	H7.0×W3.0	個人蔵
3−77	ヘニング・コベル	ブローチ no.315	1954	ジョージ ジェンセン	銀、エナメル	H4.5×W4.5	個人蔵
3−78	ヘニング・コベル	ブローチ no.323	1956	ジョージ ジェンセン	銀、エナメル	H6.2×W6.0	個人蔵
3−79	ヘニング・コベル	ブローチ no.327	1956	ジョージ ジェンセン	銀	H6.0×W2.5	個人蔵
3−80	ヘニング・コベル	イヤリング no.118〈スプラッシュ〉	1965	ジョージ ジェンセン	金	H3.0×W2.0	個人蔵
3−81	ナナ・ディツェル／ヤアアン・ディツェル	ブローチ no.328	1957	ジョージ ジェンセン	銀、ヘマタイト	H5.0×W4.0	個人蔵
3−82	—	指輪	1967	ジョージ ジェンセン	銀	H3.0×W2.0	個人蔵
3−83	ヘニング・コベル	カトラリー〈カラヴェル〉	1957	ジョージ ジェンセン	銀	L21.7×W5.7（スプーン） L10.5×W2.4（スプーン） L18.8×W3.0（フォーク） L17.0×W3.0（フォーク） L16.3×W3.0（フォーク） L4.6×W1.8（フォーク） L19.8×W3.0（ナイフ） L19.2×W2.2（ナイフ） L16.8×W1.7（ナイフ） L15.3×W2.7（ナイフ）	個人蔵
3−84	ヘニング・コベル	サラダサーバー〈カラヴェル〉	1957	ジョージ ジェンセン	銀、メラミン	L29.0×W7.5	個人蔵
3−85	スヴェン・シューネ	カトラリー〈ブルーシャーク〉	1965	ジョージ ジェンセン	ステンレススチール	L17.2×W4.9（スプーン） L14.5×W3.8（スプーン） L17.4×W3.1（フォーク） L14.7×W2.5（フォーク） L18.9×W2.5（ナイフ）	個人蔵
3−86	ヘニング・コベル	片手鍋、両手鍋〈タヴェアナ〉	1971頃	ジョージ ジェンセン	銅、スチール	H17.8×W41.5×d21.0（蓋付片手鍋） H10.5×W22.1×d16.1（蓋付両手鍋） H14.3×W47.1×d26.1（蓋付片手鍋） H1.2×W37.1×d20.0（片手鍋）	個人蔵
3−87	ベント・スィヴェリーン	グラス〈プリンセス〉	1957	ホルメゴー・グラスワークス	ガラス	H8.9×Φ3.5（ウォッカグラス 計2） H10.0×Φ5.0（ブランデーグラス 計2） H7.5×Φ7.2（シャーベットグラス 計2） H10.0×Φ10.4（シャーベットグラス 計2） H13.8×Φ6.4（ワイングラス 計2） H16.5×Φ7.5（ワイングラス 計2） H20.8×Φ8.5（グラス 計2） H21.5×Φ5.9（シャンパングラス 計2）	個人蔵
3−88a	ピア・リュトケン	ベース、ピッチャー〈カーナビ〉	1968	ホルメゴー・グラスワークス	ガラス	H12.5×Φ10.0（ベース） H15.2×Φ12.5（ベース） H13.2×Φ12.0（ベース） H25.7×Φ9.5（ベース） H23.0×Φ12.0（ベース） H20.5×Φ13.2（ピッチャー）	個人蔵
3−88b	ピア・リュトケン	ベース、ピッチャー〈カーナビ〉	1968	ホルメゴー・グラスワークス	ガラス	H24.0×Φ12.0（ベース） H23.5×Φ10.0（ベース） H20.0×Φ19.0（ベース） H15.5×Φ12.5（ベース） H30.3×Φ12.5（ベース） H20.5×Φ13.5（ピッチャー）	個人蔵
3−89	ミケール・バング	ペンダント・ランプ	1950-1959	ホルメゴー・ライト	チーク、ガラス	H31.0×Φ14.0	個人蔵
3−90	ミケール・バング	ペンダント・ランプ	1950-1959	ホルメゴー・ライト	チーク、ガラス	H38.0×Φ13.4	個人蔵
3−91	ゲアトルズ・ヴェーセゴー	ティーポット〈ギーミナ〉	1960	ロイヤル コペンハーゲン	陶器	H23.0×W17.0×D12.0	個人蔵
3−92	ゲアトルズ・ヴェーセゴー	蓋付深皿〈ゲマ〉	1961	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H12.0×W28.0×D24.0	個人蔵
3−93	グレーデ・マイア	食器セット〈ブローカント〉	1965	ロイヤル コペンハーゲン	陶器（ファイアンス焼）	H4.7×W10.5×D8.5（カップ） H1.5×Φ13.6（ソーサー） H9.5×W18.0×D12.2（ティーポット） H7.8×W8.4×D7.0（クリーマー） H6.3×Φ9.3（シュガーポット） H1.5×Φ17.0（円形皿） H12.5×Φ23.2（鍋）	個人蔵
3−94	グレーデ・マイア	蓋付ボウル〈ファイヤーポット〉	1976	ロイヤル コペンハーゲン	炻器	H5.0×D13.5（ボウル 計2） H1.8×D13.0（蓋 計2）	個人蔵
3−95	ヘアバト・クレンケル	ボウル〈クレーニトボウル〉	1953	トーベン・アアスコウ	金属にエナメル加工	H12.0×Φ38.4 H14.0×Φ25.0 計2 H11.0×Φ25.0	個人蔵

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
3−96	スィーグヴァード・バーナドット／アクトン・ビャアン	ボウル〈マグレーデボウル〉	1954	ロスティ	メラミン	H13.0×W21.5×D18.2	デンマーク・デザイン博物館
3−97	オーレ・キアク・クレスャンスン	無限連結式ブロック玩具〈レゴブロック〉	1960頃	レゴ	プラスチック	H8.2×W6.1×D2.3（紙箱） H4.8×W10.0×D10.0（紙箱） H2.5×W20.0×D20.0（紙箱）	個人蔵
3−98	カイ・ボイイスン	玩具〈サル〉	1951	カイ・ボイイスン	木	H19.0×W16.0×D5.0	個人蔵
3−99	カイ・ボイイスン	木馬	[1950年代-1960年代]	カイ・ボイイスン建築事務所	ビーチ	H56.0×W86.0×D22.0	個人蔵
3−100	ヤコプ・イェンスン	玩具〈デンマークのバイキング〉	1958	コペンハーゲン・デザイン	木	H14.0×W6.0×D5.0 H10.6×W6.0×D6.5 H10.0×W6.0×D5.0	個人蔵
3−101	ヤコプ・イェンスン ヤン・トレーゴード	薬味入れ〈エスキモー〉	1960	コペンハーゲン・デザイン	木	H6.0×Φ4.0 H7.0×Φ4.0 H9.0×Φ4.0 H12.0×Φ5.0	個人蔵
3−102	—	ポスター〈私たちの家、ノルディック展〉	1950頃	デンマーク美術工芸協会	ポスター	H81.0×W59.0	個人蔵
3−103	アーネ・オンガマン	ポスター〈デン・ベアマネンデーデンマークの工芸と産業美術〉	1956	アンドレーアスン・オ・ラクマン	ポスター	H85.0×W62.0	個人蔵
3−104	ヴィゴ・ヴァウンビュー	ポスター〈ワンダフル・コペンハーゲン〉	1953	イェンス・クレスチャン・サアアンスン／コペンバーゲン観光協会	リトグラフ	H99.0×W61.0	個人蔵
3−105	イブ・アントーニ・イェンスン	ポスター〈上質な家具で有名〉	1964	デンマーク外務省	ポスター	H100.0×W63.0	個人蔵
3−106	ボウル・セーロモンスン	ポスター〈Yチェア〉	1965頃	カール・ハンセン&サン	ポスター	H100.0×W62.0	個人蔵
3−107	ピア・アーノルディ	ポスター〈コペンバーゲンジャズーヨーロッパの中心〉	1972	カイ・スヴェンスン	シルクスクリーン	H100.0×W62.0	個人蔵

4　ポストモダニズムと現代のデンマーク・デザイン

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
4−1	イーレク・マウヌスン	バキュームジャグ	1976（1979）	ステルトン	プラスチック、ガラス	H30.0×W18.0×D10.5	デンマーク・デザイン博物館
4−2	ニルス・ヤアアン・ハウゲスン	椅子〈Xラインチェア〉	1977	ヒュボデーン	クロムメッキスチール、金属	H77.0×W50.5×D49.0	デンマーク・デザイン博物館
4−3	オーレ・パルスビュー	鍋、蓋〈イーヴァ・トリオ〉	1977	イーヴァソーロ	銅、ステンレススチール、アルミニウム	H15.7×W27.7×D21.3（キャセロール 4.8l） H1.5×131.7×D21.7（蓋） H12.7×W23.6×D17.4（キャセロール 2.5l） H13.2×W31.0×D21.6（キャセロール 3.9l）	デンマーク・デザイン博物館
4−4	ボダム	フレンチプレスコーヒーメーカー〈シャンボー〉	1982	ボダム	ガラス、プラスチック、ステンレススチール	H24.5×W17.1×D10.5	個人蔵
4−5	ヴィヴィアンナ・トールン・ビーロヴ＝ヒーベ	ペーパーナイフ	1989	ジョージ ジェンセン	銀	W23.0×D2.3	個人蔵
4−6 a〜h	ウアスラ・モンク＝ピーダスン	食器セット〈ウアスラ〉	1991	ケーラーデザイン	炻器	aH16.7×W21.5×D11.2（ジャグL） bH13.2×W17.0×D8.8（ジャグM） cH10.7×W11.2×D7.7（ジャグS） dH6.8×W13.5×D10.2（カップ） eH10.5×W22.0×D14.0（ボウルL） fH6.0×W10.6×D8.2（ボウルS） gH6.2×Φ19.7（深皿） hH3.4×W34.0×D22.2（プレートL）	デンマーク・デザイン博物館
4−7	オーレ・イェンスン	ピッチャー	1993	ロイヤル コペンハーゲン	陶器（ファイアンス焼）	H20.0×W20.0×D10.5	個人蔵
4−8	ナナ・ディツェル	椅子〈トリニダードチェア〉	1993	フレデリシア・ファニチャー	オーク、スチール	H83.0×W47.5×D57.0	デンマーク・デザイン博物館
4−9	オーレ・イェンスン	洗い桶セット〈ウォッシングアップボウル〉	1996（2002）	ノーマン コペンハーゲン	ゴム、ビーチ、毛	H14.0×W28.0×D28.0（桶） L22.5（ブラシ）	デンマーク・デザイン博物館
4−10	ハンス・サングレーン・ヤコブスン	スツール〈ギャラリースツール〉	1998	フレデリシア・ファニチャー	アッシュ、スチールパイプ	H48.0×W52.0×D36.0	デンマーク・デザイン博物館
4−11	コンプロト・ディサイン（ボーリス・ベルリーン／ボウル・クレスチャンスン）	椅子〈ノンチェア〉	2000	チェッレモー	スチール、ウレタンゴム	H77.0×W44.0×D39.0	デンマーク・デザイン博物館
4−12	カーアン・ケルゴー＝ラースン	皿、カップ〈ブルーフルーテッドメガ〉	2000	ロイヤル コペンハーゲン	磁器	H10.0×W12.0×D9.0（カップ） H3.7×Φ27.2（皿） H2.5×Φ17.0（皿）	デンマーク・デザイン博物館
4−13	スィスィーリェ・マンス	ペンダント・ランプ〈カラヴァッジョ〉	2005	ライトイヤーズ	スチール	H50.0×Φ40.0	デンマーク・デザイン博物館
4−14	コンプロト・ディサイン（ボーリス・ベルリーン／ボウル・クレスチャンスン）	椅子〈リトル・ノーバディ〉	2007	ヘイ	PETフェルト、ポリマー繊維、プラスチックボトルからのリサイクル素材	H46.0×W42.0×D40.0	デンマーク・デザイン博物館
4−15	キビースィ	自転車〈NYC〉	2014	ビオミーガ	アルミニウム、スチール	H103.0×W63.0×D170.0	デンマーク・デザイン博物館
4−16	キビースィ	自転車〈PEK〉	2015	ビオミーガ	アルミニウム、スチール	H99.5×W60.0×D210.0	デンマーク・デザイン博物館
4−17	イェンス・マーティン・スキプステズ	自転車〈BOS〉	2016	ビオミーガ	アルミニウム、スチール	H118.0×W77.5×D160.0	デンマーク・デザイン博物館
4−18	ヘンレク・クーベル	ポスター〈ラブストーリーズ〉	2006	アヴェニュ＝ティー	ポスター	H99.9×W70.0	デンマーク・デザイン博物館
4−19	タルエア	ポスター〈コペンバーゲン・ジャズ・フェスティヴァル〉	2009	コペンバーゲン・ジャズ・フェスティヴァル	ポスター	H93.0×W70.0	デンマーク・デザイン博物館

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
4−20	ミケール・イェンスン	ポスター〈スロッビング・グリッスル〉	2009	デンマーク国立ギャラリー	ポスター	H84.7×W60.0	デンマーク・デザイン博物館
4−21	イドナ グループ（前:スカンディナビアン・デザインラボ）	ポスター〈レボルブ〉	2010	リパブリック劇場	ポスター	H99.9×W69.9	デンマーク・デザイン博物館
4−22	ピーダ・ケーア・アナスン	ポスター〈レストラン　ル・サン・ジャック〉	2010	レストラン ル・サン・ジャック	ポスター	H100.0×W70.0	デンマーク・デザイン博物館
4−23	マス・ベアウ	ポスター〈チョコレート〉	2011頃	ハンスンのアイスクリーム	ポスター	H70.0×W50.0	デンマーク・デザイン博物館
4−24	ピア・アーノルディ	ポスター〈聴覚の100年〉	2012	難聴者協会	ポスター	H80.0×W60.0	デンマーク・デザイン博物館
4−25	ギデ・カト	ポスター〈子どもたちの演劇フェスティヴァル〉	2014	児童演劇フェスティバル	ポスター	H99.0×W70.0	デンマーク・デザイン博物館
4−26	ディサインボーレーエズ	ポスター〈ラーニング・フロム・ジャパン展〉	2015	デンマーク・デザイン博物館	ポスター	H84.0×W59.4	デンマーク・デザイン博物館
4−27	フィン・ニュゴー	ポスター〈オーフス・ジャズ・フェスティヴァル〉	2015	オーフス・ジャズ・フェスティヴァル	ポスター	H150.0×W100.0	デンマーク・デザイン博物館

特別出品

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
1	ロナン&エルワン・ブルレック	クラウズ	2009	クヴァドラ	ウール	L47.0×W21.0	クヴァドラ
2	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp503〈ラウンドチェア／ザ・チェア〉	1950	PPモブラー	オーク、革	H76.0×W63.0×D52.0	PPモブラー
3	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp19〈パパベアチェア〉	1951	PPモブラー	オーク、布	H101.0×W90.0×D95.0	PPモブラー
4	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp505〈カウホーンチェア〉	1952	PPモブラー	オーク、籐	H74.0×W59.0×D45.0	PPモブラー
5	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp250〈ヴァレットチェア〉	1953	PPモブラー	メープル、ウェンジ	H95.0×W51.0×D50.0	PPモブラー
6	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp701〈ミニマルチェア〉	1965	PPモブラー	オーク、革、スチール	H70.0×W63.0×D45.5	PPモブラー
7	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp130〈サークルチェア〉	1986	PPモブラー	アッシュ、布、ロープ、スチール	H97.0×W112.0×D94.0	PPモブラー
8	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	椅子 pp68〈アームチェア〉	1987	PPモブラー	オーク、ペーパーコード	H72.0×W58.0×D47.0	PPモブラー
9	—	椅子のパーツ	—	PPモブラー	オーク		PPモブラー

参考出品

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
1	ヤコブ・イェンスン	スピーカー ベオヴォックス 1702	1972	バング&オルフセン	木、布	H33.0×W18.0×D18.0	個人蔵
2	ハンス・ヴィーイナ［ウェグナー］	コーヒーテーブル AT10	1951	アンドレーアス・トゥク	オーク、チーク、籐	H50.0×W50.0×L163.0	個人蔵
3	バアウ・モーウンスン	テーブル モデル 284	1965	フレデリシア・ファニチャー	オーク	H68.0×W89.0×L180.0	個人蔵
4	—	家具カタログ: E・コル・クレステンスン社	1964	E・コル・クレステンスン	カタログ	H14.0×W14.0	個人蔵
5	—	家具カタログ: ヨハネス・ハンスン社による ハンス・ヴィーイナの家具	1965	ヨハネス・ハンスン	カタログ	H18.5×W12.5	個人蔵
6	—	家具カタログ: ニルス・ヴォザ社による フィン・ユールの家具	1956	ニルス・ヴォザ	カタログ	H15.3×W22.5	個人蔵
7	—	家具カタログ: フリッツ・ハンセン社	—	フリッツ・ハンセン	カタログ	H21.0×W16.0	個人蔵
8	ナナ・ディツェル ヤアアン・ディツェル編	書籍『デンマークの椅子』	1954	—	書籍	H23.4×W21.5	個人蔵
9	—	アメリカの巡回展カタログ『デザイン・イン・スカンディナヴィア』	1954-1957	—	カタログ	H23.0×W18.3	個人蔵
10	—	アメリカの雑誌広告: SAS（スカンディナヴィアン・エアラインズ・システム）			印刷	H32.0×W23.0	個人蔵
11	—	アメリカの雑誌広告: ジョージジェンセン	—	—	印刷	H28.3×W19.6	個人蔵

静岡展特別出品

No.	デザイナー・作家名	作品名	デザイン年（制作年は[ ]内に記載）	制作・メーカー・クライアント名等	素材・技法	サイズ（cm）	所蔵
	アーネ・ヤコプスン［アルネ・ヤコブセン］	椅子 モデル 3107〈セヴンチェア〉	1955［2015］	フリッツ・ハンセン（生地 ミナ ペルホネン、'dop'に'tambourine'の刺繍）	オレゴンパインの成形合板、スチール	H80.5×W49.0×D50.0	個人蔵
	オーレ・キアク・クレスチャンスン	無限連結式ブロック玩具〈レゴブロック〉	1970年代	レゴ	プラスチック		株式会社イマージュ

2－4　ウェールズ国立美術館所蔵
ターナーからモネへ

会期：11月23日（木・祝）－1月28日（日）

概要：英国・ウェールズの中心都市カーディフにあるウェールズ国立美術館は、1907年に設立された。同館は、ターナーやコンスタブル、ロセッティら英国の巨匠はもとより、ミレーやコロー、マネ、モネ、ピサロ、シスレー、ルノワールなどの優れたフランス近代美術のコレクションでも知られている。
印象派のモネやピサロは、普仏戦争の戦禍を避けるため滞在したロンドンで、ターナーの作品にふれ、非常に感銘を受けたといわれている。一方、19世紀から20世紀初めの英国の若い画家たちは、フランスの印象派に影響を受けた作品を描き、自国の美術に新しい風を吹き込んだ。本展は、近代の英仏両国の美術が海峡を越えて行き来する様子を、同館のコレクションを精選した約70点によりたどった。

巡回先：広島県立美術館、愛媛県美術館、熊本県立美術館、岡崎市美術博物館、福井県立美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、ブリティッシュ・カウンシル、中日ショッパー

企画協力：ホワイトインターナショナル

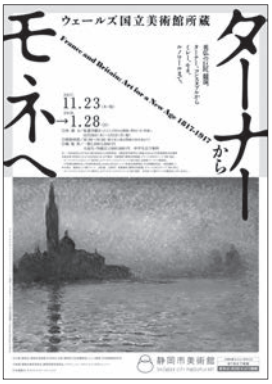
観覧料：一般　1,200円（1,000円）
大高生・70才以上　800円（600円）
※（　）内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：25,503人（有料19,486人、無料6,017人、有料率76.41%）

出品点数：73点

印刷物：
1）チラシ
＜仕様＞紙：MTA＋ 110kg
サイズ・数量：A4 55,000部

2）ポスター
＜仕様＞紙：MTA＋ 135kg
サイズ・数量：
B1 70部、B2 2,000部、B3 2,800部（うち400部はJR帯つき）



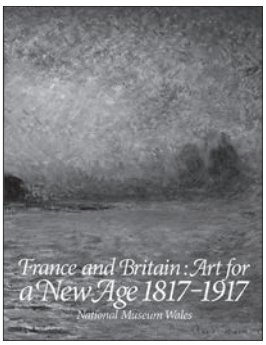
チラシ表面

チラシ裏面

B1・B2ポスター

B3ポスター

カタログ：
＜仕様＞225×290mm、151頁



カタログ表紙

カラー図版91点
参考図版（カラー2点、モノクロ31点）

アン・プリチャード「ウェールズに芸術をもたらす：国家のための収集」
千足伸行「イギリスとフランス：響きあう絵画」
村上哲「モネのロンドン－光は海峡を越えて」

作品リスト

編集：広島県立美術館、愛媛県美術館、熊本県立美術館、静岡市美術館、福井県立美術館

発行：ホワイトインターナショナル
発行年：2017年

普及ツール：
1）音声ガイド

2）プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施
会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。
実施日：①11月24日（金）　②12月22日（金）　③1月26日（金）
利用者数：①65件　②57件　③172件

各種連携：
1）近隣店舗との連携
葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。
印刷物：
◆チラシ
＜仕様＞紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

協賛チラシ表

協賛チラシ裏

主要広報記録：
1）テレビ・ラジオ
・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、4月16日放送。
・「英仏の美術の歴史たどる　ターナーからモネへ　美術展開幕」テレビ静岡『FNNスピーク静岡』および『FNNみんなのニュース静岡』、11月23日放送。
・「展覧会紹介」FM-Hi『chalcha!サタデー　静岡ドライブインフォメーション』、12月2日放送。
・「西洋近代美術の傑作　ターナーからモネへ　1万人来場」テレビ静岡『FNNテレビ静岡ニュース』、1月5日放送。

2）新聞
・沢田佳孝「英仏美術変遷たどる　あすから　ターナーからモネへ展　静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、11月22日。
・小川かい「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ　戦禍　海峡を越えて　変革期の英仏交流　名画に」『中日新聞』静岡版、11月23日。
・松野穂波「英仏の美術交流　軌跡追う　静岡「ターナーからモネへ」開幕」『中日新聞』静岡版、11月24日。
・小川かい「ターナーからモネへ①　ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー「難破後の朝」1840年頃　一瞬を微妙な色彩で」『中日新聞』静岡版、12月6日。
・小川かい「ターナーからモネへ②　ジョン・コンスタブル「麦畑の農家」1817年　ドラクロワらに影響」『中日新聞』静岡版、12月7日。
・小川かい「ターナーからモネへ③　ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ「麗しのロザムンド」1861年　忠実さより質感、色彩」『中日新聞』静岡版、12月9日。
・小川かい「ターナーからモネへ④　クロード・モネ「サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏」1908年　「世界一の夕日」描く」『中日新聞』静岡版、12月12日。
・小川かい「ターナーからモネへ⑤　ピエール＝オーギュスト・ルノワール「会話」1912年　病と闘う熱意　感じる」『中日新聞』静岡版、12月13日。
・松野穂波「「ターナーからモネへ」展　観覧1万人を達成」『中日新聞』静岡版、1月6日。

・松野穂波「印象派の産声聞いて　ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」『中日新聞』静岡版、1月10日。
・宇野愛「ターナーからモネへ　スタッフおすすめの1点(上)　エルネスト・メッソニエ「お人好しといかさま師」1861年」『中日新聞』静岡版、1月16日。
・五島薫「ターナーからモネへ　スタッフおすすめの1点(中) ジョン・レイヴァリー「手紙」1908年頃」『中日新聞』静岡版、1月17日。
・望月久美子「ターナーからモネへ　スタッフおすすめの1点(下) アレクサンダー・フォーブス「鍛冶場」1894年」『中日新聞』静岡版、1月18日。
・「「ターナーからモネへ」展28日まで」『中日新聞』静岡版、1月23日。
・「「ターナーからモネへ」展あすまで」『中日新聞』静岡版、1月27日。

3)雑誌他

・「展覧会紹介」『すろーかる』、8月号。
・「19～20世紀初頭の英仏巨匠たちによる名品」『美術展ぴあ』、2017秋冬－2018年号。
・「展覧会紹介」『SHIZU TAB』、Vol.12。
・「展覧会紹介」『LW Magazine』、Vol.34。
・「展覧会紹介」『CONFORT』、No.158。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、12月号。
・「英仏の美術の変遷をたどる　ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」『男の隠れ家』、12月号。
・「展覧会紹介」『ひととき』、12月号。
・「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ　英仏両国の巨匠たちの競演　来年1月28日まで開催中」『中日ショッパー』、vol.2197。
・「時代や流行の移り変わりを名画で味わう　ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」静岡市美術館」『Éclat』、12月号。
・「展覧会紹介」『Seoul art guide = 서울아트가이드』、12月号。
・「展覧会紹介」『InRed』、1月号。
・「ターナーからモネへ」『富士ニュース』、第21459号。
・「展覧会紹介」『HANAMARU』、Vol.4。
・「展覧会紹介」『月刊アートコレクターズ』、1月号。
・「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ　英仏の巨匠が競演」『婦人公論』、1月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「しずぎんSTATION」、「ウェッブマガジンきんぼう」、「ARTLOGUE」、「静岡市facebook」、「アットエス」「一般社団法人日英協会」、「ART NAVI」、「静清信用金庫LINE配信」

1月5日　来場者1万人達成

関連事業：

1)静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業／キニナルスキニナルプロジェクト／静岡室内楽フェスティバル2017

コンサート「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」

概要：静岡音楽館AOIの協力で、静岡出身のフルーティストと「静岡の名手たち」オーディション合格者のピアニストによるコンサートを開催した。展覧会の内容にあわせ、ドビュッシーやプーランク等19世紀から20世紀初頭のフランスの作曲家たちを中心とした曲が披露されたほか、曲の合間には出演者によるトークや、曲の背景を理解しやすくするために詩の朗読も行われた。
日時：11月26日(土)13:30開場　14:00開演
会場：多目的室　　**参加料**：1,000円　　**参加者数**：101人
出演：古川はるな(フルート)、平井陽子(ピアノ)
曲目：ビゼー：《アルルの女》より「メヌエット」､「ファランドール」／ゴーベール：《マドリガル》／プーランク：シャンソン＜愛の小径＞／同：夜想曲第1番／同：夜想曲第7番／ゴダール：組曲《3つの小品》Ⅰ.アレグレット、Ⅱ.牧歌、Ⅲ.ワルツ／ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》より 第3曲「月の光」／同：《小組曲》より 第1曲「小舟にて」／同：《版画》より 第3曲「雨の庭」／同：《シリンクス》／ムーケ：フルート・ソナタ《パンの笛》Ⅰ.パンと羊飼いたち、Ⅱ.パンと小鳥たち、Ⅲ.パンと妖精たち

2)講演会①「風景が輝く時：ターナーからモネへ」

概要：本展監修者の千足氏による講演会。西洋近代、特に英仏両国における風景画の発展について、展覧会出品作をもとに述べられた。ターナーやコンスタブルの作品が、同時代のドラクロワ、その後に登場するモネやピサロなどのフランスの画家達に影響を与えた様子や、印象派、新印象派、フォーヴィスムといった19世紀末から20世紀始めのフランスの前衛的な運動が同時代のイギリス美術に波及したことが、出品作以外の作品も含む豊富なスライドで紹介された。
日時：12月9日(土)14:00－15:30
会場：多目的室　　**参加者数**：102人
講師：千足伸行氏(本展監修者・広島県立美術館館長)
主要広報記録：
◆新聞
・森田憲司「風景画鑑賞　地平線に着目　葵区「ターナーからモネへ」展　広島県立美術館館長　千足さんが講演」『中日新聞』静岡版、12月10日。

3)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを実施。各章の見どころやターナー､コンスタブル、クールベ、ロセッティ、モネ、ピサロ、ルノワールなどの注目作品を中心に解説を行った。なお、1月開催分については、混雑が予想されたため、多目的室でのスライドトークとして実施した。
日時：①12月16日(土)　②1月20日(土) いずれも14:00－
会場：①展示室　②多目的室
参加料：①展覧会観覧料　②無料　　**参加者数**：計100人
主要広報記録：
◆新聞
・森田憲司「「ターナーからモネへ」静岡市美術館で催し　大人も子どももくぎ付け」『中日新聞』静岡版、1月21日。

4)講演会②「ターナーと海」

概要：ターナーの研究で知られる荒川氏による講演会。イギリス美術における風景画について、特になぜ海景画が多く描かれたかを、ターナーの作品紹介を交えてお話いただいた。ターナーの描いた海について、本展出品作を含めた多数の作品で検証し、ターナーの海景画は、単に自然への興味として描かれたのではなく、イギリスという国の歩みを反映したものであること、また同時代における需要も背景にあったことなどが指摘された。
日時：1月13日（土）14:00－16:00
会場：多目的室　　**参加者数**：97人
講師：荒川裕子氏（法政大学教授）

5)ミニコンサート

概要：静岡市内を中心に演奏活動を行う「コレギウム・ムジクム静岡」によるミニコンサート。展覧会と同時代の英仏の音楽を中心に演奏された。
日時：1月20日（土）10:50開場　11:00開演
会場：多目的室　　**参加者数**：53人
出演：コレギウム・ムジクム静岡
曲目：ヴィヴァルディ：合奏協奏曲集《調和の霊感》より 第10番「4つのヴァイオリンのための協奏曲」／ラヴェル：《亡き王女のためのパヴァーヌ／ホルスト：《ブルック・グリーン組曲》第1曲「前奏曲」、第2曲「エアー」、第3曲「ダンス」

出品作品リスト

※作品保護のため、以下の作品は当会場では出品されなかった。
6,8,10,18,21,25,28,35,40,42,53,56,72,77,86,88
※作品の所蔵先はすべてウェールズ国立美術館。

1　ロマン主義

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	ジョルジュ・ミシェル	モーの眺め	不詳	油彩、カンヴァス	57.2×79.7
2	ジェームズ・ウォード	若い男性の肖像	1815年	油彩、カンヴァス	61.2×51.1
3	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	難破後の朝	1840年頃	油彩、カンヴァス	38.7×61.8
4	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	マーゲイトの沖合	1835年頃	油彩、カンヴァス	30 ×46
5	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	マーゲイトの桟橋	1835年頃	油彩、カンヴァス	38.3×28.1
7	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ヴュルツブルク	1840-41年	水彩、ブロッティングーアウト、網目紙	23.1×28.8
9	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エッセイヨン砦、モーリエンヌ渓谷	1836年	水彩、網目紙	24.2×34.8
11	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	マーゲイト	1830年代/40年代	水彩、不透明水彩、青色網目紙	14×18.9
12	ジョン・コンスタブル	麦畑の農家	1817年	油彩、カンヴァス	31.5×26.3
13	ウィリアム・エッティ	ヴォーン夫人	1835年頃	油彩、カンヴァス	76.2×63.5
14	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	コルベイユの遠景	1870年頃	油彩、カンヴァス	25.1×33.9
15	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	ブナの木	1860-70年	油彩、カンヴァス	46.8×56
16	ジェームズ・ホランド	フィリップ4世(美王)の王宮跡	1835年	油彩、カンヴァス	54.9×34.8
17	イギリス派	ノルマンディーの農場	不詳	油彩、板	25.4×40.4
19	リチャード・パークス・ボニントン	ヴェネツィアの眺め	1825年	水彩、紙	9×11.9
20	ウジェーヌ・イザベイ	ノルマンディーの港	不詳	油彩、板	23.5×17.6
22	ジャン＝フランソワ・ミレー	突風	1871-73年	油彩、カンヴァス	90.5×117.5
23	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オワーズ川の朝、オーヴェール	1856年	油彩、板	20.8×41.9
24	ヘンリー・マーク・アンソニー	ティンターン寺院	不詳	油彩、カンヴァス	50×76

2　リアリズム

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
26	オノレ・ドーミエ	水飲み場	1855年頃	油彩、板	44.7×55.7
27	オノレ・ドーミエ	重荷	1850-60年	油彩、紙(パネルで裏打ち)	39.7×32.2
29	オノレ・ドーミエ	歩く弁護士	1865年頃	インク、チョーク、賛の目紙	39.8×26.2
30	ジャン＝フランソワ・ミレー	善きサマリア人	1846年	油彩、カンヴァス	41×32.7
31	ジャン＝フランソワ・ミレー	座る羊飼い	1840-50年	油彩、板	18.6×24.3
32	フランソワ・ボンヴァン	若い主婦	1855年頃	油彩、板	40.5×32.1
33	ギュスターヴ・クールベ	ベアトリス・ブーヴェ	1864年	油彩、カンヴァス	91.9×73.2
34	ギュスターヴ・クールベ	オルブの水車	1875年	油彩、カンヴァス	49.6×60
36	スタナップ・アレクサンダー・フォーブス	鍛冶場	1894年	油彩、カンヴァス	61.3×77.2

3　パリのサロンとロンドンのロイヤル・アカデミー

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
37	ジャン＝ルイ＝エルネスト・メッソニエ	お人好しといかさま師	1861年	油彩、板	24.2×32.2
38	ピエール＝エドゥアール・フレール	草原の子供	1871年	油彩、板	26.8×20.6
39	フォード・マドックス・ブラウン	善良王ルネの蜜月	1864年	油彩、カンヴァス	54.3×35.2
41	ウジェーヌ・ブーダン	ボルドー	1875年	油彩、板	21.9×32.6
43	ウジェーヌ・ブーダン	ベルクの浜辺	1875年以降	混合技法、紙	10×22
44	ウジェーヌ・フィシェル	非番	1885年	油彩、カンヴァス	21.8×27
45	ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ	麗しのロザムンド	1861年	油彩、カンヴァス	51.9×41.7
46	エドワード・バーン＝ジョーンズ	運命の車輪	1882年頃	油彩、カンヴァス	152.3×73.7
47	ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ノクターン－青と金:サン・マルコ大聖堂、ヴェネツィア	1880年	油彩、カンヴァス	44.5×59.7
48	ジェームズ・ティソ	別離	1872年	油彩、カンヴァス	68.6×91.4
49	ローレンス・アルマ＝タデマ	詩歌	1879年	油彩、板	35.5×23
50	ローレンス・アルマ＝タデマ	散文	1879年	油彩、板	35.5×23
51	ウォルター・フォレン・ビショップ	ナラとシラカバの生長	1902年	水彩、不透明水彩、紙(カンヴァスで裏打ち)	59.5×100
52	フレデリック・ウィリアム・フロホーク	ひまわり	1881年	油彩、カンヴァス	56×43.6
54	シドニー・カーナウ・ヴォスパー	ウェールズ旧市街の市の立つ日	1908年	水彩、紙(板で裏打ち)	37.4×30.7

4　印象派

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
55	カミーユ・ピサロ	ポン＝ヌフ、雪景色	1902年	油彩、カンヴァス	54.5×65.3
57	エドゥアール・マネ	プチ＝モンルージュ、雪景色	1870年	油彩、カンヴァス	61.6×50.4
58	スタニスラス＝ヴィクトール＝エドマン・レピーヌ	モンマルトル	不詳	油彩、カンヴァス	27.2×29
59	アルフレッド・シスレー	モレ＝シュル＝ロワン(フォセ通り)	1892年	油彩、カンヴァス	38.5×46.9
60	クロード・モネ	プール・オブ・ロンドン	1871年	油彩、カンヴァス	48.5×74.5
61	クロード・モネ	サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏	1908年	油彩、カンヴァス	65.2×92.4
62	クロード・モネ	パラッツォ・ダリオ	1908年	油彩、カンヴァス	92.3×73.2
63	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	会話	1912 年	油彩、カンヴァス	45.1×65
64	ジェームズ・チャールズ	埃っぽい道	1902年	油彩、カンヴァス	63.5×91.6
65	ジョージ・クラウセン	マリアニーナ	1878年	水彩、アラビアガム、鉛筆、紙	27.5×12.6
66	アンリ・モレ	クロアールの村	1898年	油彩、カンヴァス	54.5×65.5
67	ジョン・シンガー・サージェント	ハーキュリーズ・ブラバゾン・ブラバゾン	1900年	油彩、カンヴァス	56.5×40.6
68	ジョン・レイヴァリー	手紙	1908年頃	油彩、厚紙	34.9×24.1
69	アンリ・ウジェーヌ・ル・シダネル	ボート、ヘイスト	1900年	油彩、カンヴァス	71.1×92.2
70	ウィリアム・ニコルソン	海岸の景色	1906年	油彩、カンヴァス(板で裏打ち)	27.7×33.6
71	フィリップ・コナード	散歩の支度	1908年	油彩、カンヴァス	99.5×80.2

5　ポスト印象派とその後

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
73	ポール・セザンヌ	飛び込む人	1866-70年	水彩、不透明水彩、鉛筆、紙	15.6×16.2
74	ウジェーヌ・カリエール	オーロラ	1893年	油彩、カンヴァス	38.7×62
75	ポール・シニャック	サントロペ	1918年	水彩、クレヨン、網目紙	27.1×40.7
76	アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	二人の娼婦	1885年頃	鉛筆、クレヨン、水彩、カード	47.6×27.5
78	グウェン・ジョン	クローシェ帽の女性	不詳	水彩、不透明水彩、紙	11.9×11
79	モーリス・ド・ヴラマンク	村の通り	1911-12年	油彩、カンヴァス	57.8×73.2
80	オーガスタス・ジョン	エドウィン・ジョン	1911年頃	油彩、板	45.8×32.7
81	オーガスタス・ジョン	ドレリアの肖像	1911年頃	油彩、合板	40.1×33.3
82	オトン・フリエス	ラ・シオタ	1907年	油彩、カンヴァス	27.3×35.1
83	アンドレ・ドラン	ヴェールの教会	1912年	油彩、カンヴァス	65.5×92.3
84	ジェームズ・ディクソン・イニス	雪のカニグー	1911年	油彩、板	23.7×33
85	ジェームズ・ディクソン・イニス	コリウール	1908年頃	水彩、インク、紙	27.9×38.8
87	ジェームズ・ディクソン・イニス	カニグー	1912年インク、水彩、紙	25.5×35.4	
89	エドナ・クラーク・ホール	オーガスタス・ジョン、ドレリア、ピラマス	1908年	水彩、紙	30.2×28.7

2－5　白隠禅師250年遠諱記念展
駿河の白隠さん

会期：2月10日（土）－3月25日（日）

概要：「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と称えられた白隠慧鶴（はくいん えかく 1685－1768）禅師は、臨済禅の中興の祖で、特に禅の民衆化に努めたことで知られる。白隠は、江戸時代中期、駿河国原宿（現・静岡県沼津市）の町屋に生まれるも、15歳で出家して原の松蔭寺に入り、諸国を行脚して飯山（現・長野県）で悟りを開き、32歳の時、請われて松蔭寺に帰り、これを復興。晩年は三島の龍澤寺を開山し、松蔭寺で84年の長寿を全うした。
その間、特に60代後半以降（宝暦～明和期 1751－72）、達磨や観音、あるいは祖師のほか、様々な恰好の布袋や大黒をはじめとした七福神、親孝行などを説いた墨蹟や絵画を揮毫した。宝暦・明和といえば江戸で錦絵が誕生し、京では白隠に参禅した池大雅や伊藤若冲が活躍した時代である。
本展は静岡の寺院や在家居士宅に伝来した白隠の書画を中心に、135件を一堂に会し、その画風の変遷や江戸絵画への影響を探るものとなった。江戸時代の社会における白隠、美術史的側面からみた白隠を改めて顕彰した。

関連展覧会：佐野美術館「駿河の白隠さん」
2018年5月26日（土）－7月1日（日）

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、臨済宗妙心寺派、白隠宗大本山松蔭寺

助成：芸術文化振興基金、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団

特別協力：佐野美術館

特別協賛：日本ロレックス株式会社

観覧料：一般　1,200円（1,000円）
大高生・70才以上　800円（600円）
※（　）内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：12,061人（有料8,368人、無料3,693人、有料率69.4%）

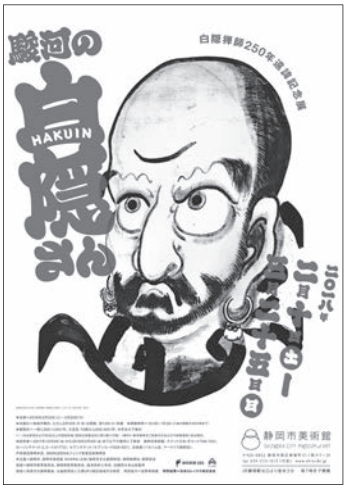
出品点数：135件

印刷物：
1）チラシ
＜仕様＞紙：b7トラネクスト 115kg
サイズ・数量：A4　65,000部

2）ポスター
＜仕様＞紙：MTA＋FS 135kg
サイズ・数量：
B1 70部、B2 2,350部、B3 2,700部（うち400部はJR帯つき）

チラシ表面

チラシ裏面



B1・B2ポスター

B3ポスター

カタログ：
＜仕様＞297mm×225mm、215頁

カタログ表紙

カラー図版186点
参考図版（カラー45点、モノクロ330点）

高橋敏「白隠 江戸の変革者」
浅井京子「白隠八〇代の書画」
矢島新「白隠の新しい絵」
吉田恵理「コラム　禅僧・白隠の経世済民－小島藩惣百姓一揆を例に」
吉田恵理「コラム　白隠の在家居士・池大雅」
河内えり子「コラム　佐野美術館蔵「蓮池観音図」にみる白隠画のみどころ」
吉田恵理「白隠－江戸絵画史の中で」

白隠の法系図／作品解説／署名・印章／白隠関係略年譜／主要参考文献／出品目録／白隠の足跡図

編集・発行：静岡市美術館
発行年：2018年

普及ツール：
1）音声ガイド

2）プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施
会期中のプレミアムフライデーに合わせ、15時以降の入場者に粗品プレゼントを行った。
実施日：2月23日（金）
利用者数：49件

各種連携：
1）近隣店舗との連携
葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。
印刷物：
◆チラシ
＜仕様＞紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

協賛チラシ表

協賛チラシ裏

主要広報記録：
1）テレビ・ラジオ
・「展覧会紹介」FM-Hi!『ゆうラジ! Radio魂 木曜日』、12月21日放送。
・「展覧会紹介」SBSラジオ『IPPO』、2月9日放送。
・「白隠禅師没後250年　静岡市美術館で「駿河の白隠さん」」静岡放送『JNNニュース静岡』、2月12日放送。
・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコちゃんワイド』、2月14日放送。
・「展覧会開催」FM-Hi!『chalcha!サタデー　静岡ドライブインフォメーション』、2月17日放送。
・「中継：現在開催中！話題の企画展「駿河の白隠さん」静岡市美術館」静岡放送『soleいいね!』、2月21日放送。
・「展覧会紹介」SBSラジオ『IPPO』、2月23日放送。
・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、2月25日放送。

2）新聞
・吉田恵理「書画で万人を叱咤激励 駿河の白隠さん 10日から静岡市美術館」『静岡新聞』、2月6日。
・「Hakuin in Suruga」『The Japan Times』、2月7日。
・野島純子「白隠の書画準備着々 静岡市美術館 10日から企画展」『静岡新聞』、2月8日。
・野島純子「白隠の書画一堂に 企画展きょう開幕」『静岡新聞』、2月10日。
・常松鉄尾「白隠禅師の書画を展示 静岡市美術館、死後250年記念」『朝日新聞』、2月13日。
・山下裕二「粘りけのある墨線に戦慄 「駿河の白隠さん」展」『朝日新聞』東京版（夕刊）、2月20日。
・江本宗昭「言いたいほうだい 駿河の白隠さん展」『沼津朝日新聞』、2月25日。
・「白隠「社会的な宗教者」 葵区の記念展に合わせ 高橋名誉教授（国立歴史民俗博物館）講演」『静岡新聞』、2月26日。
・高橋咲子「同時代絵画との共振 駿河の白隠さん」『毎日新聞』、2月28日。
・「大自在」『静岡新聞』、3月5日。

・「禅画鑑賞し「白隠」にハマる」『静岡新聞』、3月30日。
・加藤駿「禅僧「白隠さん」再注目　来年没後250年　地元静岡で展覧会　達磨など書画に味わい」『日本経済新聞』、5月2日。
・「禅僧「白隠さん」再注目　来年没後250年　地元静岡で展覧会　達磨など書画に味わい」『日本経済新聞』(夕刊)、5月2日。(※同一内容記事『中部経済新聞』5月9日、『毎日新聞』5月10日、『中日新聞』5月18日にそれぞれ転載)

3)雑誌他

・「COLUMN　2018年、これだけは見ておきたい美術展[番外編4]　ポスト運慶イヤーには」『芸術新潮』、12月号。
・「芸術をたのしもう：白隠禅師を美術史からひもとく、特別展開催！静岡市美術館」『フリーペーパー道の駅』静岡県・箱根版、2017年冬号。
・「展覧会紹介」『もくあさ』、252号。
・「展覧会紹介」『美術の杜』、Vol.45。
・「白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん　美術史から白隠芸術にアプローチする」『美術展ぴあ2018 (ぴあMOOK)』。
・「展覧会紹介」『サライ』、2月号。
・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、2018年冬号。
・「白隠の生まれ故郷でゆかりの書画に出会う」『ひととき』、2月号。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、3月号。
・「展覧会紹介」『CAR and DRIVER カー・アンド・ドライバー』、3月号。
・「静岡の偉人、白隠の魅力に迫る　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『ホットペッパー』、2月号。
・「展覧会紹介」『小さな蕾』、3月号。
・「ゆかりの地・静岡ならではの充実の展示　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『ノジュール nodule』、2月号。
・「展覧会紹介」『ギャラリー』、2月号。
・「展覧会紹介」『SHIZU TAB』、Vol.17。
・「美術史的アプローチで白隠禅師の作品を鑑賞　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『時空旅人』、3月号増刊。
・「展覧会紹介」『書道界』、2月号。
・吉田恵理「静岡ゆかりの名品が全国から終結! 白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『美術の窓』、2月号。
・「展覧会紹介」『月刊アートコレクターズ』、3月号。
・「親しみやすさで人気　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『婦人公論』、3月号。
・「展覧会紹介」『月刊絵手紙』、3月号。
・「展覧会紹介」『ギャラリー』、3月号。
・「what's up in Japan」『Seoul Art Guide 서울아트가이드』、2018年3月号。
・「展覧会紹介」『フリーペーパー道の駅』、2018年春号。
・高橋利郎「文人たちの書：数寄者コラム－Vol.7」『美祭』、23号特選。

4)ウェブサイト等

「Japan Design Net」、「Yahoo! JAPAN」、「artscape」、「Yahoo! 路線検索」、「じゃらんnet」、「アットエス」、「インターネットミュージアム」、「ART NAVI」、「しずぎんSTATION」、「WEDGE Infinity」、「ぴあポイント」、「静清信用金庫LINE配信」、「ARTLOGUE」、「暢遊日本」、「ケイティコム「全国のおすすめ展覧会100」」、「サライ.jp」

関連事業：

1)講演会①「白隠さん大好き」

概要：白隠愛好家で、本展特別協賛社である日本ロレックス株式会社代表取締役社長のベイリー氏による講演会。担当学芸員が聞き手を務め進行した。ベイリー氏は、東京国立博物館で白隠の墨蹟「本来無一物」に出会い衝撃を受け、以来、白隠関連の文化事業に積極的にかかわっている。愛読する哲学者ヴィトゲンシュタインと白隠との共通点を示し、白隠禅の新たな切り口を披露された。
日時：2月10日(土)14:00－15:00
会場：多目的室　　**参加者数**：130人
講師：ブルース・R・ベイリー氏(日本ロレックス株式会社代表取締役社長)
聞き手：吉田恵理(当館学芸員)
主要広報記録：
◆新聞
・菊池真生「白隠作品に「伝える力」 日本ロレックス社長 書画の魅力語る」『静岡新聞』、2月11日。
・講師：ブルース・R・ベイリー氏(日本ロレックス株式会社代表取締役社長)、聞き手：吉田恵理(静岡市美術館)「白隠さん大好き「駿河の白隠さん」講演会 白隠禅師250年遠諱記念展」『静岡新聞』、2月28日。

2)学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを実施。学芸員の問いかけに対し、観覧者も積極的に作品を見て、考え、素直に見たことを言葉にする様子が見られた。
日時：2月12日(月・祝)、3月17日(土) いずれも14:00－
会場：展示室　　**参加者数**：計103人
参加料：展覧会観覧料

3)法話「白隠禅師と民衆教化」

概要：白隠が最初に住職になり、84年の長寿を全うした、静岡県沼津市原の松蔭寺の現住職による法話。白隠の生涯や教え、原の土地の人と白隠の今も昔も変わらない信仰と交流の様子などをスライドも交えお話しいただいた。
日時：2月17日(土)14:00－15:30　　**会場**：多目的室
参加者数：138人
講師：宮本圓明老大師(松蔭寺住職)
主要広報記録：
◆新聞
・講師：宮本圓明老大師(松蔭寺住職)「白隠禅師と民衆強化「駿河の白隠さん」講演会 白隠禅師250年遠諱記念展」『静岡新聞』、3月7日。

4)講演会②「白隠　江戸社会の変革者」

概要：下田出身で、地方文人やアウトロー研究で有名な高橋氏による講演会。長年の白隠研究の成果のうち、特に駿豆における白隠とその支援者との関係について、文献史学的に考察した。ただの僧侶ではない多面的な白隠の姿を知ることができ、この地の偉人の顕彰にふさわしい内容となった。

日時：2月25日（日）14:00－15:30　　**会場**：多目的室

参加者数：124人

講師：高橋敏氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）

主要広報記録：

◆新聞

・「白隠「社会的な宗教者」葵区の記念展に合わせ 高橋名誉教授（国立歴史民俗博物館）講演」『静岡新聞』、2月26日。

5)座談会「白隠の絵をとことん語る」

概要：本展図録執筆者で白隠研究の第一人者である浅井氏と渋谷区立松濤美術館で素朴美を提唱したユニークな展覧会を手掛けた矢島氏を招き、当館学芸員の司会進行による座談会形式の講座。白隠が描いた達磨や、観音、自画像などの特徴を年代ごとに解説し、白隠の絵の魅力を語りあった。

日時：3月4日（日）14:00－16:00　　**会場**：多目的室

参加者数：126人

講師：浅井京子氏（元早稲田大学會津八一記念博物館特任教授）、
矢島新氏（跡見学園女子大学教授）

司会：吉田恵理（当館学芸員）

主要広報記録：

◆新聞

・吉田直人「白隠画の魅力語る「80代になると柔和な作風」静岡市美術館で座談会」『静岡新聞』、3月5日。

6)臨済宗妙心寺派の僧侶による白隠さんのお話し

概要：静岡県内の妙心寺派の毎回2名の僧侶が白隠の生涯やその教えについて語った。

日時：2月23日、3月2日・9日・16日・23 日
いずれも（金）①14:00－　②15:00－　③16:00－

会場：多目的室

参加者数：計359人

講師：

＜2月23日＞長島宗深師（富士市・妙善寺）、藤原良敬師（静岡・宝泰寺）

＜3月2日＞雲井栄成師（浜松市・海龍寺）、横山友宏師（清水・東光寺）

＜3月9日＞木村文達師（浜松市・龍梅寺）、木村嘉文師（同）

＜3月16日＞竹中智厚師（牧之原・平田寺）、塚原史方師（藤枝・東国寺）

＜3月23日＞竹中智泰師（牧之原・平田寺）、曦 宗温師(小島・東寿院)

出品作品リスト

※欠番は佐野美術館のみで展示。
※会期中一部展示替えを行った。
【前期】2018年2月10日(土)―3月4日(日)
【後期】2018年3月6日(火)―3月25日(日)

特別出品

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
	沼津市指定文化財　白隠慧鶴像	―	木造、彩色、玉眼	一軀	明和6(1769)年	総高104.0、像高(坐高)66.0	松蔭寺	●	●

第一章　白隠の誕生―伝記をふまえて

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
1	道鏡慧端(正受老人)像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦3(1753)年頃	127.7×54.6	龍澤寺	●	●
2	静岡県指定文化財　白隠自画像	東嶺圓慈賛 白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦5-6(1755-56)年頃	112.8×57.4	松蔭寺	●	●
3	文園玉塵	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一冊	享保前期(1716-25)頃	21.6×15.5	佐野美術館	●	●
4	達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	享保4(1719)年	92.1×36.0	個人蔵	●	●
5	出山釈迦図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	享保前期(1716-25)頃	131.3×49.5	貞永寺	●	●
6	猫の巻物	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一巻	享保10(1725)年	28.8×492.3	徳源寺	●	
7	隻履達磨図	鉄髄玄紹賛 白隠慧鶴筆	紙本着色	一幅	享保(1716-35)頃	130.6×55.6	大中寺	●	●
8	出山釈迦図	陽春主諾賛 白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	享保(1716-35)頃	125.5×52.6	永青文庫	●	●
10	出山釈迦図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	元文―寛保(1736-43)頃	89.0×31.6	玉井寺	●	●
11	岩上達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	元文―寛保(1736-43)頃	90.3×38.8	修禅寺	●	●
12	臨済義玄像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	110.3×46.5	個人蔵	●	●
13	徳山宣鑑像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	111.8×50.4	宝泰寺	●	●
14	地蔵菩薩二童子図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	130.8×53.9	松蔭寺	●	●
15	息耕録開莚普説	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一冊	元文5(1740)年	26.5×17.8	佐野美術館	●	●
17	静岡県指定文化財　科註妙法蓮華経	白隠慧鶴書入	木版墨摺、墨書	十冊	元禄4(1691)年	各28.2×20.0	松蔭寺	●	●

第二章　六〇代から七〇代の行状と画業

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
20	碓叟全能像	白隠慧鶴賛	絹本着色	一幅	寛延3(1750)年	101.5×49.8	貞永寺	●	●
21	静岡県指定文化財　楊柳観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	寛延3(1750)年頃	132.5×56.8	貞永寺	●	●
22	静岡県指定文化財　達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	寛延3(1750)年頃	128.1×56.5	貞永寺	●	●
23-1	静岡県指定文化財　臨済義玄像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	双幅のうち一幅	寛延3(1750)年頃	130.5×51.5	貞永寺	●	●
23-2	静岡県指定文化財　百丈懐海像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	双幅のうち一幅	寛延3(1750)年頃	130.8×51.6	貞永寺	●	●
24	葦葉達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	寛延3(1750)年頃	125.3×55.3	好運寺	●	●
27	三教老人図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	110.6×54.3	個人蔵	●	●
28-1	蓮池観音図	白隠慧鶴自画賛	絹本着色	一幅	宝暦元(1751)年頃	82.9×32.0	個人蔵	●	●
28-2	墨蹟「南無阿弥陀仏」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦元(1751)年頃	128.7×29.1	個人蔵	●	●
29-1	蓮池観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦2(1752)年	132.0×55.5	龍澤寺	●	●
29-2	地蔵菩薩図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦2(1752)年頃	119.8×55.3	龍澤寺	●	●
30	片岡山達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦2(1752)年	54.2×65.2	大乗寺	●	●
31	熊谷蓮生坊図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	寛延―宝暦前期(1748-53)頃	49.3×63.7	個人蔵	●	●
32	静岡県指定文化財　蛤蜊観音図	白隠慧鶴筆	紙本着色	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	129.7×161.2	禅叢寺	●	●
33	関羽図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦3(1753)年	158.4×74.0	松蔭寺	●	●
34	頂門禅亜像	白隠慧鶴賛	紙本着色	一幅	宝暦3(1753)年	104.1×43.6	菩提樹院	●	●
35	墨蹟　司馬温公語・養気説	白隠慧鶴筆	紙本墨書	六曲一双	宝暦(1751-63)頃	各扇135.0×56.0	菩提樹院	●	●
36	維摩居士図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦5(1755)年	130.4×54.3	大阪新美術館建設準備室	●	●
37	静岡市指定文化財　達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦5(1755)年頃	126.2×56.5	龍津寺	●	●
38	静岡市指定文化財 墨蹟　佛涅槃忌偈頌	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦5(1755)年	31.2×67.5	龍津寺	●	●
39	静岡市指定文化財 墨蹟　「拈華室」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦5(1755)年頃	57.4×134.7	龍津寺	●	●
40	静岡市指定文化財 太原崇孚(宝珠護国禅師)像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦5(1755)年	105.4×43.8	龍津寺	●	●
41	龍杖図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦12(1762)年	136.8×37.7	大聖寺	●	●
42	墨蹟　中宝山折床会拙語	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和4(1767)年	57.3×84.2	光増寺	●	●
43	南浦紹明(大応国師)像	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦6(1756)年	125.1×55.0	永青文庫	●	●
44	地蔵菩薩図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦6(1756)年	132.1×49.0	永青文庫	●	●
45	墨蹟　瞎銘	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	27.3×43.8	秘在寺	●	●
46	墨蹟　応大福山建忠主人請上堂	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦7(1757)年	52.1×80.9	松蔭寺	●	●
47	物見山観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	123.7×54.3	永青文庫	●	●
48	出山釈迦図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	136.3×57.7	永青文庫	●	●

第三章　禅を描く

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
49	達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	元文―寛延(1736-50)頃	126.8×53.7	光増寺	●	●
53	達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	131.6×58.7	松蔭寺	●	●
54	達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	125.7×54.1	玉井寺	●	●
56	出山釈迦図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦中期(1754-59)頃	89.3×28.0	秘在寺	●	●
57	出山釈迦図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	98.9×28.8	大阪新美術館建設準備室	●	●
58	出山釈迦図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	130.5×53.8	松蔭寺	●	●
60	巌頭渡子図	白隠慧鶴自画賛	絹本着色	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	34.2×50.9	大阪新美術館建設準備室	●	●
61	拘留尊仏図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	寛延―宝暦前期(1748-54)頃	30.4×50.0	佐野美術館	●	●
65	蛤蜊観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	76.9×37.8	松蔭寺	●	●
66	龍頭観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	131.7×57.0	松蔭寺	●	●
67	龍頭観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	131.1×54.7	個人蔵	●	●
68	楊柳観音図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	134.6×68.0	大乗寺	●	●
69	楊柳観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	130.5×60.4	松蔭寺	●	●
70	楊柳観音図	白隠慧鶴自画賛	絹本着色	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	111.8×42.8	大阪新美術館建設準備室	●	●
71	蓮池観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	133.0×54.5	龍澤寺	●	●
72	月見布袋図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	44.7×63.0	個人蔵	●	●
73	浜松市指定文化財　布袋図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	57.0×116.0	方広寺	●	●
75	すたすた坊主図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	56.6×96.3	松蔭寺	●	●
76	豆蔵布袋図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	113.8×21.6	徳源寺	●	●
77	隻手布袋図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	87.7×25.2	松蔭寺	●	●
80	弁財天図	白隠慧鶴筆	紙本着色	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	97.1×44.3	個人蔵	●	●
85	神農図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	122.3×29.1	個人蔵	●	●
86	越後三尺坊図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	131.0×51.5	松蔭寺	●	●
87	渡唐天神図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	129.4×39.2	佐野美術館	●	●
88	天神社図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和前期(1764-68)頃	101.0×27.6	松蔭寺	●	●
89	人丸図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦(1751-63)頃	50.6×64.2	佐野美術館	●	●
90	人丸図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和前期(1764-68)頃	33.5×54.6	個人蔵	●	●
91	釜と鋤(郭巨)図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	91.0×29.2	個人蔵	●	●
92	蟹蛙図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	40.5×52.2	大阪新美術館建設準備室	●	●
93	いが栗図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	33.0×47.8	大阪新美術館建設準備室	●	●
94	渡橋図(真間の継橋図)	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	39.5×56.2	大阪新美術館建設準備室	●	●
95	鷲頭山図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	29.2×45.1	大阪新美術館建設準備室	●	●
96	山水図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1757-63)頃	25.8×50.5	大阪新美術館建設準備室	●	●
97	富士図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和前期(1764-68)頃	49.5×75.2	徳源寺	●	●

第四章　白隠を支えた人々

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
98	墨蹟「寿玄隆居士八十歳」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	元文4(1739)年	96.5×27.5	個人蔵	●	●
99	福神合同船	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	38.3×51.4	徳源寺		●
100	布袋瓢箪駒図(曲馬図)	白隠慧鶴筆	紙本着色	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	44.5×58.1	東京国立博物館	●	
101	お多福粉引歌図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	37.5×59.7	徳源寺	●	●
102	楊柳観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	延享―宝暦前期(1744-53)頃	57.1×17.9	東京国立博物館		●
103	主心お婆々粉引歌図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一巻	宝暦(1751-63)頃	28.3×143.5	東京国立博物館		●
104	海老図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一面	宝暦前期(1751-56)頃	46.0×68.1	個人蔵	●	●
105	蓮池観音図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦7(1757)年頃	82.5×29.6	徳源寺	●	
106	墨蹟「秋葉山大権現」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦7(1757)年頃	123.8×27.3	徳源寺	●	●
107	墨蹟 安名 文林玄周	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一通	宝暦11(1761)年	34.1×45.8	個人蔵	●	●
108	箒図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和前期(1764-68)頃	103.1×37.2	東京国立博物館	●	
109	竹林七賢図小襖	池大雅筆	紙本墨画	四面	宝暦後期(1760-63)頃	各97.8×73.1	東京国立博物館	●	●
110	奉白隠禅師入門偈	池大雅筆	紙本墨書	一幅	宝暦元(1751)年頃	28.6×44.7	個人蔵	●	●
111	杯渡尊者図	池大雅自画賛	絹本着色	一幅	宝暦5(1755)年頃	106.4×35.3	田部美術館	●	●
112	愛知県指定文化財　墨蹟「烹金爐」	池大雅筆	紙本墨書	一幅	宝暦(1751-63)頃	57.1×133.9	華蔵寺	●	●
113	愛知県指定文化財　墨蹟 「一、二、三、四、五、六」 「碧眼胡僧数不足」	池大雅筆	紙本墨書	双幅	宝暦前期(1751-57)	各132.7×28.5	華蔵寺	●	●
114	西尾市指定文化財 墨蘭・墨竹・猪頭和尚図	池大雅筆	紙本墨画	三幅	宝暦前期(1751-57)	各131.0×27.8	華蔵寺	●	●

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
115	了徹居士観竹図	伝池大雅自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦後期(1760-63)頃	38.3×56.0	個人蔵	●	●
116-1	龍杖図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦前期(1751-56)頃	131.7×28.0	個人蔵	●	●
116-2	重離六爻	白隠慧鶴自画賛	紙本墨書	一幅	明和4(1767)年	128.1×27.8	個人蔵	●	●
117	円相内自画像	白隠慧鶴自画賛	絹本墨画	一幅	明和元(1764)年	101.3×28.8	永青文庫	●	●

第五章　円熟と超越―八〇代の筆墨

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
118	関山慧玄(無相大師)像	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	宝暦13(1763)年	120.5×55.0	新定院	●	●
119	布袋坐禅図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦12-13(1762-63)年頃	139.8×38.0	高林寺	●	●
121	墨蹟 寿字(養気説)	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	130.6×57.1	大中寺	●	●
122	隻履達磨図	白隠慧鶴筆	紙本墨画	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	122.5×53.6	桂林寺	●	●
124	灯燭図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	宝暦末―明和初(1761-65)頃	97.5×29.0	松蔭寺	●	●
125	梁外禅梁像	白隠慧鶴賛	紙本着色	一幅	宝暦12-13(1762-63)年頃	115.0×53.4	長福禅寺	●	●
126	龍杖図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和元(1764)年	130.7×27.9	貞永寺	●	●
127	墨蹟「愛鷹山大明神」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和前期(1764-68)頃	136.2×28.6	松蔭寺	●	●
129	蓑笠・槌・袋図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和前期(1764-68)頃	33.2×51.5	松蔭寺	●	●
130	いが栗図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和2(1765)年	92.3×28.3	大阪新美術館建設準備室	●	●
131	墨蹟「帝網窟」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和3(1766)年	57.5×145.4	華蔵寺	●	●
132	鼠大黒図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	明和前期(1764-68)頃	57.5×102.8	大阪新美術館建設準備室	●	●
133	墨蹟「親」「孝」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	双幅	明和前期(1764-68)頃	各53.0×65.9	個人蔵	●	●
135	大黒天図	白隠慧鶴自画賛	紙本着色	一幅	明和前期(1764-68)頃	131.2×57.5	個人蔵	●	●
136	蓮池観音図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和4(1767)年	133.0×56.9	佐野美術館	●	●
137	静岡県指定文化財　達磨図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和4(1767)年	132.7×91.2	清見寺	●	●
138	静岡県指定文化財 涅槃経撃油鉢喩図	白隠慧鶴自画賛	紙本墨画	一幅	明和4(1767)年	132.1×59.1	禅叢寺	●	●
139	墨蹟 百丈野狐詩	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和4(1767)年	73.4×29.4	個人蔵	●	●
140	浜松市指定文化財　墨蹟 百寿字	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和4(1767)年	248.0×109.5	方広寺	●	●
141	墨蹟「南無地獄大菩薩」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和5(1768)年頃	139.6×38.2	松蔭寺	●	●
142	墨蹟「動中工夫勝静中百千億倍」 東嶺圓慈極	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和5(1768)年頃	133.8×29.3	龍澤寺	●	●
143	墨蹟「常念観世音菩薩」	白隠慧鶴筆	紙本墨書	一幅	明和5(1768)年	136.0×56.0	松蔭寺	●	●
144	虚堂智愚像	白隠慧鶴賛	紙本着色	一幅	明和5(1768)年	128.0×57.2	龍澤寺	●	●
145	虚堂智愚像	白隠慧鶴賛	紙本墨画	一幅	明和5(1768)年	123.0×57.6	大阪新美術館建設準備室	●	●

番号	題名	賛者　作者	材質等	員数	制作年	法量(cm)	所蔵	前期	後期
資料1	槐安国語	―	木版墨摺	四冊七巻	寛延2(1749)年	各26.3×18.2	貞永寺	●	●
資料2	静岡市指定文化財　講台	白隠慧鶴所用	木製	一脚	江戸時代前期(17世紀)	高177.5、 幅92.0、奥98.3	龍津寺	●	●
資料3	静岡市指定文化財　見台	白隠慧鶴所用	木製	一脚	江戸時代前期(17世紀)	高57.3、 幅54.0、奥24.0	龍津寺	●	●
資料4	静岡市指定文化財　維摩経会衆籍	―	紙本墨書	一冊	宝暦5(1755)年	29.4×20.7	龍津寺	●	●
資料5	静岡市指定文化財 宝珠護国禅師行状	―	写本、紙本墨書	一冊	明和2(1765)年	27.1×8.5	龍津寺	●	●
資料6	御霊山高林禅寺大応録会金銭受払帳	―	紙本墨書	一冊	宝暦6(1756)年	25.8×18.0	高林寺	●	●
資料7	駿河名所図会 俳諧裾野集	瓦松菴肆山編	木版墨摺	二冊	嘉永元(1848)年	各17.8×11.8	静岡県立中央図書館	●	●
資料8	備前擂鉢	―	―	一鉢	江戸時代前期(17世紀)	口径49.0、 高19.0	松蔭寺	●	●
資料9	如意	白隠慧鶴所用	―	一本	江戸時代前期(17世紀)	長36.5、幅2.0	個人蔵	●	●
資料10	印	白隠慧鶴所用	―	四顆	江戸時代前期(17世紀)	―	松蔭寺	●	●

３．交流事業（教育普及事業）目次

3−1　交流事業

1）　Shizubi Project 6「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」…… 50
2）　Shizubiシネマアワー…… 53
3）　しずびオープンアトリエ…… 54
4）　しずびチビッこプログラム…… 55
5）　暦とあそぶワークショップ…… 56
6）　プレゼントワークショップ…… 57
7）　夜店市…… 59

3−2　連携事業

1）　ミュージアム教室・展示解説…… 60
2）　めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ…… 61
3）　生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」…… 62
4）　静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業（三館共同事業）…… 64
5）　キニナルスキニナルプロジェクト…… 65
6）　その他施設との連携等…… 66

3．交流事業(教育普及事業)

3−1　交流事業

1)Shizubi Project 6「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」

概要：多くの人が行きかうエントランスホールの開放的な空間で、現代のさまざまな美術の姿を紹介してきたShizubi Project。「彼方へ」と題して昨年度より引き続き國府理、林勇気、宮永亮の3名の作品を展示した。

「私が乗り物を作りたかったのは、それを手に入れれば、どこかへ行けると思ったから」、プロペラをつけた自転車や帆をはって風で進む自動車など、「KOKUFUMOBIL」として、自身の夢の乗り物を独自の設計思想と自らの手で生み出した國府理。“ここではない何処か”へ、乗り物としての機能に想像力をプラスして走らせる國府作品は、世界の中でほんとうに考え、自由であることを私たちに呼びかけ続けている。

林勇気の映像作品《もう一つの世界》(2014)は、ネット上の膨大な画像を集め切り抜いて浮遊させ、私たちをとりまくデジタル世界を鮮やかに可視化する。3Dプリンタの登場などデータが直接物質化される時代に、画像やデータ、物質とは何かということを、私たちに優れて感覚的に体験させる。

宮永亮は各地に出かけ撮影した都市や田園の映像を、さまざまなレイヤー(層)として重ね編集する。ときに疾走し、ときにゆったりと流れる時間を映しだした映像は、優れたロードムービーの持つ世界の手触りが、複雑に多層化され、固有の場所性を離れて、“どこでもない場所へと飛躍する”ような感覚を見るものに与える。

尚、展示は昨年度エントランスホール・多目的室でスタートし、本年6月4日からは展示室全室にも拡げ、大規模な映像展示を行った。

会期：3月28日(火)−6月18日(日)
＜エントランスホール・多目的室＞
6月4日(日)−18日(日)＜展示室＞

観覧者数：35,106人(うち今年度33,519人)

印刷物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：エスプリコートFM 110kg
サイズ・数量：A4 30,000部

チラシ表面

チラシ裏面

作品リスト：(所蔵先の記載がないものはすべて作家蔵)

【エントランスホール・多目的室】

＜國府理＞
K-1.《プロペラ自転車》1994年 自転車部品、鉄、木、エンジンほか
K-2.《Sailing Bike》2005年 オートバイ部品、セイル、FRPほか
＜林勇気＞
H-1.《IMAGE DATA》2016年 FHDビデオ
H-2.《the outline of everything》2010年 ビデオ、モニター
音楽：オオタニシュウヘイ(from SJQ)
H-3.《もうひとつの世界002》2014年 インターネットシステム、googlemap、youtube、FHDビデオ(マルチチャンネル)、パーソナルコンピューター、デジタル端末
＜宮永亮＞
M-1.《地の灯について》2010年 FHDビデオ(8チャンネル)
M-2.《KIWA》2013年 FHDビデオ

【展示室】

＜國府理＞
K-3.《「未来のいえ」ドローイング—Propeller Bicycle—》2013年 インク、紙 個人蔵
K-4.《「未来のいえ」ドローイング—Sailing Bike—》2013年 インク、紙
K-5.《Natural Powered Vehicle》2005年 映像(7分48秒) 個人蔵
＜林勇気＞
H-4.《another world –alternative》2017年 FHDビデオ、プロジェクター、スピーカー 音楽：FourColor
H-5.《すべての終りに ver. the end of the end》2017年 FHDビデオ、プロジェクター、モニター
H-6.《いつか再生できなくなる》2017年 プロジェクター、ビデオ
＜宮永亮＞
M-3.《scales（シングルチャンネルバージョン)》2012年 デジタルビデオ(9分38秒)
M-4.《arc（シングルチャンネルバージョン)》2011年 FHDビデオ(7分30秒)
M-5.《Reciprocal》2017年 FHDビデオ(8チャンネル)

主要広報記録(本年度分のみ)：

◆新聞

・「彼方へ(かなたへ)國府理×林勇気×宮永亮」『中日新聞』静岡版、6月2日。

◆雑誌他

・「今にも走りそうな美しい作品　Shizubi Project 6彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」『ホットペッパー』、6月号。
・「展覧会紹介」『ギャラリー』、6月号。

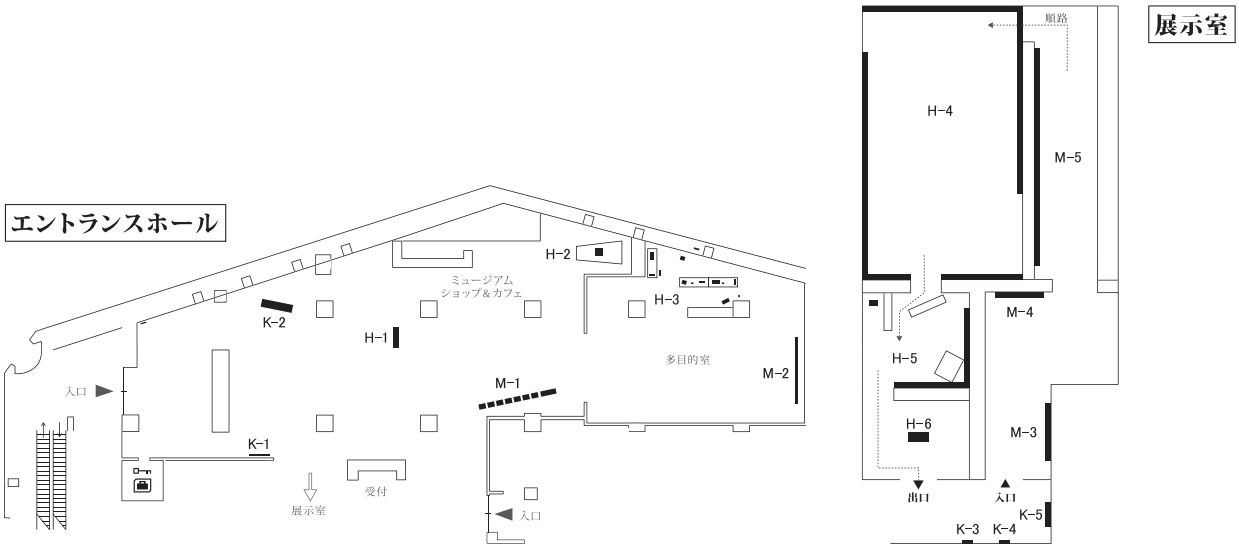
◆ウェブサイト等

「Japan Design Net」、「静岡市Facebook」、「ART iT」、「アットエス」、「Public Rhythm」

カタログ：
＜仕様＞247×191mm、98頁

カタログ表紙

カラー図版114点
参考図版（カラー3点、モノクロ28点）
吉岡洋「並行世界的あこがれ」
「國府理とSolar Power Lab.（吹田哲二郎インタビュー）」（構成・編集：伊藤鮎）
以倉新「彼方へ－國府理、林勇気、宮永亮の作品について」
Solar Power Lab.の活動と國府理作品／作家略歴／展覧会概要／出品リスト
監修：静岡市美術館
編集：以倉新（静岡市美術館学芸課長）、伊藤鮎（静岡市美術館学芸員）、伊藤雅俊（株式会社マイブックサービス）
翻訳：ベンジャー桂　発行者：村上正
発行所：株式会社マイブックサービス



関連事業：

◆アーティストトーク

概要：出品作家の林、宮永両氏に加え、近年若くして亡くなった國府氏の生前をよく知る関係者により、出品作品や活動について話を伺った。作家本人による話は具体的で興味深かった。

日時：6月4日・18日 いずれも（日）13:00－14:30

会場：エントランスホール　　**参加者数**：計24人（今年度分のみ）

◆映像と音楽によるライブイベント

概要：出品作家の林、宮永の映像作品とゲストミュージシャンの音楽が融合するライブイベントを実施した。林、宮永とも、これまでもクラブシーン等で自身の作品と音楽とのコラボレーションを試みており、今回も気鋭のミュージシャンとの共演で、「彼方へ」というテーマに相応しいグルーブ感ある先鋭なライブとなった。

日時：6月17日（土）16:00－17:30

会場：エントランスホール　　**参加者数**：97人

参加料：1,000円（ワンドリンク付）

出演：林勇気、宮永亮、宮内優里、Hakobune（依藤貴大）

企画協力：night cruising

協力：AOI BREWING

主要広報記録：

◆新聞

・「イベント情報」『静岡新聞』、6月15日。

・「イベント情報」『中日新聞』静岡版、6月16日。

印刷物：

◆告知チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A5 4,000枚

告知チラシ

2)Shizubiシネマアワー

⑴Shizubiシネマアワー vol.20

シズオカ×カンヌウィーク2017連動企画

「ファインダー越しの世界」

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで、年間2〜3回程度映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの19回目。「アルバレス・ブラボ写真展」関連し、写真家を追った2本のドキュメンタリー映画を上映した。

日時：①5月6日（土） ②5月7日（日）
いずれも14:00－

上映内容：

①『フリーダ・カーロの遺品　石内都、織るように』（2015年、日本、89分）

②『未来をなぞる　写真家・畠山直哉』（2014年、日本、87分）

会場：多目的室　　**参加者数**：①46人　②20人

参加料：いずれも500円

企画協力：㈱サールナートホール

主要広報記録：

◆テレビ

・「美術館で映画はいかが？「Shizubiシネマアワー」」Daiichi-TV『the NEXT』、4月11日放送。

告知チラシ（当館作成）

⑵Shizubiシネマアワー vol.21

「新しい表現を求めて－ターナーとセザンヌ」

概要：「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」展に合わせて実施。展覧会出品作家で、西洋絵画に革新をもたらしたといわれるターナーとセザンヌをテーマとした作品を上映した。

日時：①1月6日（土） ②1月7日（日）
いずれも14:00－

上映内容：

①『ターナー、光に愛を求めて』（2014年、イギリス・フランス・ドイツ、150分）

②『セザンヌと過ごした時間』（2016年、フランス、114分）

会場：多目的室　　**参加者数**：①72人　②82人

参加料：いずれも500円

企画協力：㈱サールナートホール

告知チラシ（当館作成）

3)しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展覧会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。地元の大学生による「学生ボランティア」が制作をサポートする。

⑴「龍馬のお手紙を巻き物に仕立てよう！」

概要：「没後150年　坂本龍馬」展にあわせ、坂本龍馬の書簡を読み、それを簡単な巻子に仕立てた。冒頭のレクチャーでは、原寸大の書簡の複製を見ながら、文中のひらがなやカタカナ、挿絵などを頼りに皆で手紙の内容を解読した。題箋はマスキングテープを各々が好きな形にカットし貼り付けることで、完成した作品に参加者の個性を添えた。また家に持ち帰っても書簡の内容に触れることができるよう、現代語訳を用意した。
日時：8月8日（火）－20日（日）
　　いずれも①13:30－　②15:00－
　　（各回約1時間、計13日間・26回実施）
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生以上　計371人（各回定員15人）
参加料：200円（材料費含む）
主要広報記録：
◆テレビ
・「龍馬の手紙で巻物作り」Daiichi-TV『news every. サタデー』、8月12日放送。
◆雑誌他
・「行くたびに違うワークショップが体験できる」『momo』vol.15、6月5日。

⑵「白隠さんの禅画に触れてお軸をつくろう！」

概要：「白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」にあわせ、白隠が描いた絵に添えられた画賛の意味を知り、掛け軸をつくった。冒頭では、白隠がよく描いた達磨、観音、釈迦、布袋という4つの画題の特徴を伝え、画賛の意味にも触れた。掛け軸に仕立てる作品はこの4つの画題より用意し、和紙や紐も複数色揃えた。表具を表す一文字や風帯は和柄模様のマスキングテープを用い、表装の疑似体験ができる内容とした。
日時：2月17日（土）－3月25日（日）の毎週土曜・日曜日
　　いずれも①13:30－　②15:00－
　　（各回約1時間、計12日間・24回実施）
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生以上　計171人（各回定員15人）
参加料：200円（材料費含む）
主要広報記録：
◆新聞
・「「白隠さん」を掛け軸に　静岡市美術館でワークショップ　小学生らが体験」『静岡新聞』、2月18日。

4)しずびチビッこプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性に迫っている。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

⑴しずびチビッこプログラム

「アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時」

概要：手軽に撮影から現像までを楽しめるよう、オリジナル箱型カメラ制作を考案。100円ショップの双眼鏡のレンズを利用し、焼き付けにはコピアート紙という感光紙を使用した。カメラにコピアート紙を装着し、15分程度静止状態で撮影、アイロンで熱を加えると青焼き写真に仕上がる仕組みで、カメラの仕組みや原理を未就学児でも体感できるプログラムとなった。

日時：5月20日(土)①10:30－12:00　②14:00－15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児　計20人

参加料：子ども1人につき500円

⑵しずびチビッこプログラム

「没後150年　坂本龍馬」

概要：「しずびオープンアトリエ(夏)」の内容に一部アレンジを加え実施。巻き物の和紙には日本の伝統文様の消しゴムはんこを押し、装飾を施した。はんこを押す前には、それぞれの文様の名前の由来を写真を見せながら紹介した。

日時：8月26日(土)①10:30－12:00　②14:00－15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児　計19人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆雑誌等

・「しずびチビッこプログラム「没後150年　坂本龍馬展」」『Pocket』、8月号。

⑶しずびチビッこプログラム

「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン」

概要：＜セヴンチェア＞の名称の由来を知り、実際の制作工程を資料で確認した後、約1/8サイズのミニチュア制作に取り組んだ。様々なバリエーションがある同作品の例に倣い、各自でデザインした布地でくるむタイプ、つき板を貼ったタイプの2種を制作した。最後にアルミで事前制作しておいた脚をとりつけ完成。椅子の制作工程を体感することができた。

日時：10月28日(土)・29日(日)
いずれも①10:30－12:00　②14:00－15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児　計41人

参加料：子ども1人につき500円

⑷しずびチビッこプログラム
「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」

概要：モネの《サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏》を題材に、本作の夕日のグラデーション部分の表現の再現を試みた。制作前に、描かれた場所の実際の夕日の風景とモネの作品を比較鑑賞し、モネ独自の表現に注目した。制作では、モネの筆致に近づくよう、筆跡を残すことに注意を払った。最後に同作の海と教会部分を切り抜いたものを貼りこみ、厚紙でつくった額を取り付けて仕上げた。
日時：1月20日（土）①10:30－12:00　②14:00－15:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：2歳以上の未就学児　計19人
参加料：子ども1人につき500円
主要広報記録：
◆新聞
・森田憲司「大人も子どももくぎ付け　「ターナーからモネへ」静岡市美術館で催し」『中日新聞』静岡版、1月21日。

⑸しずびチビッこプログラム
「白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」

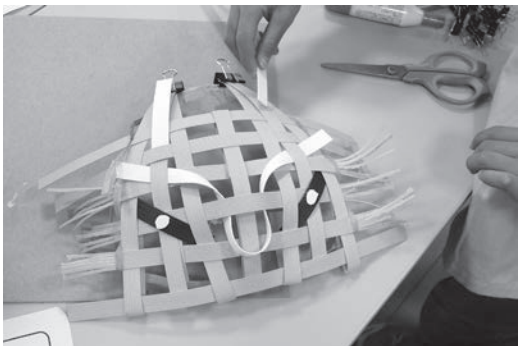
概要：まず白隠が描いた「達磨図」等を鑑賞し、子どもたちにもなじみのある張り子の達磨の図版も見せ、禅宗の開祖である達磨への興味関心を引き出した。模写は半紙の下に作品図版を敷き、筆でなぞるスタイルをとった。墨線の強弱に応じて筆を使い分け、画賛もわかりやすい言葉に意訳して説明した上で絵同様に写した。できあがった作品は、オープンアトリエの手法に従い、掛け軸に仕立てた。
日時：3月21日（水・祝）①10:30－12:00　②14:00－15:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：2歳以上の未就学児　計21人
参加料：子ども1人につき500円
主要広報記録：
◆新聞
・「白隠さんの達磨図模写　静岡市美術館　子どもが体験」『静岡新聞』、3月22日。

5）暦とあそぶワークショップ
概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

⑴暦とあそぶワークショップ vol.14
「こどもの日の準備をしよう！」

概要：端午の節句にあわせ、沖縄などに見られる郷土玩具「鯉乗り童子」をベースとしたオリジナル郷土玩具を制作した。暦本来の意味を学んだ後、全国各地の郷土玩具に見られる縁起物の組み合わせを参考に、一人一人が鯉の上に乗せるものを考え、形にした。材料には柔らかいアルミ線や短時間で固まる石膏包帯を使用、それぞれが思い描く立体作品を制作することができた。
日時：4月29日（土・祝）13:00－16:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生以上の子と親　10組20人
参加料：1人につき500円
主要広報記録：
◆新聞
・杉崎素子「静岡市美術館　「鯉乗り童子」親子が手作り　端午の節句を前に体験」『静岡新聞』、4月30日。

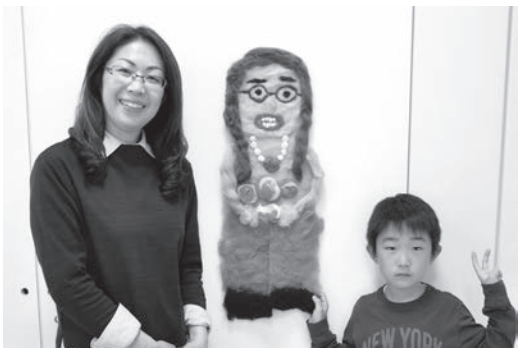
⑵暦とあそぶワークショップ vol.15
「節分だ！鬼のお面をつくろう」



概要：節分にあわせ、暦本来の意味を学んだあと、さまざまな紐を使って鬼面を制作した。最初に鬼の定義を考えることからスタートし、その後、鬼のように世界各国に伝わる、さまざまな動物の要素を寄せ集めた架空の生き物を紹介した。参加者はそれらを参考にさまざまなお面の要素を寄せ集め、オリジナルの鬼面を制作した。素材はクラフトテープ等、紐のみを使用。土台を編み、周りを結んで留め、髭や髪の毛を割く等、紐の特徴を活かしたお面作りを体験してもらうことができた。
日時：2月3日（土）13:00－16:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生以上　22人
参加料：1人につき500円
主要広報記録：
◆テレビ
・「節分で鬼の“お面”づくり　静岡市」NHK静岡放送局『県内ニュース』、2月3日放送。
◆新聞
・「鬼のお面出来たよ　静岡市美術館」『朝日新聞』静岡版、2月4日。

6)プレゼントワークショップ
概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにし、プレゼントを作る、という行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「作って、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

⑴プレゼントワークショップ vol.21
「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」



概要：母の日にあわせ、カラフルな羊毛をフェルト化し、全長約70cmの母の全身像を制作した。冒頭のレクチャーでは、素材の特性や、羊毛が昔から実用品や工芸品として幅広く使用されてきたことを紹介した。ワークシートをとおして母の全身を観察しながら下絵を描いた後、ベースとなる羊毛をフェルト化し、30色のカラフルな羊毛で顔のパーツや服、装飾品等細部まで再現した。
日時：5月14日（日）13:00－16:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生とその母　11組24人
参加料：1人につき500円（材料費含む）
主要広報記録：
◆テレビ
・「美術館でワークショップ　母の日「親子でプレゼントを」」静岡放送『静岡新聞ニュース』、5月14日放送。

⑵プレゼントワークショップ vol.22
「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：父の日にあわせ、カラフルな羊毛をフェルト化し、全長約70cmの父の全身像を制作した。羊毛を薄く伸ばし重ねることで色の濃度を調整した作品や、父の服に羊毛をあてながら色を決め、こまかな模様まで忠実に再現する参加者の姿も見られた。
日時：6月18日（土）13:00－16:30
会場：ワークショップ室
対象・参加者数：小学生とその父　12組24人
参加料：1人につき500円（材料費含む）
主要広報記録：
◆テレビ
・「きょうは父の日　お父さんに手作りプレゼント」静岡朝日テレビ『スーパー Jチャンネル静岡』、6月18日。
◆新聞
・大沼雄大「「父の日」ありがとう　そっくり人形完成　葵区　親子で制作楽しむ」『静岡新聞』、6月19日。

⑶プレゼントワークショップ vol.23
「クリスマスの準備をしよう！」

子ども編

概要：UVレジンという樹脂製の素材をコーティングに使用し、光にかざすと透過するクリスマスオーナメントを制作した。冒頭のレクチャーでは、クリスマスオーナメントの変遷や意味だけでなく、UVレジンについても紹介した。大人・子ども編ともにトレーシングペーパーに絵の具を塗布したオリジナル色紙を使用し、色紙を重ねてモチーフを切り抜き、連続したオーナメントに仕上げた。大人編では、モチーフの連続数を増やしたり、オリジナル色紙で様々な模様を施すなどの工夫を凝らした。
日時：①子ども編　12月9日（土）
　　②大人編　　12月10日（日）
　　いずれも13:00－16:30
会場：①、②とも　ワークショップ室
対象・参加者数：①小学生17人　②中学生以上21人
参加料：いずれも　1人につき500円（材料費含む）

大人編

7)夜店市

概要：中央商店街恒例のイベント「夜店市」に、財団事務局、静岡音楽館AOIと共同で出店。当館ブースでは「没後150年　坂本龍馬」展、「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン」展のチケット、当館オリジナル茶アメ等を販売し、美術館の広報に努めた。また27年度より販売している地元企業のAOI BREINGが醸造したオリジナルビールはレシピを一新して醸造、販売した。

日時：8月11日（金・祝）・12日（土）・13日（日）
　　いずれも16:00－21:00

場所：葵区紺屋町名店街「札幌かに本家」前「小梳神社」側

販売物：「没後150年　坂本龍馬」展当日券、「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念デンマーク・デザイン」展前売券、静岡市美術館オリジナル茶アメ、同虹色えんぴつ＆クリアファイルセット、静岡市美術館オリジナルビール「白霞」、静岡音楽館AOIオリジナルビール「木響」

※チケット・グッズ購入者には、スピードくじを実施した。

印刷物等：

◆うちわ

＜仕様＞サイズ：200×388mm（仕上φ194mm・穴アキ部分φ30mm）

印刷：両面オフセット4色印刷　ニス引き

加工：2連うちわ、2つ折り

枚数：タイプA　5,000枚、タイプB 5,000枚 計10,000枚

※タイプA：「没後150年　坂本龍馬展」および静岡音楽館AOIの面を表面として折り加工

※タイプB：「デンマーク・デザイン」展および静岡市文化振興財団事務局の面を表面として折り加工

うちわ　A面

うちわ　B面

主要広報記録：

◆新聞

・高林和徳「夏恒例の夜店市　中心街にぎわい　あすまで葵区」『静岡新聞』、8月12日。

3−2　連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。

対象：＜ミュージアム教室＞幼稚園・保育園児～高校生
　　＜展示解説＞大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：
スタッフの解説30分＋自由鑑賞30分　計60分

利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ　等		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	0	0	0	0	3	36	6	111	0	0	0	0	9	147
没後150年　坂本龍馬	0	0	4	348	5	101	1	11	1	11	1	53	12	524
日本･デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	0	0	0	0	11	241	7	102	0	0	0	0	18	343
ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	0	0	5	181	11	208	11	146	0	0	0	0	27	535
白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	0	0	0	0	4	52	2	50	0	0	0	0	6	102
計	0	0	9	529	34	638	27	420	1	11	1	53	72	1,651

計　72団体　1,651人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	1	16	0	0	0	0	1	16
没後150年　坂本龍馬	0	0	1	54	4	146	5	200
日本･デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	0	0	0	0	0	0	0	0
ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	3	139	2	69	0	0	5	208
白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	0	0	0	0	2	65	2	65
計	4	155	3	123	6	211	13	489

計　13団体　489人

2)キニナルスキニナルプロジェクト

めぐるりアート静岡 まち　ひと　とき、むすぶ

概要：「めぐるりアート静岡」は、静岡大学「アートマネジメント力育成事業」美術分野実習として始まり、その後静岡市内の様々な場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会として年に1回開催している。今回は「まち　ひと　とき、むすぶ」をテーマとし、静岡のさまざまな地をめぐりながら、それぞれの方法でアートのありかたを問いなおす7名の表現を紹介した。当館では、浜松市在住の新進気鋭の版画家、遠藤美香の作品を紹介。多目的室の空間を利用し、等身大を超える木版画8点を展示した。また当館は「東静岡アート＆スポーツ/ヒロバ」での彫刻家・岩野勝人の「コンテナ・アートベース」プロジェクトのキュレーションも担当した。5月にヒロバに設置された40ftコンテナの壁面に、静岡大学や常葉大学の学生たちが公開制作で色を塗った。秋には、12ftコンテナも搬入したほか、アートベースのシンボルとして岩野氏の5mのキリンの彫刻作品も立ち上がった。本プロジェクト実施後は、殺風景だった広場が一変し、SNSで知った若者が訪れるなど、サードプレースとして機能し始めている。

会期：10月17日（火）－11月5日（日）

会場：①当館多目的室（月曜休館、および10月21日（土）・22日（日）はイベント準備・実施のため観覧不可）　②東静岡アート＆スポーツ/ヒロバ（10月14日（土）－11月5日（日））　③静岡県立美術館　④中勘助文学記念館　⑤村上開明堂七間町第2ビル

出品作家：①遠藤美香　②岩野勝人、千葉広一、小笠原圭吾　③池島康輔　④奈木和彦　⑤渡辺真也

来場者数：14,961人（当館分のみ）

出品リスト（当館分のみ）：

①《江戸間》2012年　91×182cm ／②《枯れ葉》2014年　81×91cm ／③《新聞》2013年　91×114cm ／④《蒲団》2014年　60×91cm ／⑤《さつき》2015年　91×90cm ／⑥《水仙》2015年　182×91cm ／⑦《浮き島》2014年　133×145cm ／⑧《芝生》2013年　91×120cm　すべて　木版画（和紙、墨）、作家蔵

主要広報記録：

◆新聞

・菊地真生「3週間限定「市民大学」葵区・七間町初の試み　哲学者と映像作家対談」『静岡新聞』、11月5日。

◆雑誌等

・「もっとアート‼　めぐるりアート静岡とは…」『すろーかる』、10月号。

・「市政レポート：街に芸術「めぐるりアート静岡」“東静岡ヒロバ”に巨大キリン？」『リビング静岡』、10月14日。

◆ウェブサイト（媒体名のみ記載）

「ギャラリーなつか」、「アットエス」

印刷物：

◆チラシ（静岡大学作成）

＜仕様＞

サイズ・加工：623×296mm（巻3つ折り　仕上A4）

チラシ表面

チラシ中面

◆記録集

＜仕様＞A4版、35頁

記録集　表紙

ごあいさつ／作家紹介／アーティスト・インタビュー／来場者の声／成果と課題

編集：白井嘉尚、植松篤、川谷承子、名倉達了、平野雅彦、堀切正人、柚木康裕、以倉新

発行：国立大学法人　静岡大学

発行年：2018年

関連事業

◆アーティストトーク
概要：出品作家による作品解説。作者が自作について語り、会場からの質問に答えた。巨大な版画をどのように制作しているかなど技術的なことから、日々、何を思って制作しているかなど、作家としての率直な話を聞くことができ、遠藤氏の作品世界をより深く知る機会となった。
日時：11月5日（日）14:00－14:30
会場：エントランスホール・多目的室
参加者数：17人
講師：遠藤美香（出品作家）

3）生涯学習センター・静岡市美術館連携事業
「しずび出前講座」
概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、講義やワークショップを実施する連携講座。本年度は講義11講座、講義＋ワークショップ2講座、ワークショップ1講座を実施した。

＜講義＞
①長田生涯学習センター
にっこり子育て　おさだ家庭教育学級
第2回「絵本の絵を読む」
概要：「おはなしを視覚化したもの」と思われがちな絵本の絵には、それ以上の情報が含まれている。言葉では書かれていない絵の細部の描写や登場人物の心理描写、色が与える感情的な効果等を例に、子どもの視点に立ち返って絵本を見るたのしさを紹介した。また日本画家や漫画家等、さまざまな職業の作家が絵本を描いていることに触れ、原画の魅力を伝えた。
日時：5月25日（木）10:00－12:00
会場：長田生涯学習センター　　**参加者数**：5人
講師：安岡真理

②高齢者学級みのり大学　長田学級での講義
「画家とめぐる地中海沿岸の旅～南仏を中心に～」
概要：過去に「しずび出前講座」として実施した全2回の「画家とめぐる地中海沿岸の旅」の短縮版として実施。セザンヌ、ルノワール、マティス、ピカソ、シャガールなど日本人に馴染み深い作家を取り上げ、彼らが暮らした南仏の町々の様子や、そこで制作された作品をスライドで紹介した。
日時：6月23日（金）9:30－11:30
会場：長田生涯学習センター　　**参加者数**：108人
講師：小川かい

③高齢者学級みのり大学　東部学級での講義
「名のある風景、名のない山水（信仰と絵画）日本一の山、富士山に登る、富士山を描く－富士山信仰と富士図の展開」
概要：描かれた富士山を、古代中世の絵画から近世近代の絵画へその変遷をたどりつつ紹介した。江戸の人にとって憧れであったことを富士山信仰や「おふじさん」とともに紹介し、霊山としての富士山、真景としての富士山を概観した。
日時：7月11日（火）10:00－11:30
会場：東部生涯学習センター　　**参加者数**：83人
講師：吉田恵理

④高齢者学級みのり大学　西奈学級での講義
「古美術入門　俵屋宗達「風神雷神図屏風」と尾形光琳「紅白梅図屏風」を比較して」
概要：宗達と光琳の資質の違いを、二枚折屏風である風神雷神図と紅白梅図屏風の造形的特徴から読み解いた。また描き継がれた風神雷神図にもふれ、光琳が宗達をいかに尊敬していたのか、画派ではなく私淑による琳派のカテゴリーについても概説した。
日時：7月12日（水）13:30－15:30
会場：西奈生涯学習センター　　**参加者数**：70人
講師：吉田恵理

⑤講演会「平和への祈り　シャガールとピカソ」
概要：平成25年度に開催した「シャガール展」や、過去「しずび出前講座」として実施した「画家とめぐる地中海沿岸の旅」での内容をベースに、南部生涯学習センターからの依頼でオリジナル講座として実施。同時代に生き、第二次世界大戦を乗り越え制作活動を続けたシャガールとピカソの戦後作品を中心に、彼らが作品に込めた平和への願いを読み解いた。
日時：7月14日（金）14:00－16:00
会場：南部生涯学習センター　　**参加者数**：34人
講師：小川かい

⑥講演会「永徳か等伯か」
概要：桃山時代の障壁画の名手、天下人のための画を描き続けた狩野永徳とそのあとを追随した長谷川等伯の人生と画業を比較した。永徳の唐獅子図と等伯の松林図については特にその造形的特徴について比較しながら紹介した。
日時：8月4日（金）19:00－21:00
会場：南部生涯学習センター　　**参加者数**：45人
講師：吉田恵理

⑦高齢者学級みのり大学　東部学級での講義
「ターナーからモネへ～19世紀イギリス・フランス美術史入門」
概要：11月から開催の「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」のプレ事業として実施。普段西洋美術に馴染みのない人にも理解しやすいよう、近代の西洋美術の流れを、展覧会出品作家・作品を中心に紹介した。
日時：10月10日（火）10:00－11:30
会場：東部生涯学習センター　　**参加者数**：79人
講師：小川かい

⑧「美術史入門講座～ターナーからモネへ～」
概要：「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」にあわせて実施。初回は普段西洋美術に馴染みのない人にも理解しやすいよう、近代の西洋美術の流れを展覧会には出品されていない作品も交えてスライドで紹介した。2回目は、当館で展覧会を鑑賞し、展示室入場前には各章のみどころや、作品鑑賞のポイントなどを紹介した。
日時：①12月8日（金）　②12月15日（金）
　　いずれも13:30－15:30
会場：①北部生涯学習センター　②当館　　**参加者数**：計64人
講師：小川かい（①、②とも）

⑨大里心の乙女塾　～女性のための教養講座～
「浮世絵にみる江戸の猫ブーム　飼い猫、化け猫、招き猫！」
概要：30年度開催予定の「いつだって猫展」のプレ事業として実施。猫を題材とした浮世絵を中心に歌舞伎、文学、招き猫なども紹介し、江戸時代後期から明治にかけて起こった「猫ブーム」に迫る内容とした。
日時：12月13日（水）19:00－21:00
会場：大里生涯学習センター　　**参加者数**：26人
講師：大石沙織

⑩「浮世絵にみる江戸の猫ブーム」
概要：30年度開催予定の「いつだって猫展」のプレ事業として、日本における猫と人との関わりを2回講座で紹介。猫を題材とした浮世絵を中心に歌舞伎、文学、招き猫なども提示しながら、江戸時代後期から明治にかけて起こった「猫ブーム」に迫る内容とした。
日時：①1月17日（水）　②1月31日（水）
　　いずれも10:00－11:30
会場：西部生涯学習センター　　**参加者数**：29人
講師：大石沙織（①、②とも）

⑪高齢者学級みのり大学　大里学級での講義
「白隠の生涯と書画」
概要：白隠の生涯と書画の展開を達磨図と観音図を例に画風展開を示し、開催中の展覧会のみどころとともに紹介した。静岡市内の寺院の所蔵品を中心に、地域の人々と白隠の知られざる関係についての話もしたためか、テーマそのものが、地域ゆかりの名僧に関するものだったためか、講座を聞いて関心をもって来館したという受講者もいた。
日時：2月15日（木）13:30－15:30
会場：大里生涯学習センター　　**参加者数**：48人
講師：吉田恵理

＜講義＋ワークショップ＞
①しずび出前講座「絵本の絵を読む」
概要：絵本の絵の魅力を、講義とワークショップをとおして多角的に紹介した。講義では、おはなしには書かれていない絵の細部の描写等に注目し、子どもの視点に立ち返って絵本を見るたのしさを伝えた。また作家や技法にも触れ、最後にオリジナルの色紙をつくり、それを使って作品を制作することで、『はらぺこあおむし』の作者、エリック・カールの絵本作りを体験した。
日時：①11月28日（火）　②12月5日（火）
　　いずれも10:00－11:30
会場：東部生涯学習センター
対象・参加者数：小学生以下の保護者　計25人
講師：安岡真理（①、②とも）

②しずび出前講座「絵本の絵を読む」
概要：1回目の講義では絵本の絵の魅力をさまざまな視点から紹介、熱心にメモを取る受講者が多く見受けられた。2回目のワークショップでは絵本作家エリック・カールの技法を用い作品を制作、誰でも簡単に制作することができ好評であった。終了後は紹介した絵本を見ながら皆で意見交換をする等、受講者同士の交流の場とすることもできた。
日時：①2月6日（火）　②2月13日（火）
　　いずれも10:00－12:00
会場：西奈生涯学習センター　　**参加者数**：計28人
講師：安岡真理（①、②とも）

＜ワークショップ＞
①出張！しずびチビッこプログラム
「型紙を使ってうちわをつくろう！」
概要：平成27年度に実施した芹沢銈介展「しずびチビッこプログラム」をもとに、未就学児の親子向けにアレンジした内容を実施。芹沢銈介の型染めの技法で制作されたのれん等の作品を参考に、紙を切ってできあがったかたちを文様として見立てて楽しんだ。このかたちを型紙に利用し、うちわ用の和紙を絵の具で彩色して仕上げた。美術館ならではの画材や手法を採り入れた内容で好評を得た。
日時：1月28日（日）10:30－12:00
会場：大里生涯学習センター
対象・参加者数：2歳以上の未就学児とその保護者　6組12人
講師：森谷紗世

4)静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は4事業を実施した。

⑴静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト

「よくばり箱カメラをつくろう～龍馬の写真から知るカメラの歴史～」

概要：「没後150年　坂本龍馬」展にあわせ、静岡科学館る・く・るの主催で実施。カメラの原点であるピンホールカメラ、レンズカメラの工作を行った。また、幕末に普及したガラス湿板写真を現在も制作している写真家に依頼し、ガラス湿板写真の原板やその制作過程の解説パネル等を借用、展示した。

日時：7月2日(日)13:00－15:30

会場：静岡科学館る・く・る　　**参加者数**：182人

主要広報記録：

◆新聞

・「箱カメラにびっくり　静岡科学館で製作体験会」『静岡新聞』、7月4日。

⑵静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

朗読音楽会「月琴で綴る龍馬の手紙」

※18頁を参照。

⑶静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

「尾上松也　竜馬がゆく」

概要：「没後150年　坂本龍馬」展にあわせて実施。伍芳(ウーファン)による古箏の演奏とともに、歌舞伎俳優・尾上松也が、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を朗読した。

日時：8月10日(木)開場18:30　開演19:00

会場：静岡音楽館AOIホール

参加者数：363人　　**参加料**：4,000円

出演：尾上松也(朗読)、伍芳(ウーファン)(古箏)

演目：【第1部】司馬遼太郎『竜馬がゆく』より＜門出の花＞、＜脱藩＞、＜勝海舟＞、＜秘密同盟＞、＜伏見寺田屋＞

【第2部】司馬遼太郎『竜馬がゆく』より＜霧島山＞、＜大政奉還＞、＜竜馬暗殺＞、伍芳ミニ・コンサート、司馬遼太郎「21世紀に生きる君たちへ」※尾上松也によるトークあり

印刷物：

◆告知チラシ(静岡音楽館AOI作成)

＜仕様＞サイズ：A4

チラシ表

チラシ裏

⑷静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト/静岡室内楽フェスティバル2017

「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」

※37頁を参照。

5)キニナルスキニナルプロジェクト

概要：当館を指定管理する静岡市文化振興財団が、しずおか文化を知って「キニナル」、楽しんで「スキニナル」、そして魅力ある「しずおか文化」を創り出していくことを目的として、平成26年度から実施しているプロジェクト。財団内各施設における「ダンス」「美術」「音楽」「科学」「生涯学習」等の多彩な事業をエントリーし展開している。当館では本年度、展覧会関連事業やワークショップ等4事業、鑑賞ガイド1種を実施・制作した。また、平成26年度から29年度までの活動をまとめた『キニナルスキニナルプロジェクト記録集』（発行／（公財）静岡市文化振興財団）も作成した。

⑴キニナルスキニナルプロジェクト
しずびチビッこプログラム

※55－56頁を参照。

⑵キニナルスキニナルプロジェクト
しずびオープンアトリエ

※54頁を参照。

⑶静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト
「よくばり箱カメラをつくろう～龍馬の写真から知るカメラの歴史～」

※64頁を参照。

⑷キニナルスキニナルプロジェクト
「デンマーク・デザイン」展鑑賞ガイド

※24頁を参照。

⑸キニナルスキニナルプロジェクト
めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ

※61頁を参照。

⑹静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業/キニナルスキニナルプロジェクト/静岡室内楽フェスティバル2017
「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」

※37頁を参照。

印刷物：

◆事業告知チラシ（静岡市文化振興財団事務局作成）
＜仕様＞ サイズ：すべて A4

6月発行チラシ　表

6月発行チラシ　裏

9月発行チラシ　表

9月発行チラシ　裏

12月発行チラシ　表

12月発行チラシ　裏

6)その他施設との連携等

⑴Kids Art Project Shizuoka

概要：平成29年4月～平成30年3月末まで、「Kids Art Project Shizuoka 実行委員会」に参画、県内の小学生全児童に参加各館のオリジナルスタンプを集めるスタンプラリー付の「しずおかミュージアムパスポート」を配布した。

実施期間：4月1日（土）－3月31日（土）

対象：静岡県内の全小学生（510校・約19万人）

加盟館：静岡県内の美術館・博物館　計43館

利用者数（当館分のみ）：877人

⑵JR東海「アート＆トレイン」

概要：JR東海が企画した、電車を利用して、静岡県および山梨県にある全9館の美術館をめぐるスタンプラリー「アート＆トレイン」へ協力。パンフレット持参の来館者には当館オリジナルクリアファイルを進呈した。

実施期間：7月14日（金）－12月10日（日）

利用者数（当館分）：1,127人

パンフレット表紙

4．受託事業等

4－1　受託事業等

1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：静岡市美術館が所蔵する、竹久夢二作品(志田コレクション)を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)で展示する、毎年恒例の展覧会。今年度は夢二の情景描写に注目し、肉筆画1点を含む13点で夢二作品の魅力を紹介した。
会期：11月2日(木)－5日(日)
会場：旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)
来場者数：218人
展示内容：志田コレクションより
1. 竹久夢二筆〈たそがれ〉大正後期　絹本着色
2. 竹久夢二原画〈女十題〉「逢状」昭和12-13年　加藤版画研究所　紙・石版
3. 竹久夢二原画〈長崎六景〉「青い酒」昭和15-16年　加藤版画研究所　紙・木版多色摺
4. 竹久夢二原画〈夢二名作集〉「第八回　宵待草」昭和13-14年　加藤版画研究所　紙・木版多色摺
5. 同「第十回　春の宵」昭和13-14年　加藤版画研究所　紙・木版多色摺
6. 竹久夢二原画〈夢二詩画集〉「かるた」昭和16年　加藤版画研究所　紙・石版
7. 同「歳の市」昭和16年　加藤版画研究所　紙・石版
8～10. 竹久夢二原画〈夢二小品版画集〉
11. 竹久夢二装幀・著作『桜さく国　紅桃の巻』
12. 竹久夢二装幀・著作『春のおくりもの』
13. 澤田伊四郎編『花のおも影』

計13点

主要広報記録：
◆新聞
・「イベント情報」『中日新聞』静岡版、11月3日。

2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示
「平野富山－清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で6年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて年3回の展示を行った。また、それに係る保存管理、調査研究もあわせて実施した。
テーマおよび会期：
【第1期】縁起物　6月－11月
【第2期】富山作品にみる奈良一刀彫の影響　11月－2月
【第3期】神仏　2月－6月
会場：静岡市清水文化会館マリナート　1階ギャラリー隣
平野富山常設展示コーナー

第2期

第1期

第3期

作品リスト：

【第1期】テーマ：縁起物

富山が好んで手がけた七福神の彩色木彫より《福寿大黒天尊像》、《福寿恵比寿尊像》を展示。あわせて富山の収集したコレクションから、仁阿弥道八、奥田木白による寿老人の陶塑2点のほか、青磁、白磁の陶磁器も初出品した。

1. 平野富山《福ねずみ》昭和46年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《福寿大黒天尊像》昭和47年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《福寿恵比寿尊像》昭和47年頃、彩色木彫、静岡市
4. 仁阿弥道八《飴釉寿老人形置物》江戸後期、京焼、静岡市/平野富山コレクション
5. 奥田木白《色絵寿老人形置物》江戸後期、赤膚焼、静岡市/平野富山コレクション
6. 平野富山《花ごころ》昭和55年、彩色木彫、静岡市
7. 平野富山（敬吉）《斜光》※第5回新日展出品、昭和34年、FRP、静岡市
8. 《青磁花卉文皿》明時代中期、龍泉窯、静岡市/平野富山コレクション
9. 《白磁碗》清代後期、中国南方、静岡市/平野富山コレクション
10. 《白磁印花文皿》江戸時代中期、有田、静岡市/平野富山コレクション

【第2期】テーマ：富山作品にみる奈良一刀彫の影響

奈良一刀彫の伝統的な主題でもある富山の《三輪雛》《鐘馗》などを紹介し、富山作品にみる一刀彫の影響を探った。あわせて、富山が範とした奈良一刀彫の中興の祖である森川杜園の参考図版のほか、奈良一刀彫の概略を紹介する解説パネルなども資料展示し、富山の作品を捉えなおした。

1. 平野富山《吉野雛》昭和8年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《三輪雛》昭和55年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《鐘馗》昭和50年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《韋駄天童子》昭和49年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《欄間扇面散らし》昭和22年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山《羽衣舞》昭和58年、彩色木彫、静岡市
7. 平野富山（敬吉）《女》※第3回新日展出品、昭和35年、FRP、静岡市

【第3期】テーマ：神仏

常設展示では初出品となる《聖徳太子二歳像》のほか、平野富山の次男で彩色木彫家の平野千里の仏像3体を展示。あわせて、出品した仏像の持物を図解したシートを作成し、資料の充実につとめた。

1. 平野富山《吉祥天》昭和47年、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《聖徳太子二歳像》昭和49年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《神馬》昭和52年、彩色木彫、静岡市
4. 平野千里《不動明王半跏像》平成7年、彩色木彫、静岡市
5. 平野千里《矜羯羅童子》平成6年、彩色木彫、静岡市
6. 平野千里《制吒迦童子》彩色木彫、静岡市

5．調査研究・研修受入等

5－1　調査研究

平成29年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●田中豊稲
＜館外での活動＞
・静岡市文化振興審議会委員
・文化庁美術品補償制度部会部会長代理
・「ドナルド・キーン＋キーン誠己」講演会（於：日本平ホテル）での司会進行（11月17日）

●以倉新
＜館外での活動＞
・静岡県立美術館　専門評価員（11月4日）
・静岡大学アートマネジメント力育成事業実習「めぐるりアート静岡」展企画運営
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「Shizubi Project6 彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」カタログ編集、「彼方へ－國府理、林勇気、宮永亮の作品について」執筆。
・「めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ」記録集編集、作家紹介「岩野勝人」「遠藤美香」執筆。

●吉田恵理
＜館外での活動＞
・静岡県文化財保護審議会委員（絵画担当）
・第7回 東山魁夷記念 日経日本画大賞 推薦委員
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」展覧会カタログ編集、コラム「禅僧・白隠の経世済民－小島藩惣百姓一揆を例に」、コラム「白隠の在家居士・池大雅」、「白隠－江戸絵画史の中で」執筆。
・『「没後100年　徳川慶喜」展シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画」報告書』編集、開催趣旨および「シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画」を終えて」執筆。
＜雑誌・新聞等寄稿＞
・吉田恵理「書画で万人を叱咤激励 駿河の白隠さん 10日から静岡市美術館」『静岡新聞』、2月6日。
・吉田恵理「静岡ゆかりの名品が全国から終結！　白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」『美術の窓』、2月号。

●小川かい
＜館外での活動＞
・静岡文化芸術大学「視覚芸術論」特別講義（5月17日）
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ」カタログ編集、第5章章解説・作品解説・作家解説執筆。
＜雑誌・新聞等寄稿＞
・小川かい「ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ　戦禍　海峡を越えて　変革期の英仏交流　名画に」『中日新聞』静岡版、11月23日。
・小川かい「ターナーからモネへ①　ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー「難破後の朝」1840年頃　一瞬を微妙な色彩で」『中日新聞』静岡版、12月6日。
・小川かい「ターナーからモネへ②　ジョン・コンスタブル「麦畑の農家」1817年　ドラクロワらに影響」『中日新聞』静岡版、12月7日。
・小川かい「ターナーからモネへ③　ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ「麗しのロザムンド」1861年　忠実さより質感、色彩」『中日新聞』静岡版、12月9日。
・小川かい「ターナーからモネへ④　クロード・モネ「サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏」1908年　「世界一の夕日」描く」『中日新聞』静岡版、12月12日。
・小川かい「ターナーからモネへ⑤　ピエール＝オーギュスト・ルノワール「会話」1912年　病と闘う熱意　感じる」『中日新聞』静岡版、12月13日。

●森谷紗世
＜館外での活動＞
・「日本平動物園写生大会」審査（11月18日）
・浜松市楽器博物館親子ワークショップ「羊毛で楽器の絵を作ろう」講師（12月16日）
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン」展カタログ編集、メーカー解説執筆。
＜その他＞
・「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン」展　鑑賞ガイド作成。
＜雑誌・新聞等寄稿＞
・森谷紗世「デンマークで生まれたデザインには　人を幸せにする力がある」『大人のおしゃれ手帖』、11月号。

●伊藤鮎
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時」カタログ編集、「「ドキュメンタリー＆アンチ・グラフィック」展とアルバレス・ブラボ－1930年代におけるアメリカ写真の諸相をめぐって」、コラム2「シュルレアリスムとアルバレス・ブラボ」執筆。
・「Shizubi Project6 彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」カタログ、「國府理とSolar Power Lab.（吹田哲二郎インタビュー）」構成・編集。
・「白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん」展覧会カタログ編集。
＜雑誌・新聞等＞
・伊藤鮎「世界の二元性　静かに開示　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（上）」『読売新聞』静岡版、4月19日。
・伊藤鮎「世界との向き合い方示す　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（中）」『読売新聞』静岡版、4月20日。
・伊藤鮎「視角の戯れ　日常に潜む謎　アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時（下）」『読売新聞』静岡版、4月21日。
＜その他＞
・「美術館で映画はいかが？「Shizubiシネマアワー」」Daiichi-TV『the NEXT』、4月11日放送。

●大石沙織
＜館外での活動＞
・静岡県博物館協会事業推進グループ委員
＜展覧会カタログ等編集・執筆＞
・「没後150年　坂本龍馬」展鑑賞ガイド作成。
・『「没後100年　徳川慶喜」展シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を

読む－幕府開成所と近代洋画」報告書』編集。
＜雑誌・新聞等寄稿＞
・大石沙織「「没後150年 坂本龍馬」展①　姉・乙女へ新婚旅行を報告」『読売新聞』静岡版、7月4日。
・大石沙織「「没後150年 坂本龍馬」展②　暗殺現場　血染めの掛け軸」『読売新聞』静岡版、7月5日。
・大石沙織「「没後150年 坂本龍馬」展③　最期まで所持した愛刀」『読売新聞』静岡版、7月6日。
・大石沙織「「没後150年 坂本龍馬」展④　渡辺崋山　思想を描く」『読売新聞』静岡版、7月7日。
・大石沙織「「没後150年 坂本龍馬」展⑤　師・勝海舟　江戸時代に幕」『読売新聞』静岡版、7月8日。

●安岡真理
＜館外での活動＞
・「日本平動物園写生大会」審査（11月18日）
・浜松市楽器博物館親子ワークショップ「羊毛で楽器の絵を作ろう」講師（12月16日）
＜研究発表・論文等＞
・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」（美術科教育指導論・後期）、静岡大学、12月18日。

◆教育プログラム企画・制作（担当：森谷・安岡）
・「しずびチビッこプログラム」オリジナルプログラム（各展覧会・計5種）
・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム（計2種）
夏：「龍馬のお手紙を巻き物に仕立てよう！」
春：「白隠さんの禅画に触れてお軸をつくろう！」
・「プレゼントワークショップ」（計3種）
vol.21「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.22「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.23「クリスマスの準備をしよう！」
・「暦とあそぶワークショップ」（計2種）
vol.14「こどもの日の準備をしよう！」、vol.15「節分だ！鬼のお面をつくろう」

5－2　刊行物

1）「没後100年　徳川慶喜」展シンポジウム
「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画」報告書
概要：2013年の展覧会「没後100年　徳川慶喜」展の関連事業として実施した、シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画」の講演録兼研究報告書を作成した。シンポジウム登壇者の講演録を再録しただけでなく、展覧会およびシンポジウムの開催趣旨、その後についても記載した。

報告書：
＜仕様＞210×297mm、63頁

報告書表紙

カラー図版21点、モノクロ図版45点
参考図版（モノクロ100点）

第一部
＜はじめに＞
吉田恵理「開催趣旨」
＜基調講演＞
山梨絵美子「徳川慶喜公の油彩画とその周辺」
滝澤正幸「川上冬崖と開成所資料」
齊藤洋一「徳川慶喜と写真・油彩画　中嶋仰山と開成所の人々」
古田亮「高橋由一　開成所から近代洋画へ」

第二部
討議
吉田恵理「シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画を終えて」

編集：静岡市美術館
発行年：2018年

5－3　博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象：博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。
①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)
②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。　③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)
④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)
実習期間：8月8日(火)－12日(土)　計5日間
実習場所：当館内
受入大学・人数：静岡大学、京都造形芸術大学、実践女子大学、明治学院大学　計4大学4人

実習日	時　間	実　施　内　容
8日(火)	10:10－11:00	ガイダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義)
	11:10－12:00	開催中展覧会の見学
	13:00－13:50	開催中の展覧会について＜なりたち、展示演出など＞(講義)
	14:00－14:50	展覧会の作り方＜展覧会ができるまでの流れなど＞(講義)
	15:00－15:50	展覧会の企画立案・調査研究について(講義)
9日(水)	10:10－11:00	静岡市美術館の広報活動について(講義)
	11:10－12:00	美術品の展示・保存環境、輸送について(講義)
	13:40－14:30	静岡市美術館の教育普及活動について(講義)
	14:50－16:30	オープンアトリエ体験(実習)
10日(木)	9:10－10:50	自記温湿度計の取扱い・収蔵庫見学(実習)
	11:10－12:00	美術品の取扱い(講義・実習)
	13:00－15:50	収蔵庫の整理(実習)
11日(金)	11:10－12:00	地域と美術館＜めぐるりアート、アート＆スポーツヒロバを中心に＞(講義)
	13:00－13:30	美術館の図書について(講義)
	13:40－15:00	図書の整理(実習)
	15:30－19:00	夜店市準備・手伝い(実習)
12日(土)	10:10－11:00	館長講話(講義)
	13:00－15:50	「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5－4　視察等受入

平成29年度受入分は下記のとおりである。

	日　付	視察団体名	人数
1	5月23日(火)	韓国・安山市	4人
2	6月1日(木)	柏市市議会	4人
3	6月10日(月)	日本教育大学協会美術部門東海地区大会	19人
4	7月14日(金)	第51回大都市下水道計画研究会会議	52人
5	9月27日(水)	宇都宮市教育委員会 (公財)うつのみや文化創造財団	4人
6	1月19日(金)	静岡市MICE・国際課	4人
7	2月14日(水)	静岡県市立図書館協議会	30人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。)

計　7件　117人

6．収蔵品・図書等

6－1　収蔵品・画像貸出等

平成29年度は、収蔵品・画像貸出等は行わなかった。

6－2　図書等

平成29年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	7冊	353冊	360冊
雑誌	111冊	82冊	193冊
一般図書・その他	53冊	370冊	423冊
合計	171冊	805冊	976冊

7．広報活動

7－1　広報印刷物

1)年間スケジュール

平成29(2017)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

＜仕様＞紙：マットコート 110kg
サイズ・数量：210×396mm(仕上 210×99mm)　45,000部(日本語版)、500部(英語版)
加工：観音折り(四つ折り)加工
印刷：オフセット印刷(日本語版)、オンデマンド印刷(英語版)

◆日本語版年間スケジュール

表紙

表面

中面

◆英語版年間スケジュール

表紙

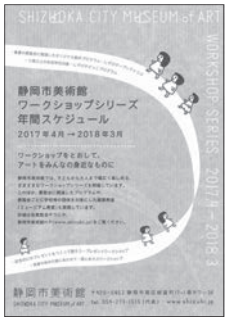
表面

中面

2)ワークショップシリーズ年間スケジュール

平成29(2017)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

＜仕様＞紙：片艶晒クラフト(キャピタルラップ) 86kg
サイズ・数量：A4(仕上A5)20,000部
加工：二つ折り加工



表紙

表面

中面

7−2　ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。スマートフォンサイトとも連動している。また、ブログ、ツイッター、インスタグラムも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：(http://www.shizubi.jp)
●展覧会　・開催中の展覧会　・これからの展覧会
・年間スケジュール　・過去の展覧会
●イベント　・これからのイベント　・今までのイベント
●ショップ&カフェ　・ショップ&カフェ　・図録の通信販売
・アーカイブ
●学校・団体鑑賞
●プレス
●アクセス・利用案内　・アクセス/利用案内　・駐車場
●美術館の概要　・美術館の歩み
・館長挨拶　・コンセプト
・施設概要　・ロゴについて

●その他(リンク)
・ブログ(http://www.shizubi.jp/blog)
・ツイッター (http://twitter.com/shizubi_jp)
・インスタグラム(http://instagram.com/shizubi_jp)

アクセス数：320,584件(1日平均　約829件)

パソコン版ホームページ

スマートフォン版ホームページ

7－3　施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)新聞

・「静岡市美術館 観覧者 100 万人」『読売新聞』静岡版、8月19日。
・「静岡市美術館 観覧100万人目 富士の村松さん一家」『朝日新聞』静岡版、8月19日。
・垣見窓佳「静岡市美術館 観覧者 100 万人突破 富士の村松さんに記念品」『中日新聞』静岡版、8月19日。

2)雑誌等

・「行くたびに違うワークショップが体験できる　静岡市美術館」『momo』、6月5日。
・「都市型のアクティヴな美術館　静岡市美術館」『美術展＆美術館ぴあ2017秋冬－2018』、9月15日。
・「同」『美術展&美術館ぴあ2018』、3月30日。

3)ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「まちぽスタンプ」、「itot静岡」、「るるぶcom」、「アットエス」、「静岡ナビっち！」

4)その他

・「施設紹介」『静岡デザインマップ』、4月1日。
・「施設紹介」『列車でめぐるしずおか＋』、4月1日。
・「施設紹介」『THINK LOCAL SHIZUOKA』、6月1日。
・「施設紹介」『静岡駅周辺のご案内』、7月1日。
・「ロゴマーク紹介」『ロゴデザインのロジック』、三才ブックス、2月1日。

8．管理運営

8－1　利用者数

1)利用者数(月別)　(単位：人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業・その他の事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	2,017	81	11,952	3	14,053	11,932
5月	4,191	207	15,802	9	20,209	15,692
6月	0	0	6,040	118	6,158	9,003
7月	23,566	13,722	0	612	37,900	45,361
8月	26,831	163	390	686	28,070	51,767
9月	5,675	212	0	158	6,045	18,277
10月	6,565	431	41	10,215	17,252	19,872
11月	7,293	224	0	5,518	13,035	20,704
12月	7,255	477	38	327	8,097	18,468
1月	15,680	613	173	116	16,582	31,669
2月	4,345	569	69	83	5,066	15,144
3月	7,716	578	145	15	8,454	23,981
計	111,134	17,277	34,650	17,860	180,921	281,870
月平均	9,261	1,440	2,888	1,488	15,077	23,489

2)利用者数　事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4月8日－5月28日 (開館45日間)	6,208人 (138人/日)
没後150年　坂本龍馬	7月1日－8月27日 (開館51日間)	50,397人 (988人/日)
日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9月9日－11月12日 (開館56日間)	16,965人 (303人/日)
ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11月23日－1月28日 (開館54日間)	25,503人 (472人/日)
白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	2月10日－3月25日 (開館38日間)	12,061人 (317人/日)
展覧会　観覧者　計		111,134人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者＋交流事業参加者＋連携事業・その他事業参加者)		69,787人
事業参加者　総計　(展覧会観覧者＋普及事業参加者)		180,921人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日－3月31日	281,870人

3)利用者数(事業別詳細)

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会事業	展覧会		計5本　111,134人		
	アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4/8－5/28 (45日間)	10,000	6,208	62.1%
	没後150年　坂本龍馬	7/1－8/27 (51日間)	26,000	50,397	193.8%
	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9/9－11/12 (56日間)	26,000	16,965	65.3%
	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11/23－1/28 (54日間)	20,000	25,503	127.5%
	白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	2/10－3/25 (38日間)	15,000	12,061	80.4%
展覧会関連事業	ミュージアム教室		計1,651人(72団体/72回)		
	ミュージアム教室(ブラボ展)	4/8－5/28 (全9回)	147(9団体/9回)		
	ミュージアム教室(坂本龍馬展)	7/1－8/27 (全12回)	524(12団体/12回)		
	ミュージアム教室(デンマーク展)	9/9－11/12 (全18回)	343(18団体/18回)		
	ミュージアム教室(ウェールズ展)	11/23－1/28 (全27回)	535(27団体/27回)		
	ミュージアム教室(白隠展)	2/10－3/25 (全6回)	102(6団体/6回)		
	その他展示解説		計489人(13団体/13回)		
	展示解説(ブラボ展)	4/8－5/28 (全1回)	16(1団体/1回)		
	展示解説(坂本龍馬展)	7/1－8/27 (全5回)	200(5団体/5回)		
	展示解説(デンマーク展)	9/9－11/12 (全0回)	0(0団体/0回)		
	展示解説(ウェールズ展)	11/23－1/28 (全5回)	208(5団体/5回)		
	展示解説(白隠展)	2/10－3/25 (全2回)	65(2団体/2回)		
	アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時		計3本　125人		
	講演会「アルバレス・ブラボ－恩寵と優美さ」	4/16	70	54	77.1%
	講演会「静かなる光と時－アルバレス・ブラボの生涯と作品」	5/20	70	43	61.4%
	当館学芸員によるギャラリートーク	4/29、5/13	40	28	70.0%
	没後150年　坂本龍馬		計4本　13,161人		
	武田鉄矢氏の本展応援パーソナリティー就任	7/1－8/27	－	－	－
	講演会「坂本龍馬－手紙に見る人間性－」	7/1	70	124	177.1%
	刀剣乱舞DAY	7/14－7/17 (4日間)	－	12,802	－
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 朗読音楽会「月琴で綴る龍馬の手紙」	7/16	70	114	162.9%
	講演会「坂本龍馬の愛刀と幕末の刀剣事情Ⅲ－戻るに戻れぬ復古主義－」	7/22	70	121	172.9%
	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン		計5本　418人		
	講演会①「デンマーク名作家具との出会い－知の発見、再生へ」	9/23	70	108	154.3%
	「レゴ®ブロックでつくった車を走らせよう！」	10/8	80	86	107.5%
	当館学芸員によるギャラリートーク	10/14、11/4	40	71	177.5%

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			（人）	（人）	（%）
展覧会関連事業	クラシックミニコンサート	10/21	70	71	101.4%
	講演会②「ロイヤル コペンハーゲン　ビング オー グレンダール」	10/22	70	82	117.1%
	ミッケラーカフェ@shizubi	10/7－10/9	－	－	－
	ウェグナーの椅子にすわろう！	9/9－11/12	－	－	－
	レゴ®ソフトであそぼう！	9/9－11/12	－	－	－
	ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ		計5本　453人		
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 静岡室内楽フェスティバル2017 コンサート「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」	11/26	70	101	144.3%
	講演会①「風景が輝く時：ターナーからモネへ」	12/9	70	102	145.7%
	当館学芸員によるギャラリートーク	12/16、1/20	40	100	250.0%
	講演会②「ターナーと海」	1/13	70	97	138.6%
	ミニコンサート	1/20	－	53	－
	白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん		計6本　980人		
	講演会①「白隠さん大好き」	2/10	70	130	185.7%
	当館学芸員によるギャラリートーク	2/12、3/17	40	103	257.5%
	法話「白隠禅師と民衆教化」	2/17	70	138	197.1%
	講演会②「白隠　江戸社会の変革者」	2/25	70	124	177.1%
	座談会「白隠の絵をとことん語る」	3/4	70	126	180.0%
	臨済宗妙心寺派の僧侶による白隠さんのお話し	2/23、3/2、3/9、3/16、3/23（全15回）	－	359	－
交流事業	Shizubi Project		計3本　33,640人		
	Shizubi Project 6 「彼方へ　國府理・林勇気・宮永亮」	3/28－6/18（内今年度分のみ）	－	33,519	－
	アーティストトーク	6/4、6/18（今年度分のみ）	－	24	－
	映像と音楽によるライブイベント	6/17	40	97	242.5%
	Shizubiシネマアワー		計4本　220人		
	シズオカ×カンヌウィーク2017連動企画 Shizubiシネマアワー vol.20「ファインダー越しの世界」 『フリーダ・カーロの遺品　石内都、織るように』	5/6	70	46	65.7%
	シズオカ×カンヌウィーク2017連動企画 Shizubiシネマアワー vol.20「ファインダー越しの世界」 『未来をなぞる　写真家・畠山直哉』	5/7	70	20	28.6%
	Shizubiシネマアワー vol.21 「新しい表現を求めて－ターナーとセザンヌ」 『ターナー、光に愛を求めて』	1/6	70	72	102.9%
	Shizubiシネマアワー vol.21 「新しい表現を求めて－ターナーとセザンヌ」 『セザンヌと過ごした時間』	1/7	70	82	117.1%
	しずびオープンアトリエ		計2本　542人		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ 「龍馬のお手紙を巻き物に仕立てよう！」	8/8－8/20（13日間）	182	371	203.8%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ 「白隠さんの禅画に触れてお軸をつくろう！」	2/17－3/25（12日間）	168	171	101.8%

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			（人）	（人）	（%）
交流事業	しずびチビッこプログラム		計5本　120人		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム アルバレス・ブラボ写真展－メキシコ、静かなる光と時	5/20 （全2回）	20	20	100.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム 没後150年　坂本龍馬	8/26 （全2回）	20	19	95.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム 日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念　デンマーク・デザイン	10/28－10/29 (全4回)	40	41	102.5%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム ウェールズ国立美術館所蔵　ターナーからモネへ	1/20 （全2回）	20	19	95.0%
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム 白隠禅師250年遠諱記念展　駿河の白隠さん	3/21 （全2回）	20	21	105.0%
	暦とあそぶワークショップ		計2本　42人		
	暦とあそぶワークショップ vol.14 「こどもの日の準備をしよう!」	4/29	20	20	100.0%
	"暦とあそぶワークショップ vol.15 「節分だ！鬼のお面をつくろう」	2/3	20	22	110.0%
	プレゼントワークショップ		計4本　86人		
	プレゼントワークショップ vol.21 「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	5/14	20	24	120.0%
	プレゼントワークショップ vol.22 「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」	6/18	20	24	120.0%
	プレゼントワークショップ vol.23 「クリスマスの準備をしよう！」【子ども編】	12/9	20	17	85.0%
	プレゼントワークショップ vol.23 「クリスマスの準備をしよう！」【大人編】	12/10	20	21	105.0%
	その他交流事業		計1本		
	夜店市	8/11－8/13 （3日間）	－	－	－
連携事業	めぐるりアート静岡		計2本　14,978人		
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ	10/17－11/5 (18日間)	－	14,961 （当館分）	－
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐるりアート静岡　まち　ひと　とき、むすぶ　関連事業 アーティストトーク（遠藤美香）	11/5	－	17	－
	■生涯学習センターとの連携事業				
	展示解説付き講座		計2本		
	駿河生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　小鹿学級	8/22	※その他展示解説に含む		
	藁科生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　藁科学級	12/14	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座（講義）※当館学芸員が講師として参画		計11本　591人		
	長田生涯学習センター にっこり子育て　おさだ家庭教育学級 第2回「絵本の絵を読む」	5/25	20	5	25.0%
	長田生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　長田学級 「画家とめぐる地中海沿岸の旅～南仏を中心に～」	6/23	150	108	72.0%

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			（人）	（人）	（%）
連携事業	東部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　東部学級 「名のある風景、名のない山水（信仰と絵画）日本一の山、富士山に登る、富士山を描く－富士山信仰と富士図の展開」	7/11	100	83	83.0%
	西奈生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　西奈学級 「古美術入門　俵屋宗達「風神雷神図屏風」と尾形光琳「紅白梅図屏風」を比較して」	7/12	100	70	70.0%
	南部生涯学習センター 講演会「平和への祈り　シャガールとピカソ」	7/14	30	34	113.3%
	南部生涯学習センター 講演会「永徳か等伯か」	8/4	30	45	150.0%
	東部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　東部学級 「ターナーからモネへ～19世紀イギリス・フランス美術史入門」	10/10	100	79	79.0%
	北部生涯学習センター 「美術史入門講座～ターナーからモネへ～」	12/8、12/15	20	64	320.0%
	大里生涯学習センター 大里心の乙女塾　～女性のための教養講座～ しずび出前講座「浮世絵にみる江戸の猫ブーム　飼い猫、化け猫、招き猫！」	12/13	60	26	43.3%
	西部生涯学習センター しずび出前講座「浮世絵にみる江戸の猫ブーム」	1/17、1/31	20	29	145.0%
	大里生涯学習センター 高齢者学級みのり大学　大里学級 「白隠の生涯と書画」	2/15	90	48	53.3%
	しずび出前講座（座学＋ワークショップ）		**計2本　53人**		
	東部生涯学習センター しずび出前講座「絵本の絵を読む」	11/28、12/5	20	25	125.0%
	西奈生涯学習センター しずび出前講座「絵本の絵を読む」	2/6、2/13	20	28	140.0%
	しずび出前講座（ワークショップ）		**計1本　12人**		
	大里生涯学習センター 出張！しずびチビッこプログラム 「型紙を使ってうちわをつくろう！」	1/28	20	12	60.0%
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業（三館共同事業）		**計4本**		
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 「よくばり箱カメラをつくろう～龍馬の写真から知るカメラの歴史～」（静岡科学館る・く・る主催）	7/2	－	－	－
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 朗読音楽会「月琴で綴る龍馬の手紙」	7/16	※展覧会関連事業に記載		
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 「尾上松也　竜馬がゆく」（静岡音楽館AOI主催）	8/10	－	－	－
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 キニナルスキニナルプロジェクト 静岡室内楽フェスティバル2017 コンサート「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」	11/26	※展覧会関連事業に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト		**計5本**		
	キニナルスキニナルプロジェクト しずびチビッこプログラム	5/20、8/26、10/28・29、1/20、3/21 （計6日・12回）	※交流事業に記載		

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			（人）	（人）	（%）
連携事業	キニナルスキニナルプロジェクト しずびオープンアトリエ	8/8－8/20、 2/17－3/25 （計25日間・50回）	※交流事業に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト 「デンマーク・デザイン」展鑑賞ガイド	9/9－11/12 （56日間）	－	－	－
	キニナルスキニナルプロジェクト めぐるりアート静岡 まち　ひと　とき、むすぶ	10/17－11/5 （18日間）	※別項に記載		
	キニナルスキニナルプロジェクト 静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 静岡室内楽フェスティバル2017 コンサート「フルートとピアノで聴く　めくるめくフランスの風景」	11/26	※展覧会関連事業に記載		
	その他連携事業		計2本　2,004人		
	Kids Art Project Shizuoka	4/1－3/31	－	877	－
	JR東海「アート＆トレイン」	7/14－12/10	－	1,127	－
その他事業	**調査研究事業**		計1本		
	「没後一〇〇年　徳川慶喜」展シンポジウム 「徳川慶喜の油彩画を読む－幕府開成所と近代洋画」報告書	3/30	－	－	－
	その他事業		計3本　222人		
	静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山－清水が生んだ彩色木彫の名匠」 【第1期】テーマ：縁起物 【第2期】テーマ：富山作品にみる奈良一刀彫の影響 【第3期】テーマ：神仏	【第1期】 6/22－11/7 【第2期】 11/7－2/21 【第3期】 2/21－6/30	－	－	－
	博物館実習	8/8－8/12 （5日間）	5	4	80.0%
	旧五十嵐邸　竹久夢二展	11/2－11/5 （4日間）	340	218	56.5%
		計	100,325	180,921	180.3%

8－2　過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22（2010）年度		計3本　132日　93,654人	
1	開館記念展<Ⅰ> ポーラ美術館コレクション展　印象派とエコール・ド・パリ	10月2日（土）－11月28日（日） <開館51日間>	38,695人 （759人/日）
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日（土）－1月30日（日） <開館42日間>	34,424人 （820人/日）
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功　祈りと旅	2月11日（金・祝）－3月27日（日） <開館39日間>	20,535人 （527人/日）
●平成23（2011）年度		計5本　261日　131,904人	
1	ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新	4月9日（土）－6月26日（日） <開館69日間>	16,395人 （238人/日）
2	没後150年　歌川国芳展	7月9日（土）－8月21日（日） <開館38日間> ※前期：7月9日（土）－31日（日） 後期：8月2日（火）－21日（日）	30,404人 （801人/日）

	展覧会名	会期	観覧者数
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家　セガンティーニ　－光と山－	9月3日(土)－10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)－12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界 後期：平野富山"彩色木彫"の美)	1月7日(土)－3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)－2月12日(日) 後期：2月18日(土)－3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度		計6本　258日　100,862人	
1	森村泰昌モリエンナーレ　まねぶ美術史	4月7日(土)－6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館る･く･る×静岡市美術館　共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)－8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)－7月22日(日) 後期：7月24日(火)－8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)－10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブール美術館展　モダンアートへの招待	10月27日(土)－12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼　祈りの至宝展	1月2日(水)－2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)－1月20日(日) 後期：1月22日(火)－2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年　ごんぎつねの世界	2月23日(土)－3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度		計5本　260日　156,594人	
1	藤田嗣治　渡仏100周年記念 レオナール・フジタとパリ	4月20日(土)－6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ　開局35周年記念 オディロン・ルドン　夢の起源　幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)－8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術　絵本原画の世界2013	9月14日(土)－10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年　徳川慶喜	11月2日(土)－12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)－11月24日(日) 後期：11月26日(火)－12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念　シャガール展	1月2日(木)－3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)
●平成26(2014)年度		計6本　254日　155,028人	
1	巨匠の眼　川端康成と東山魁夷	4月12日(土)－6月1日(日) <開館44日間>	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－	6月14日(土)－7月27日(日) <開館38日間>	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)－9月23日(火・祝) <開館48日間>	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展－家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)－11月24日(月・祝) <開館45日間>	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展　イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)－1月25日(日) <開館41日間>	16,034人 (391人/日)
6	没後100年　小林清親展　文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)－3月22日(日) <開館38日間>	9,827人 (259人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成27(2015)年度		計6本　256日　155,806人	
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展　名画への旅	4月18日(土)－5月31日(日) <開館39日間>	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま－受け継がれた技と美　南宋から現代まで	6月13日(土)－8月16日(日) <開館56日間>	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年　フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	8月23日(日)－9月27日(日) <開館36日間>	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館　世界の絵本原画コレクション展　絵本をひらくと	10月10日(土)－11月23日(月・祝) <開館39日間>	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展　しあわせの色　たのしい模様	12月5日(土)－1月11日(月・祝) <開館29日間>	7,502人 (259人/日)
6	スター・ウォーズ展　未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)－3月27日(日) <開館57日間>	43,953人 (771人/日)
●平成28(2016)年度		計6本　254日　167,547人	
1	没後20年　ルーシー・リー展	4月9日(土)－5月29日(日) <開館45日間>	17,157人 (381人/日)
2	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6月7日(火)－7月10日(日) <開館30日間>	6,592人 (220人/日)
3	エッシャーの世界	7月17日(日)－8月28日(日) <開館37日間>	36,297人 (981人/日)
4	ランス美術館展　美しきフランス　バロックからフジタへ	9月10日(土)－10月30日(日) <開館45日間>	16,154人 (359人/日)
5	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。　スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日(土)－2月5日(日) <開館65日間>	79,378人 (1,221人/日)
6	夢二と京都の日本画	2月18日(土)－3月26日(日) <開館32日間>	11,969人 (374人/日)
●平成29(2017)年度		計5本　244日　111,134人	
1	アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4月8日(土)－5月28日(日) <開館45日間>	6,208人 (138人/日)
2	没後150年　坂本龍馬	7月1日(土)－8月27日(日) <開館51日間>	50,397人 (988人/日)
3	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9月9日(土)－11月12日(日) <開館56日間>	16,965人 (303人/日)
4	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11月23日(木・祝)－1月28日(日) <開館54日間>	25,503人 (472人/日)
5	白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	2月10日(土)－3月25日(日) <開館38日間>	12,061人 (317人/日)

8－3　静岡市美術館運営協議会

（公財）静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、平成29年度末現在まで計12回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】（敬称略・50音順）

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日－平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤　豊	静岡市校長会（図工美術部会長・観山中学校校長）
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社　デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会（静岡紺屋町名店街理事長）
金原宏行	豊橋市美術博物館館長
小林　忠	学習院大学名誉教授・前千葉市美術館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷　　新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日－平成27年6月18日】	
岩城見一	前京都国立近代美術館館長・京都大学名誉教授
小澤　豊	静岡市校長会（図工美術部会長・観山中学校校長） ＜～平成26年4月1日＞
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社　デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会（静岡紺屋町名店街理事長）
金原宏行	豊橋市美術博物館館長
小林　忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷　　新	宇都宮美術館館長・美術評論家
増田安由	静岡市校長会（図工美術部会長・富士見小学校校長） ＜平成26年4月2日～＞
●第3期【平成27年6月19日－平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社　デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術博物館館長
小林　忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部　功	静岡市中央商店街連合会 （静岡紺屋町名店街代表理事）
増田安由	静岡市校長会 （図工美術部会長・富士見小学校校長）
氏名	肩書
●第4期【平成29年6月19日－】	
片瀬惠子	静岡市校長会 （図工美術部会長・清水庵原小学校校長）
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
金原宏行	前豊橋市美術博物館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡中央図書館調査課長
服部　功	静岡中央商店街連合会 （静岡紺屋町名店街代表理事）
村田眞宏	豊田市美術館館長

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

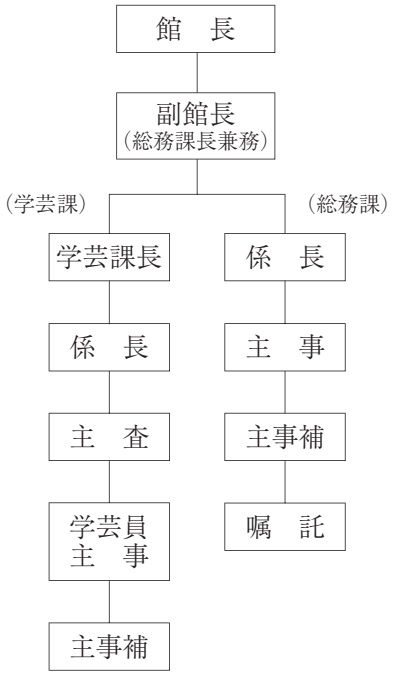
（目的）
第1条　公益財団法人静岡市文化振興財団（以下「当法人」という。）は、静岡市美術館（以下「美術館」という。）の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を設置する。
（任務）
第2条　協議会は、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。
（委員）
第3条　協議会の委員は、専務理事が選定し、理事長が委嘱する。
2　委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。
3　補欠又は増員により選任された委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
4　委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで、なおその職務を行うものとする。
5　委員は別表のとおりとする。
（会長）
第4条　協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により選出する。
2　会長は、会議の議長となり、会務を総括する。
（会議）
第5条　協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時召集する。
2　会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の1週間前までに、書面等により、あらかじめ日時、場所及び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。
3　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
4　会長は、必要と認めた時は協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。
5　副会長は、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（議事録）
第6条　会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。

（庶務）
第7条　協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。
2　美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。
（補足）
第8条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会において定める。

附　則
この要綱は、平成23年6月19日から施行する。
附　則
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
附　則
この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

8－4　組織図・職員名簿

＜組織図＞



＜職員名簿＞（平成29年度）

館　長	田中　豊稲
副館長（総務課長兼務）	望月　重信
（総務課）	
係　長	村上　真琴
主　事	池ヶ谷　志帆
主事補	五島　薫
嘱　託	望月　俊佑
（学芸課）	
学芸課長	以倉　新（近・現代美術）
係　長	吉田　恵理（日本美術）
主　査	山本　香瑞子（日本近代美術）
学芸員	小川　かい（西洋美術）
学芸員	森谷　紗世（教育普及）
学芸員	伊藤　鮎（西洋美術）
学芸員	大石　沙織（日本美術）
学芸員	安岡　真理（教育普及）
主　事	大庭　千恵子（広報）
主事補	岩倉　牧（広報）

8−5　条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

（設置）
第1条　静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

（事業）
第2条　静岡市美術館（以下「美術館」という。）は、次に掲げる事業を行う。
⑴　美術文化に係る展示会の開催に関すること。
⑵　美術文化の教育及び普及に関すること。
⑶　美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
⑷　美術文化に係る調査及び研究に関すること。
⑸　美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
⑹　美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
⑺　前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業
（開館時間）
第3条　美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。
（休館日）
第4条　美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。
⑴　月曜日（当日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日）
⑵　12月28日から翌年の1月4日までの日
（入館の制限）
第5条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。
⑴　公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
⑵　美術館の管理上支障があると認めるとき。
⑶　前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。
（損害賠償の義務）
第6条　美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。
（指定管理者による管理）
第7条　美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって市長が指定するものに行わせるものとする。
（指定管理者の指定の申請）
第8条　指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。
（指定管理者の指定の基準）
第9条　市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するもののうちから、最も効率的かつ
適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。
⑴　事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
⑵　事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
⑶　事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
⑷　管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。
（指定管理者の指定等の公告）
第10条　市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。
（指定管理者の業務の範囲）
第11条　指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。
⑴　第2条に掲げる事業の実施に関すること。
⑵　美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
⑶　前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務
（指定管理者の原状回復の義務）
第12条　指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。
（委任）
第13条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
附　則
この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。
（平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。）

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)
第1条　この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。
(入館者の遵守事項)
第2条　静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。
⑴　火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
⑵　騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
⑶　動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
⑷　美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
⑸　許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
⑹　所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
⑺　所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
⑻　喫煙をしないこと。
⑼　許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
⑽　前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。
(指定管理者の指定の申請書類)
第3条　条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。
⑴　静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
⑵　静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
⑶　定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
⑷　役員名簿
⑸　経営(事業)状況に関する書類
⑹　前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類
(協定の締結)
第4条　市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。
2　前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。
⑴　事業計画に関する事項
⑵　市が支払うべき管理費用に関する事項
⑶　管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
⑷　事業報告に関する事項
⑸　前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項
(雑則)
第5条　この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。
附　則
この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年　月　日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあっては、その代表者の住所)

申請者　名称

代表者氏名　印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針
実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)
実施体制図
特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円

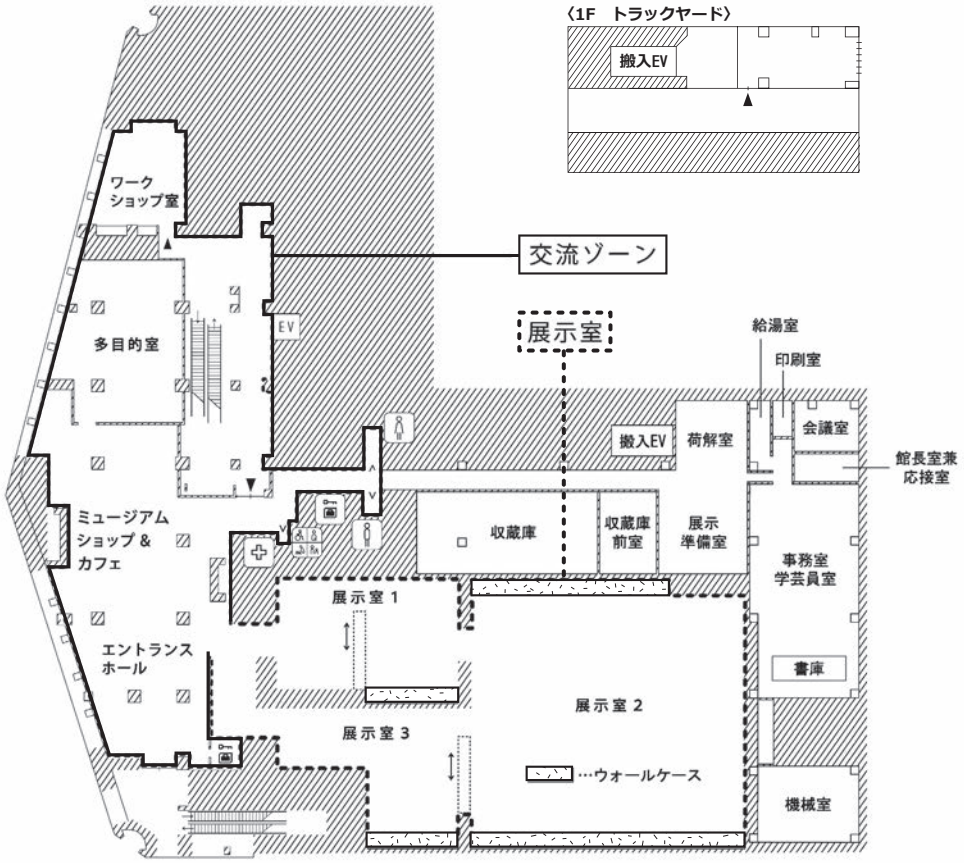
8−6　施設・建築概要

所在地：静岡市葵区紺屋町17番地の１号　葵タワー３階
設置者：静岡市
構造：S造(一部RC・SRC造)
内装設計：株式会社丹青研究所
内装建築工事：株式会社木内建設
延床面積：3,393.22㎡
館内施設：
(展示関係)展示室1：209.76㎡　展示室2：713.03㎡
展示室3：204.17㎡
天井高：4.1m－4.5m
総壁面長(可動壁含む)：290m
床荷重：500kg/㎡
ウォールケース：総長60m（エアータイト型壁面ガラスケース）
(収蔵関係)収蔵庫：141㎡　収蔵庫前室：46㎡
(管理関係)事務室・学芸員室：179㎡　会議室31㎡
館長室兼応接室：19㎡
(交流ゾーン)エントランスホール：612㎡（天井高6m）　多目的室：180㎡（天井高5m）　ワークショップ室：92㎡（天井高3m）
設備：
(電気)[本体ビル]3相3線6.6KV（地中引込方式)、非常用発電設備
(給排水)[本体ビル]給水：上水、雑用水2系統　排水：汚水、雑排水分流方式
(消火)N2ガス消火設備(展示収蔵エリア)、スプリンクラー（その他エリア)、消火用散水栓、消火器、自動火災報知設備
(空調)[本体ビル]ガス焚き吸収冷温水機及び排熱冷温水機(熱源)、4管方式により冷温水供給
[美術館]展示室：エアハンドリングユニット(床置きコンパクト型)
収蔵庫：空冷パッケージ(インバータ・セパレート型)エアコン
その他エリア：ファンコイルユニット

＜静岡市美術館整備費内訳(単位：円)＞

保留床購入費 (葵タワー再開発組合からの占有床購入経費)	￥2,461,200,000
内装・展示工事費	￥859,533,150
(内訳)建築工事費 電気工事費 衛生工事費	￥712,007,100 ￥132,826,050 ￥ 14,700,000
整備費合計	￥3,378,123,924
(内訳)まちづくり交付金(国庫補助金) 市債(合併特例債) 一般財源	￥1,180,000,000 ￥1,571,200,000 ￥626,923,924

施設見取り図



平成29(2017)年度
静岡市美術館　年報 No.8
2019年3月　発行

編集・発行　静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1　葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷　株式会社アプライズ

©Shizuoka City Museum of Art 2019